

神戸大学 発達科学部
神戸大学大学院 人間発達環境学研究科

神戸大学 発達科学部 神戸大学大学院 人間発達環境学研究科 2013



〒657-8501 神戸市灘区鶴甲3-11
TEL 078-803-7924(教務学生係)
FAX 078-803-7929
<http://www.h.kobe-u.ac.jp/>

2013

Contents

つながる 未来の世界に

発達科学部・人間発達環境学研究科キャンパスにて
観察された二重虹(2009年6月5日撮影)

沿革	2
学部長あいさつ	3
発達科学部	5
人間形成学科	12
心理発達論 コース	18
子ども発達論 コース	20
教育科学論 コース	22
学校教育論 コース	24
人間行動学科	26
健康発達論 コース	32
行動発達論 コース	34
身体行動論 コース	36
人間表現学科	38
表現文化論 コース	44
表現創造論 コース	46
臨床・感性表現論 コース	48
人間環境学科	50
自然環境論 コース	56
数理情報環境論 コース	58
生活環境論 コース	60
社会環境論 コース	62
発達支援論 コース	64
ESD サブコース	67
人間発達環境学研究科	69
心理発達専攻	74
心理発達基礎論 コース	76
臨床心理学 コース	78
健康発達論 コース	80
教育・学習専攻	82
教育科学論 コース	84
子ども発達論 コース	86
発達支援論 コース	88
人間行動専攻	90
身体行動論 コース	92
行動発達論 コース	94
人間表現専攻	96
表現文化論 コース	98
コミュニティアート コース	100
人間環境学専攻	102
自然環境論 コース	104
数理情報環境論 コース	106
生活環境論 コース	108
社会環境論 コース	110
環境先端科学(連携)講座(後期課程のみ)	112
附属組織と附属施設	113
ヒューマン・コミュニティ創成研究センター	114
心理教育相談室	116
サイエンスショップ	117
キャリア形成支援	118
発達キャンパス	122
施設紹介	124

発達科学部・人間発達環境学研究科の沿革

- 1874年 5月 兵庫県師範伝習所設置
- 1877年 1月 神戸師範学校と改称
- 1886年 9月 兵庫県尋常師範学校と改称
- 1897年10月 兵庫県師範学校と改称
- 1900年 4月 兵庫県第一師範学校と改称
- 1901年 2月 姫路に兵庫県第二師範学校を設置
- 1901年 8月 兵庫県第一師範学校を兵庫県御影師範学校と改称
兵庫県第二師範学校を兵庫県姫路師範学校と改称
- 1902年 2月 兵庫県明石女子師範学校設置
- 1936年 4月 兵庫県御影師範学校と兵庫県姫路師範学校を兵庫県師範学校として統合
- 1943年 4月 兵庫師範学校として兵庫県明石女子師範学校を包括し国立移管
- 1944年 4月 兵庫青年師範学校国立移管
- 1949年 5月 兵庫師範学校と兵庫青年師範学校を統合し神戸大学教育学部として発足
- 1992年10月 神戸大学教育学部を改組し、神戸大学発達科学部を設置
- 1997年 4月 神戸大学発達科学部と神戸大学国際文化学部を基礎とした
神戸大学大学院総合人間科学研究科修士課程を設置
- 1999年 4月 神戸大学大学院総合人間科学研究科博士課程後期課程設置
- 2005年 4月 神戸大学発達科学部3 学科12 講座を4 学科6 講座に改組
- 2005年 4月 総合人間科学研究科発達支援インスティテュートを設置
- 2007年 4月 神戸大学大学院総合人間科学研究科を改組し、
神戸大学大学院人間発達環境学研究科を設置



新たな 領域開拓への挑戦

発達科学部長・人間発達環境学研究科長
朴木 佳緒留教授

発達科学部が成立して20年、人間発達環境学研究科は5年が経ちます(2007年に総合人間科学研究科を改組)。この間、私たちは人間の発達(development)と人間発達を取り巻く環境の発展(development)を対象として、教育・研究に取り組んできました。人間発達及び環境に関わる問題はいずれも複雑系に属し、一朝一夕に答えがでるような事柄ではありません。しかし、それらを課題として、また対象として設定することに、私たちはある種の誇りを感じています。

今日では、エコロジーが日常的な課題として人々に意識され、そして人間の発達も単純に、階段を登るように進行するものではないことが了解されつつあります。私たちは、このような問題にいち早く取り組み、新たな領域の開拓に挑んできたと自覚しています。その成果についての評価は他者に委ねますが、少なくともこの間、地域の人々と協働し、また国際的な連携も行ってきました。

発達科学部、人間発達環境学研究科は理論と実践、原理と応用、文系と理系等々の異なるものを包容し、ともに学び、ともに汗を流して研究する人々を求めています。多様な価値が共存するとはどういうことか、変わらぬものと変わるものをどう捉えるか等々の問題群を前にして、問を立てる楽しみを学生の皆さんと分かち合いたいです。



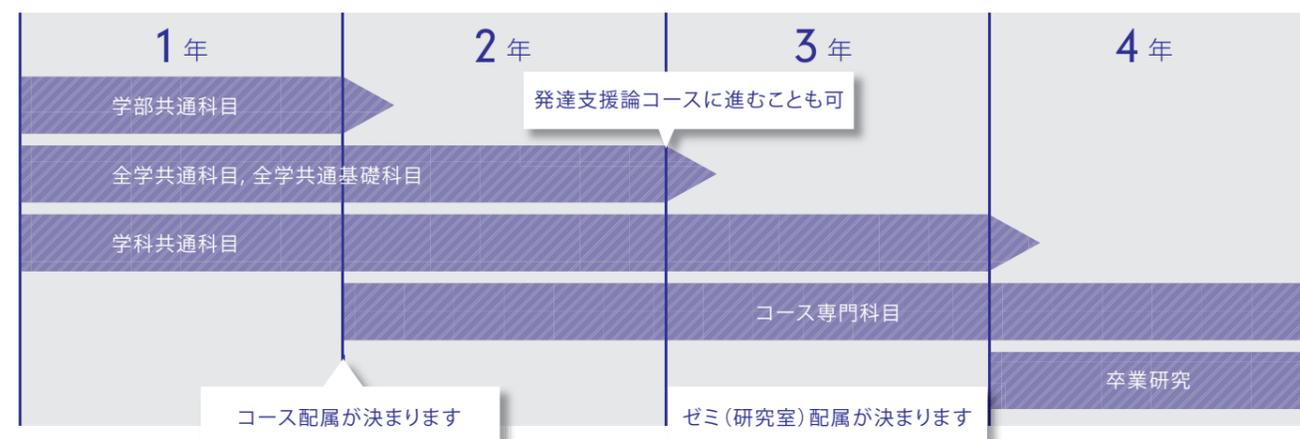


神戸大学 発達科学部

Faculty of Human Development



カリキュラムの特色



高い専門性を育成し、視野を広げます

発達科学部は、広い知識と豊かな教養を授けるとともに、乳幼児期から高齢期に至るまでの人間の発達及びそれを取り巻く環境について様々な側面から教育研究し、これらに関する専門的知見及び問題解決能力をもった、自律的な人材の養成を目指しています。1年次の学部共通科目「発達科学への招待」で発達科学が目指すものは何かを考えます。2年次から希望するコースに進み、各コースにおける豊富なコース専門科目を通して確実な基礎知識を修得します。さらに、セミナー形式の少人数による授業、実験や実習を伴う授業を通して専門性を高めていきます。卒業研究を始める段階でゼミ(研究室)に配属され、指導教員のもとで専門分野からテーマを選び卒業研究を行います。発達科学部では、講義のみではなく、豊富なセミナー、演習、実験、実習、実践形式の授業を通して、学生は主体的に専門分野の学習と研究に取り組みます。

コースに進んだ後も、学科共通科目や所属するコース以外のコース専門科目も履修でき、学問的な視野を広げることができます。幅広い知識を得て、それを自分の専門分野に活かすことができ、また自分の専門以外の分野との関わり方や他分野への応用についても考えることができます。

3年次からは、地域組織、NPO、行政、企業、学校などと共同して実践的な課題に取り組む、発達支援論コースへ進むことも可能です。また、自分のコースに所属しながら、ESD(Education for Sustainable

Development, 持続可能な開発のための教育)サブコースで体験的な学習に取り組むこともできます。

これからの社会では、専門分野の枠を超えた人々が協調して、困難な問題を様々な視点から解決していくことが求められます。発達科学部は、高度な専門性をもち、文系・理系(学問領域)の枠を超えた幅広い視野を身につけた人材を育成します。このため、卒業後は多種多様な方面へ進むことが可能です。発達科学部は、キャリア形成支援のための「キャリアサポートセンター」を開設し、専任のキャリア開発アドバイザーが、就職活動を中心とした学生のキャリア支援を積極的に行っています。



発達科学部の魅力

学問領域を超え 新しい学問の創造を目指します

発達科学部は既成の学問領域にとらわれることなく、「人間」に焦点をおいた、学際的、応用的、実践的な、新しい学問の創造を目指しています。学生は文系、理系を問わず、幅広い領域の学問にふれ、人間の発達とそれを支える環境に関わる現代的な課題を追究します。教員や学生同士で密接なコミュニケーションをとる少人数教育を通して、課題の解決を展望する学習を行います。新たな学問の創造を目指す発達科学部は開放感にあふれています。



発達科学部の求める学生像

発達科学部では、乳幼児期から高齢期に至るまでの人間の発達及びそれを取り巻く環境について、様々な側面から教育研究を行っています。そして、人間の発達や環境に関する諸問題をとらえ、解決するための専門的知見と問題解決能力を養成することを目指しています。そのために、次のような学生を求めています。

- 人間の発達やそれを取り巻く環境に興味をもち、人間形成、人間行動、人間表現、人間環境のいずれかの視点から、新しい学問領域を開拓する意欲のある学生
- 人間の発達や環境に関する現代的課題に主体的にかかわることを希望する学生
- 高等学校等までの基礎的学力を幅広く身につけており、専門的な知識を積極的に学んでいける学生
- 自ら問題を発見し、その問題を多面的にとらえて考察し、自分の考えをまとめる基礎的な能力を有する学生

一入学して1年、
どんな生活でしたか？

河野：大学に入って新しい生活に戸惑いを感じましたが、自分から勇気を出して一歩踏み出せば人間関係がどんどん広がって、今ではサークルやバイト、友達と毎日充実した生活を送っています。

服部：僕は入ってまず学科の新歓を企画して50人くらいでボーリングに行きました。たくさんの人と知り合えたり、深くずっと関わられる仲間ができました。また軽音楽部に所属して、厳夜祭でのライブを成功させることができました。

春日：いろいろな芸術に触れて自分の興味をもっともっと広げられました。教授のダンスパフォーマンスで衣装作りをしたり、厳夜祭でアートバーを先輩と企画したり、色々なイベントに参加して自分を高められましたね。

菫石：私は大学からフットサルを始めました。またスポーツサークルにも入っているいろいろなスポーツをしています。あとはスポーツのイベントに参加したり、神戸の街を散策したり遊びも充実した1年でした。

岩崎：今までは夜の仕事が長かったので、大学に入ってから単純に朝の通学に慣れるまでが大変でした。でも、もともと中卒で、そこから高卒認定を取りこままで来たので、学校に通える幸せはそれ以上のものだと感じて毎日を過ごしています。

一所属学科の魅力を
教えてください

河野：形成学科は教員を目指している人と心理学を勉強したい人がいて違う考えを持っている人たちがいるのでいい刺激になりますね。私は小学校の先生になりたいと思ってずっと教育学部を目指してきたんですけど、恩師の先生にたくさん吸収している人々と出会った方がいいよ、と言われてこの学科を目指そうと決めました。小学校の先生になるにも確かに心理学の知識も必要だし、他にも必要な知識が増えるのは、この学科のいいところだと思います。

服部：環境学科は他のどの学科よりも入り方が多様で、また1年での選択授業がいちばん多いと思います。どのコースに行くにも文系理系の素養が必要で、文系理系の壁をとっばらって勉強できるのにはいちばんいいところですね。

春日：表現学科では個性あふれる仲間と刺激合いながら、自分の専門外の芸術に触れられるところが魅力です。僕はダンスパフォーマンスの衣装づくりをきっかけに最近ではファッションに興味を持ちはじめました。この学科で学ぶうちに自分の知らなかった新たな自分のやりたいことを見つけてることができるんじゃないかなと思っています。

菫石：行動学科の勉強は、例えば単にスポーツと言っても生理学、社会学、心理学など色々

な分野からの勉強があり、また健康維持や高齢者の行動の研究など、それぞれが自分の興味のある分野に分かれて研究できるのがいいところだと思います。

岩崎：自分の専門だけではなく色々な種類の芸術に触られる事が1つ。あと総合大学なので他学科・他学部の授業を自分で系統立てて受講することも合理的かつ効率的にすすめていけると思います。そういった部分は最大の魅力だと思います。

一卒業までに自分がしたいことや
目標はありますか？

河野：小学1年生みたいなの目標ですが、友達100人つくることです。サークルや学科だけでも余裕だともうんですけど、その中で広く浅くならずに一生続いて行ける友達や仲間を見つけていきたいです。

服部：僕の所属する軽音部二部は夜間学生のための部活だったんですが、夜間学生がいなくなるので、今存続の危機にあっています。僕は部長としてこの部活を大きくしていい部活にしたいです。

春日：僕は芸術のイベントにたくさん参加して新しい自分を見つけていきたいです。そこで出会う人や同じ芸術をしている人たち、違う芸術をする人たちとお互いに自分を高め合っていけたらいいなと思っています。

菫石：スポーツが好きなのでずっと続けていきたいです。それだけでなくスポーツのイベ

ントに参加して、多くの人がスポーツの楽しさを味わえるような大会作りやそのようなイベントの社会学的な影響を勉強したいと思っています。

岩崎：僕はずっとオーストラリアでコメディや音楽、ショートフィルムなどを仲間とつくって生活してきました。それを自分たちの手で世の中に出していきたいです。やはり芸術をやる人間としてそういう発表の場があると思うので、その基盤をつくっていききたいです。そのためにはこの学校で学べることがあると思います。学びながら先生に助言をいただいて、いつか成功させたいですね。

一どのような受験勉強を
してきましたか？

河野：私は1年浪人していて、現役の時は塾に通っていませんでした。現役の時は、教科書があるのに自己流のまとめノートをつくることに時間をかけて、演習はほとんどしていなかったことが反省点だったので、浪人して予備校に通い始めてからはひたすらいろいろな色本や赤本を使って演習していました。

服部：僕は家計的に私立大学の受験を考えてなくて、高校3年の夏まで塾にも行ってなかったんです。でも浪人もできないし、この1年にかけて、使える物は使おうと決めて夏期講習から受けてそのまま受験まで受けました。ずっと神大を目指してきたので、とにかくセンターに賭けようと思って得意分野よりもひたすら苦手科目のつぶしでした。何度も同じ問題集を解いて解き方を覚えて、今日はこのページまでするぞって決めて、終わったらもう寝るっていう感じでした。

春日：僕は美術の実技受験だったので、勉強は

学校でやって放課後は3時間週6回画塾に通って絵を描いていました。センターに力を入れて苦手な数学の強化を徹底的にして、センター後は2次の英語と実技に集中していました。

菫石：行動学科を受験すると決めて、色々調べたら、AO入試があることを知って、一般受験を念頭に置きながら夏頃から1次試験の対策に取り組む、その後センターや2次の勉強と並行しながら面接の練習を何度もしました。私は高校のときに生徒会や学園祭などの課外活動に励んだことと面接できちんと話すことができる自信があったので、自分を活かす受験をできたのがよかったです。

岩崎：社会人受験はセンター試験がなく、志望動機、経歴、推薦文、面接、学科受験としては英語を課せられました。英語は辞書持ち込み可でしたが、本番はあせて上手く使えなかったですね。内容としては新聞や学術雑誌からの記事が多いように思います。事前に辞書で調べながら内容を理解できるように訓練しておけばいいと思います。あとは英語に慣れるために英語の映画を英語字幕で観ていました。志望動機などは、本当に自分が思うままに真剣に伝えました。

一では、最後に受験生へ
メッセージを一言。

河野：浪人のときは静岡で一人暮らしをしていました。現役のときは自分が受かるために周りが見えなくなりましたが、浪人して一人暮らしを始めてから、ほんとに周りの人の支えが大きいんだと実感しました。予備校の友達や家族からの電話と手紙が自分はひとりじゃないっていつも励ましてくれていました。もちろんつらいこともあ

るけど、周りに感謝してがんばってほしいです。

服部：『1年間さぼってこの先30年苦勞するか。1年間必死にがんばってこの先30年楽するか』そう恩師に言われました。ほんとに極論だとは思いましたがその言葉を聞いて、自分はここに行くって決めたことを絶対叶えようと思いました。つらいことはいっぱいあると思います。でもそんなときこそ絶対負けたくないと思う気持ちや、誰かを見返すぞっていう気持ち、逆境をチャンスに変える力をもってほしいですね。

春日：実技受験は勉強と実技を両立させなくてはなりません。みんなはずっと勉強していて、どんどん学力が離されていってすごく焦るんです。何度も学科受験を考えたり、絵を描いていると不安にもなったことがありました。でも、両立できたという事実はきっと自分の自信になるし、大学に入ってから自分の芸術を磨く糧となります。ぜひ諦めずにがんばってください。

菫石：自分が将来何になるか、どんな生活を送るか、それはどんなに想い描こうが絶対に入ってみないとわかりません。自分が決めたことにプラスされるエッセンスはきっとあるはず。自分はここに合格するって強い意志を持つ事がいちばんのお守りだと思います。受験は学力だけでなく、そんな強い意志を大きくする絶好のチャンスです。自信をもって突き進んでください。

岩崎：学びたい事や志望動機、試験形式もそれぞれ違いますよね。自分が勉強しようと思う事に近い分野の高校の教科書一通り読んでおくと、あとで良かったと思うことがありました。入学後、社会人特有の悩みもでてくるかもしれませんが、それを上回る素敵な4年間になればいいですね！

学科の魅力や学生生活、受験勉強を振り返り、
新入生5人が語ってくれました。

新入生が語る発達科学部



河野 夏希 さん
人と向き合っていくのがこの学科です。受験期も入学後も、人との出会いに感謝しましょう。



服部 隆幸 さん
勉強も大事ですが、一瞬一瞬を大切に全力で楽しんでください！



春日 賢二 さん
個性あふれる魅力的な仲間と共に、自分の夢を探求していきましょう！



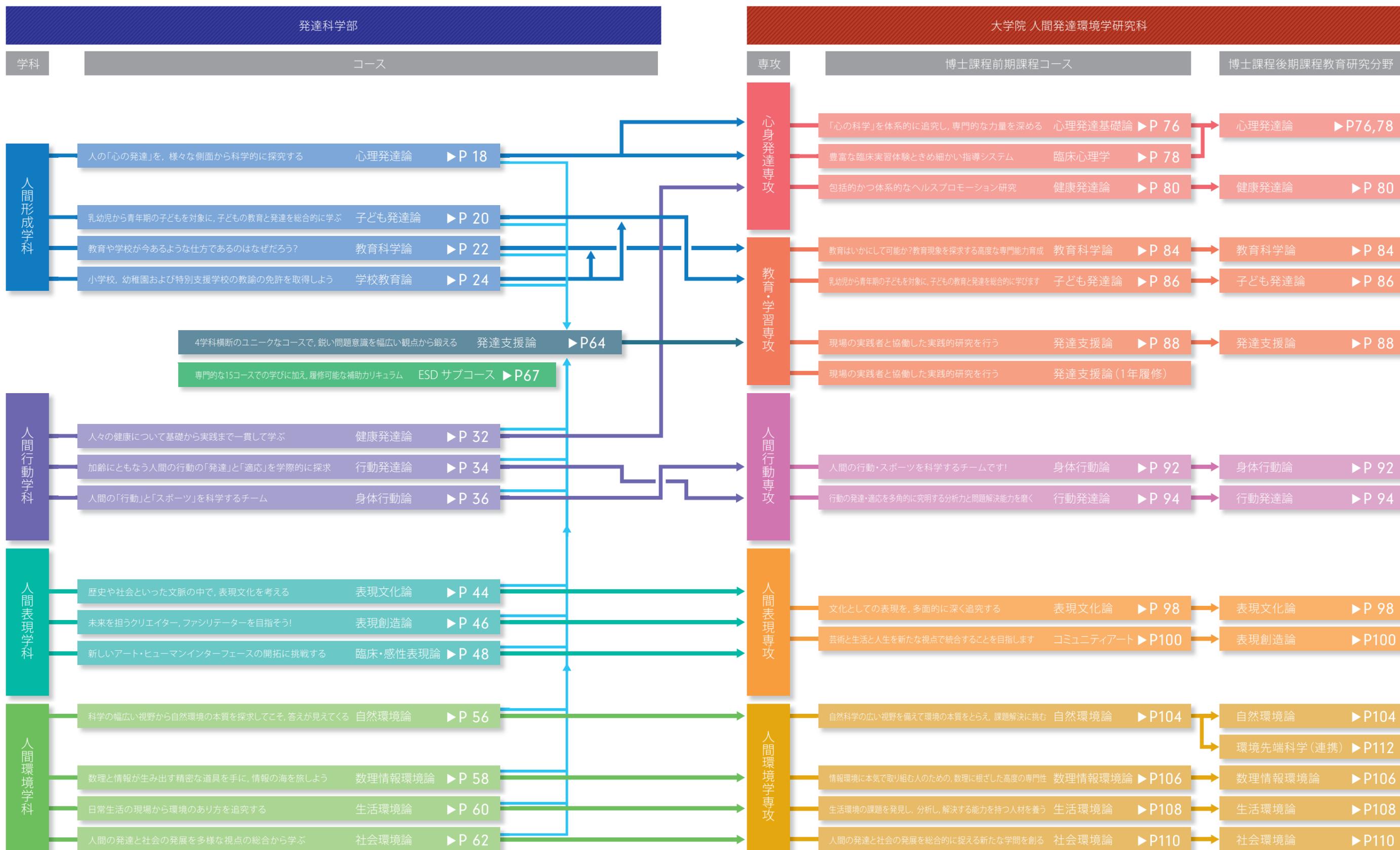
菫石 育美 さん
何事にも行動力の大切さを実感しました。まずは一歩、勇気をだして進んでみましょう！



岩崎 亮平 さん
入学してから戸惑いもあるかもしれませんが、共にたのしんでいきましょう！

2011年11月に、2011年度入学生5名にインタビューを行いました。





人間形成学科

人としての育ちを「発達」と「教育」から探究する

学科の理念

人間の誕生から高齢期に至るころ及び諸能力の発達並びに人間形成に関わる諸要因について、社会的及び文化的な観点から教育研究を行い、教養並びに心理、発達、教育及び学習に係わる専門的な知識を身に付けた人材を養成することを目的とします。

学科の特色

社会と歴史の中で発達する人間の姿を捉える

人は相互に支え合いながら成長・発達しています。文化とは、そのような社会的関係の歴史的な所産です。人間形成学科では、社会と歴史の中で生活している人間(子ども)の心や身体の発達、自然認識や社会認識の発達、言語や芸術表現の発達などを探究しています。また、人間(子ども)の発達を支える社会システムの歴史や制度について、学校教育と深く結びつけて探究しています。



人間の発達と支援の関係を総合的に捉える

人間(子ども)の発達には前進だけでなく、停滞も退行もあります。それが私たちの発達の実相です。したがって、発達を支援する方法やシステムを考える場合には、問題を幅広い視点と時間軸で捉え、総合的に取り組んでいく必要があります。人間形成学科では、4つのコースが有機的に結びついて、人間(子ども)の発達とその支援のあり様を総合的に分析し、具体的かつ実践的に探究しています。



教員志望の学生の強い味方になる

人間形成学科は、人としての育ちを「発達」と「教育」から探究する学科ですが、とくに「学校教育」との強い結びつきを特色としています。幼稚園、小学校、特別支援学校の教師を目指す人には、これらの学校の教員免許状の取得に特別に配慮したコース(学校教育論コース)が用意されています。そこでは、他コースの科目も学ぶことで、すぐれた教師へと旅立つ資質が養成されています。

履修コース

人の「心の発達」を、様々な側面から科学的に探究する

心理発達論 コース

定員:30名

▶P18



乳幼児から青年期の子どもを対象に、子どもの教育と発達を総合的に学ぶ

子ども発達論 コース

定員:20名

▶P20



教育や学校が今あるような仕方であるのはなぜだろう?

教育科学論 コース

定員:20名

▶P22



小学校、幼稚園および特別支援学校の教諭の免許を取得しよう

学校教育論 コース

定員:30名

▶P24



主な取得可能な資格免許

*全ての学科に共通の資格免許

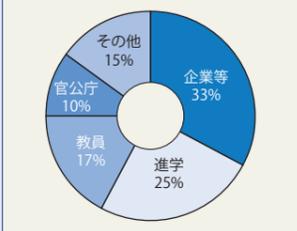
- ・幼稚園教諭一種免許状
- ・学芸員*
- ・社会福祉主事任用資格*
- ・小学校教諭一種免許状
- ・社会教育主事*
- ・環境再生医資格*
- ・特別支援学校教諭一種免許状

学科長からのメッセージ

学科長 稲垣 成哲教授
(教育科学論コース)

人間形成学科では、人が生活の中で相互に支え合いながら、人として育ち、育てられていくプロセスを理論的、実証的に探っていきます。人は一生の間に、いろいろな世界やたくさんの人たちと出会い、「新しい自分」をつくりあげていきます。私たちは、いつの間にか能力や価値観を身につけているように思いますが、実際には、そこには、さまざまな発達のメカニズムがはたらいているのです。また、人間の発達は、社会や文化のありようと無関係ではありません。インターネット時代の子どもは、親の世代とはコミュニケーションのとり方も、身につける知識や技術も大きく変わっているはずですが、人間形成学科では、このような社会・歴史的な観点から、人の発達とその条件について、また社会がかかえる問題の解決策について、探究していきます。



	1年	2年	3年	4年	卒業後			
学部共通科目	学部共通科目		発達支援論コースに進むことも可		進路状況  <small>(平成22年度卒業者のデータ)</small>			
全学共通科目, 全学共通基礎科目	全学共通科目, 全学共通基礎科目							
学科共通科目	学科共通科目		コース専門科目					
	コース配属が決まります		ゼミ(研究室)配属が決まります					
			卒業研究					
全学共通科目	<ul style="list-style-type: none"> ● 教養原論 ● 外国語科目 	<ul style="list-style-type: none"> ● 情報科目 ● 健康・スポーツ科学 						
学部共通科目	● 発達科学への招待							
学科共通科目	<ul style="list-style-type: none"> ● 心理学入門 ● 発達心理学概論 ● 子ども発達論 ● 子ども教育論 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教育学概論 ● 教育心理学 ● 臨床心理学 ● 異文化教育論 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生涯学習論 ● 教育ディベート入門 ● 教職論 	<ul style="list-style-type: none"> ● 道徳教育論 ● 乳幼児発達論 ● 児童心理学 ● 青年心理学 ● 児童青年精神医学 ● 発達障害心理学1 	<ul style="list-style-type: none"> ● 発達障害臨床学1 ● 相談心理学 ● 認知発達論 ● 算数教育論 ● 初等体育論 ● 音楽表現発達論 	<ul style="list-style-type: none"> ● 造形表現発達論 ● 児童言語教育論 ● 教育制度概説 ● 初等社会科教育論 ● 発達支援論研究 	<ul style="list-style-type: none"> ● 幼児精神衛生論 ● カウンセリング ● 教育の歴史人類学 ● 科学技術社会と教育 ● 人間形成学特講 ● 情報化社会と教育 ● 人間形成学特講 	
心理発達論		<ul style="list-style-type: none"> ● 心理学研究法1 ● 外書講読 ● 心理検査法1 ● 心理統計法 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人間関係発達論 ● 教育発達心理学 ● 深層心理学 ● 障害児発達学 	<ul style="list-style-type: none"> ● 発達障害心理学2 ● 発達障害臨床学2 ● 科学教育論 ● 子ども社会論 	<ul style="list-style-type: none"> ● 心理学研究法2 ● 心理検査法2・3 ● 生涯発達心理学 ● 人格形成論 	<ul style="list-style-type: none"> ● 障害児指導学 ● 心理発達論演習A・B・C ● 知的障害の心理・生理・病理演習 	● 心理学研究法3	<input checked="" type="checkbox"/> 心身発達専攻 <input type="checkbox"/> 心理発達基礎論 <input type="checkbox"/> 臨床心理学
子ども発達論		<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもの発達 ● 子どもの心と教育 ● 子どもと生活 ● 子どものからだづくり ● 子どもの認識 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもの表現 ● 子どもの表現教育 ● 子どもとメディア ● 子どもの発達支援 ● 児童福祉論 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子ども社会論 ● 心理統計法 ● 人間関係発達論 ● 教育制度 ● 異言語指導論 	<ul style="list-style-type: none"> ● 外書講読 ● 子ども発達論演習1・2 ● 数理解論発達論 ● 子どもスポーツ論 	<ul style="list-style-type: none"> ● 幼年音楽論 ● 美術教育史論 ● 乳幼児認知発達論 ● 造形発達論 	● 子ども発達研究法1・2	<input checked="" type="checkbox"/> 教育・学習専攻 <input type="checkbox"/> 子ども発達論
教育科学論		<ul style="list-style-type: none"> ● 教育学研究法1~8 ● 教育思想史 ● 日本教育史 ● 教育制度 ● 教育政策 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教育方法学 ● 学習指導論 ● 科学教育論 ● カリキュラム論 ● 社会教育論 	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会教育計画論 ● 授業システム論 ● 教育哲学 ● 異言語指導論 	<ul style="list-style-type: none"> ● 外書講読 ● 教育科学論演習1・2 ● 教育法 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教育行政学 ● 生活指導論 ● 社会科教育方法論 	● 教育科学研究1・2	<input checked="" type="checkbox"/> 教育・学習専攻 <input type="checkbox"/> 教育科学論
学校教育論		<ul style="list-style-type: none"> ● 教育哲学 ● 学習指導論 ● 教育政策 ● 学習障害等教育総論 ● 異言語指導論 ● 教育思想史 ● 自然教育論 ● 生活科教育論 ● 国語教育方法論 	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会科教育方法論 ● 理科教育方法論 ● 算数教育方法論 ● 生活科教育方法論 ● 音楽表現教育方法論 ● 造形表現教育方法論 ● 幼児環境指導法 ● 幼児健康指導法 ● 幼児人間関係指導法 	<ul style="list-style-type: none"> ● 幼児言語表現指導法 ● 教育方法学 ● カリキュラム論 ● 授業システム論 ● 特別活動指導法 ● 障害児発達学 ● 発達障害心理学2 ● 発達障害臨床学2 ● 特別支援教育総論 	<ul style="list-style-type: none"> ● 幼児教育内容論 ● 学校教育資料調査法 ● 子ども発達論演習1・2 ● 教育科学論演習1・2 ● 初等家政学概論 ● 家庭科教育方法論 	<ul style="list-style-type: none"> ● 運動教育方法論 ● 幼児音楽表現指導法 ● 幼児造形表現指導法 ● 教師教育史論 ● 教育法 ● 教育行政学 	● 子ども発達研究法1・2 ● 教育科学研究1・2	<input checked="" type="checkbox"/> 教育・学習専攻 <input type="checkbox"/> 子ども発達論 <input type="checkbox"/> 教育科学論

コース配属について

2年次より履修コースに所属します。各履修コースの定員は次のとおりです。1年次終了時に行うガイダンスで希望を調整し、履修コースを決定します。

心理発達論 コース	30名
子ども発達論 コース	20名
教育科学論 コース	20名
学校教育論 コース	30名

ゼミ配属について

3年次からゼミ(研究室)に所属します。4年次には、指導教員の下、所属するゼミ(研究室)で卒業研究を行います。各履修コースで定められたルールに従って、所属するゼミを決定します。

さらに学びたい人は
大学院に進学

心身発達専攻 心理発達基礎論
 臨床心理学

教育・学習専攻 子ども発達論

教育・学習専攻 教育科学論

教育・学習専攻 子ども発達論
 教育科学論

OB&OG INTERVIEW

INTERVIEW 01

西宮こども家庭センター
 大津市総合保健センター 勤務

稲田 さやか さん
 (2009年3月卒)



学部と大学院での学びを活かし、人と向き合う専門職に就いて

現在、私は週4日は西宮こども家庭センターで心理判定員、週1日は大津市総合保健センターで発達相談員として勤務しています。前者では療育手帳にかかる心理判定や、発達相談を主に担当しています。プレイセラピーを継続しているケースもあります。後者では乳幼児健診で、発達面の検査や発達相談を担当しています。希望通りに、子どもに関わる仕事に就くことができ、先輩に指導して頂きながら、勉強の日々です。

学部では心理学だけでなく教育学など幅広く学び、教員免許も取得しました。さらに、大学院ではより専門的な授業や実習で実践的に学びました。実践的な学びのなかでも最も印象に残っているのは、心理教育相談室での面接と児童養護施設でのプレイセラピーです。授業やスーパーバイズを通して学んだ心理士としての姿勢が、現在の自分の軸になっていると実感します。

今後も専門性を磨きながら、「生きにき」を抱えている人が少しでも生きやすくなるような支援をしていきたいと思っています。

INTERVIEW 02

ひかりのくに株式会社 勤務

長田 亜里沙 さん
 (人間発達科学科2004年3月卒)
 (発達科学部は2005年4月に3学科を4学科に改組しました。
 人間発達科学科は現在の人間形成学科の前身です。)

仕事の喜びと重責の中で

現在、保育図書の編集をしています。「子どもに関わる仕事がしたい」、「本が好き」、「何かを作りたい」これらの思いが、編集の仕事を目指した原点です。

先生方をはじめ多くの方の励ましに支えられて就職できました。先輩方のご指導を受けて、現場の保育者の声を聞き、本を作っています。タイトルひとつで本の売れ行きが変わり、一語、一文字で文章の意味もニュアンスも変わってきます。

発達科学部では、卒業論文では若狭出身の女性詩人の生涯と詩を研究しました。詩を綴る中で児童劇を発見していったその女性詩人の、言葉やリズムから伝わる思いを感じ取ることを、論文作成を通じて経験させてもらえたように思います。

今日、言葉、文章のおもしろさと難しさを、読者(受け手)と著者(作り手)の橋渡しという立場で、改めて感じています。

本という形にすることは一筋縄ではいきませんが、少しでも多くの保育者のお役に立てる本を作れば、と考えています。

INTERVIEW 03

国立国会図書館 勤務

真子 和也 さん
 (人間発達科学科2006年3月卒)
 (発達科学部は2005年4月に3学科を4学科に改組しました。人間発達科学科は現在の人間形成学科の前身です。)



学校教育に疑問を感じたことのある方におすすめのコースです

私は、大学入学前から現代の学校教育制度の画一性に疑問を持っていましたので、教育科学論を志望しました。それが日本経済の発展に貢献したことは否定しませんが、もっと自由なやり方があってよいと思っていました。こうした拙い問いに対して、コースの先生方は、多くの素材を提供しながら、自分の頭で考えるよう促してくれました。

私は現在、国立国会図書館に勤務しています。今の仕事は、「立法調査業務」というもので、国会議員からの依頼に対して、図書館の蔵書や各種のデータベースを用いて作成した報告書を提供したり、将来国会で話題になりそうなテーマについて調査論文をまとめたりしています。常に複数の調査案件を抱え、書庫とデスクとの往復に明け暮れる毎日です。

学生時代に得た知識は社会でそのまま役立つものではありませんが、発達科学部で自分の頭で考える力を培ったことは、仕事の上でも、社会人として生活していく上でも、とても大きな財産となっています。

INTERVIEW 04

神戸市の小学校 勤務

原田 麻衣 さん
 (2010年3月卒)



かけがえのない仲間と共に夢を実現できた大切な場所

現在、私は小学校教員として働いています。教員は小学生の時から夢でした。発達科学部に入学した時は、周りに知り合いもなく、不安もありましたが、学校教育論コースに入ったことでかけがえのない仲間に出会いました。

教育実習の時は、夜遅くまで残ってみんなで授業の指導案を検討したり、大学での講義では、グループに分かれて乳幼児の遊びを考えて発表したりしました。一人では成し遂げられなかったことも、信頼している仲間と共に取り組むことではじめて出来たことが数多くありました。授業以外でも、コースやゼミの仲間と公私共に楽しく充実した大学生活を送ることができました。そんな環境の中で、私は人と人との繋がりの大切さを改めて実感し、教師として、子どもたちにそのことを伝えていきたいと思いました。

今後は、子どもと一緒に遊ぶことや、子どもに近い立場で関わっていけることを最大限に生かし、子どもと共に成長していける教師になりたいと思っています。

主な進路・主な資格免許の取得状況

心理発達論 コース

主な進路

さらに学びたい人はp. 76, 78へ。

- | | |
|--|--|
| 2011年度
・伊藤忠丸紅鉄鋼
・エー・ピー・シー開発
・関西アーバン銀行
・ココロ発達療育センター
・コヴィディエンジャパン
・大都産業
・東京海上日動火災保険
・兵衛向陽閣
・兵庫県信用組合
・JA共済連愛知
・大阪国税局
・大阪税関
・河内長野市役所職員
・神戸家庭裁判所
・姫路市職員
・広島家庭裁判所
・神戸大学大学院
人間発達環境学研究所(7名)
・京都大学大学院文学研究科
・武庫川女子大学大学院文学研究科 | 2010年度
・北新地 穂の河
・ケイ・オプティコム
・パナソニックシステムソリューションズジャパン
・フォトクリエイト
・富国生命保険相互会社
・ゆうちょ銀行
・KDDI
・NTTデータ
・旭川家庭裁判所
・大阪市立大学職員
・香川県職員
・神戸市職員
・東京家庭裁判所
・神戸大学大学院
人間発達環境学研究所(9名)
・大阪保健福祉専門学校
・京都教育大学大学院教育学研究科
・鳴門教育大学大学院学校教育研究科
・佛光大学通信教育課程本科 |
|--|--|

主な資格免許の取得状況

社会教育主事、社会福祉主事任用資格を除きます。

- | | |
|--|--|
| 2011年度
・小学校教諭一種免許状
・幼稚園教諭一種免許状
・特別支援学校教諭一種免許状
・学芸員 | 2010年度
・小学校教諭一種免許状
・高等学校教諭一種免許状(公民)
・特別支援学校教諭一種免許状
・幼稚園教諭一種免許状 |
|--|--|

教育科学論 コース

主な進路

さらに学びたい人はp. 84へ。

- | | |
|---|---|
| 2011年度
・鷗州コーポレーション
・シティ・コム
・森永乳業
・リクルートスタッフィング
・神戸大学職員 | 2010年度
・大阪厚生信用金庫
・山口銀行
・読売新聞大阪本社
・愛西市職員
・神戸市職員
・岡山県教員(中学) |
|---|---|

主な資格免許の取得状況

社会教育主事、社会福祉主事任用資格を除きます。

- | | |
|--|--|
| 2011年度
・小学校教諭一種免許状
・中学校教諭一種免許状(社会)
・中学校教諭一種免許状(数学)
・高等学校教諭一種免許状(数学)
・高等学校教諭一種免許状(地理歴史)
・高等学校教諭一種免許状(公民)
・幼稚園教諭一種免許状
・特別支援学校教諭一種免許状
・学芸員 | 2010年度
・小学校教諭一種免許状
・中学校教諭一種免許状(社会)
・中学校教諭一種免許状(数学)
・高等学校教諭一種免許状(数学)
・高等学校教諭一種免許状(地理歴史)
・特別支援学校教諭一種免許状
・幼稚園教諭一種免許状
・学芸員 |
|--|--|

子ども発達論 コース

主な進路

さらに学びたい人はp. 86へ。

- | | |
|---|---|
| 2011年度
・アートチャイルドケア
・アド・ダイセン
・アメリカンファミリー生命保険会社
・関西アーバン銀行
・キタムラ
・長野県信用組合
・ベネフィット・ワン
・JR西日本
・西宮市保育士
・神戸市教員(小学)
・奈良県教員(小学)
・神戸大学大学院
人間発達環境学研究所(3名)
・広島大学大学院教育学研究科 | 2010年度
・アップ
・生活協同組合コープこうべ
・南都銀行
・西松屋チェーン
・ひかりのくに
・ミキハウス
・みずほファイナンシャルグループ
・リクルートHRマーケティング
・神戸市職員
・名古屋市立保育所
・奈良市職員
・大阪市教員(小学)
・神戸大学大学院
人間発達環境学研究所(2名) |
|---|---|

主な資格免許の取得状況

社会教育主事、社会福祉主事任用資格を除きます。

- | | |
|--|--|
| 2011年度
・小学校教諭一種免許状
・高等学校教諭一種免許状(地理歴史)
・幼稚園教諭一種免許状 | 2010年度
・小学校教諭一種免許状
・特別支援学校教諭一種免許状
・幼稚園教諭一種免許状 |
|--|--|

学校教育論 コース

主な進路

さらに学びたい人はp. 84, 86へ。

- | | |
|--|--|
| 2011年度
・旭化成アマダス
・かんぽ生命保険
・社会福祉法人北摂杉の子会
・社会福祉法人同朋福祉会同朋学園
・三井住友海上火災保険
・鳥取市保育士
・西宮市職員
・大阪府教員(小学)
・神戸市教員(小学)
・神戸市教員(特別支援)
・吹田市教員(小学)
・奈良県教員(小学)
・兵庫県教員(小学)
・松原市教員(小学)
・横浜市教員(小学)
・和歌山県教員(小学)
・神戸大学大学院
人間発達環境学研究所(3名)
・兵庫教育大学大学院 | 2010年度
・ベニックスソリューション
・みずほ証券
・三菱UFJ信託銀行
・NTTデータ関西
・大阪市教員(小学)
・神戸市教員(小学)
・神戸大学附属小学校教員
・奈良県教員(小学)
・兵庫県教員(小学)
・報徳学園教員
・横浜市教員(小学)
・神戸大学大学院
人間発達環境学研究所(4名)
・神戸大学大学院国際協力研究科
・東京大学大学院教育学研究科 |
|--|--|

主な資格免許の取得状況

社会教育主事、社会福祉主事任用資格を除きます。

- | | |
|--|--|
| 2011年度
・小学校教諭一種免許状
・中学校教諭一種免許状(社会)
・中学校教諭一種免許状(数学)
・高等学校教諭一種免許状(数学)
・高等学校教諭一種免許状(地理歴史)
・高等学校教諭一種免許状(公民)
・幼稚園教諭一種免許状
・特別支援学校教諭一種免許状
・学芸員
・環境再生医(初級) | 2010年度
・小学校教諭一種免許状
・中学校教諭一種免許状(社会)
・中学校教諭一種免許状(数学)
・高等学校教諭一種免許状(数学)
・高等学校教諭一種免許状(地理歴史)
・特別支援学校教諭一種免許状
・幼稚園教諭一種免許状 |
|--|--|

心理発達論 コース

Course Keyword (コースキーワード)

- 心理学
- 発達障害
- 発達
- 人格発達
- カウンセリング
- 心理検査

人の「心の発達」を、様々な側面から科学的に探究する

人の生涯は、受胎に始まり、誕生、赤ちゃんの時代、子どもの時代、青少年の時代、大人の時代、高齢の時代を経て、死で終わります。こうした生涯のそれぞれの時代に重要な「心の発達」があるとともに、各時代の「心の発達」が相互に影響しています。心理発達論コースでは、心の発達の様相とその支援とについて、発達心理学を中心に、様々な学問領域から学びます。具体的には、個々人が自分らしさをどのように形成してゆくのかわという人格発達、人の認識・思考・判断等の変化を探る認知発達、心の病をどのように理解し、ケアするかという臨床心理学、発達の障害をどのようにとらえ、支援するかという発達障害学などです。本コースでは、これらの学問領域における理論や知見を学ぶことに加え、心理学の手法を用いて心理学的知見を見だし、それを卒業論文にまとめることを4年間のゴールとしています。そのため、

心理学概論・各論の授業と平行して、実験法や観察法、質問紙法、検査法などの心理学研究法を獲得していくカリキュラムが組まれています。2年生ではまず、様々な研究法を実習し、データ分析のための統計法も学びます。3年生になると、計画立案-データ採取-分析-結果解釈という研究プロセスを、ゼミの仲間と共同で経験します。4年生では、個人の関心から研究テーマを設定し、一人で卒業研究に臨みます。卒業後の進路は様々で、心理学に関連する仕事もそうでない仕事もあります。しかし、心とその発達について、苦勞して採取した生のデータで、自分の考えた仮説を実証し、結果をレポートや論文の形式で発信するという、科学的探究を経験してきたことは、卒業生の将来に、有形無形の影響を与えています。カウンセラー等の心理職を目指す人は、大学院に進学し、臨床心理士の資格を取得します。

主なコース専門科目

- 心理学研究法1
- 深層心理学
- 子ども社会論
- 障害児指導学
- 心理検査法1
- 障害児発達学
- 心理学研究法2
- 心理発達論演習A・B・C
- 心理統計法
- 発達障害心理学2
- 心理検査法2・3
- 知的障害の心理・生理・病理演習
- 人間関係発達論
- 発達障害臨床学2
- 生涯発達心理学
- 心理学研究法3
- 教育発達心理学
- 科学教育論
- 人格形成論

教員からのメッセージ



心理学から、子どもの学びと育ちを考える

坂本美紀 准教授(教育心理学)

心理学といえば、人間関係のコツや性格テスト等を連想する人が多いと思います。しかし、教育心理学の分野では、学び方や教え方、子どもの成長過程や適応、進路決定など、学びと育ちのプロセスが、心理学的研究の対象となっています。私のゼミでは、子どもの学習と発達について、心理学の知見を元にするための研究を志向しています。3年生では、テーマを決めて、計画立案、データ採取、分析、結果解釈という研究プロセスを、ゼミの仲間と共同で経験します。4年生では、ゼミ生個人の関心に基づいて研究テーマを設定し、これまで学んだ知見とスキルをフルに活用しつつ、一人で卒業研究に臨みます。苦勞して採取したデータで、自分の仮説を実証し、レポートや論文の形式で発信するプロセスは、山あり谷ありの経験です。学業生活を支えるのは、苦樂をともにする仲間や、頼れる先輩たち。学業・研究以外にも様々な語らいをしながら、研究と友情を深めていくのです。

スタッフと研究分野・研究テーマ

相澤 直樹 准教授 臨床心理学, 臨床心理検査(投影法) 青年期における自己愛的傾向と対人恐怖の傾向に関する調査研究を行っています。ロールシャッハ検査法を中心とする心理検査法(投影法)について実践的に研究しています。	赤木 和重 准教授 発達障害心理学 自閉症児のコミュニケーションの発達に関心をもって研究しています。特に自閉症児が他の子どもに「教える」という行動の発達に注目しています。	伊藤 俊樹 准教授 臨床心理学 臨床心理学を専攻しています。特にアートを心理療法に用いた芸術療法や心理療法で相談者のイメージがどのように変わっていくかを研究しています。	河崎 佳子 教授 臨床心理学, 発達臨床心理学 聴覚障害児の心理発達と家族支援について研究してきました。近年は、虐待児童への心理的ケアについて乳児院・児童養護施設を舞台に取り組んでいます。	齊藤 誠一 准教授 発達心理学 思春期の身体発達や性的成熟が、その子どもや、親・友人などの周囲の人たちにどのような影響を与えるかを研究しています。
坂本 美紀 准教授 教育心理学 教科学習における知識の獲得とその活用について、学習者の内的過程と学習環境づくりの両面から研究しています。	谷 冬彦 准教授 人格心理学 青年期におけるアイデンティティ形成や自己形成の研究を中心として、人格(パーソナリティ)の生涯発達に関して広い視野で研究をしています。	鳥居 深雪 教授 発達障害臨床学 読み書きが苦手、多動、社会的な意味の理解が苦手、といった様々な困難さの背景にある脳機能と効果的な支援方法について研究しています。	森岡 正芳 教授 臨床心理学, 文化心理学, カウンセリング ナラティブ(物語)や対話的自己という視点からトラウマのケア、心身相関、家族関係、文化と癒しの問題に取り組んでいます。	吉田 圭吾 教授 臨床心理学 幼小中高大を中心とした教育現場における教育相談の理論と実際、保護者面接の在り方、発達障害や精神障害を抱える人へのアプローチ方法について研究しています。

主な卒業研究テーマ

過去2年分より抜粋

- CMC(Computer-Mediated Communication)における人間形成過程について
- 大学生の関係性攻撃と社会的情報処理との関連性について
- 大学生の箱庭の継続制作における体験と気分変容について
- 自己開示・評価概念に注目して
- 三大SNSの利用と利用に関わる心理的要因について
- 読書を手がかりとした自伝的記憶の方向づけ機能の検討
- 内的作業モデルの気分の落ち込みによる変化
- 青年期における自己受容と他者受容に関する研究
- 批判的思考、社会的迷惑行為との関連について
- 中学生の居場所と抑うつ傾向、自己肯定感との関連
- 青年期の親子関係が青年の精神的自立と他者への依存性に及ぼす影響について
- ジャルゴンの独語の目立つ自閉症幼児の非慣用的言語行動の機能変化
- 特定の相手の形成・他者理解の発達の变化を軸に
- 妊娠期女性における「親になる」意識の形成過程
- 5歳児の相互交渉に関する検討
- いざこざの解決過程に着目して
- 育児期女性のライフコース選択と心理的適応との関連
- 家族画における色彩反応の分析指標の検討
- 一家族イメージ彩色法を用いて
- 自己の経験を語ることの意味に関する研究
- 障害を持つ一人の男性の語りから
- 女子大学生における服装規範に関する研究
- 一性役割と賞賛獲得の観点から
- 信仰者の困難体験への対処のプロセス
- クリスマスへのインタビュー調査から
- 青年期における発達促進的な対象と自我同一性の形成に関する研究
- 大学生の職業興味に関する研究
- Hollandの職業選択理論を用いて
- ツイッターの利用とコミュニケーションに関する実態調査
- 女子青年における化粧行動に関する研究
- 顔に対する満足度と化粧効力感との観点から

学生からのメッセージ



こころの不思議を、ステップをふみながら学べるコース

高山 満里奈 さん(心理発達論コース4年生)

心理発達論コースではこころについてひとつひとつステップを踏みながら勉強できます。2年生では心理実験を講義の中で行い本格的な論文を書きはじめます。心理実験以外にも臨床現場などで用いる心理検査法をロールプレイで行い、自分自身の心を考察するというとても面白い講義もあります。3年生のゼミ分けの後には、学部や大学院の先輩、先生のアドバイスを受けながら同級生とともに共同研究を進めていき、大変ながらも自分自身の成長を感じる貴重な経験です。卒業する時には自分が考えるこころの不思議について、それぞれの答えを導き出せるのではないかと思います。そのための方法と知識を無理なく習得できるのが、このコースです。

子ども発達論 コース

Course Keyword (コースキーワード)

- 子どもの発達
- 子どものからだづくり
- 乳幼児教育学
- 児童文学
- 子どもの数理認識
- 子どもの表現教育
- 幼年音楽

乳幼児から青年期の子どもを対象に、 子どもの教育と発達を総合的に学ぶ

- ①子ども発達論コースは、乳幼児から青年期の子どもを対象に、心やからだの発達と教育、言語・音楽・造形表現の発達と教育、数理認識、発達と教育に関する専門領域を学び、子どもの教育と発達を総合的に学びます。
- ②子どもの教育や子どもと関わる仕事を目指す方、子どもの文化に興味のある方、子どもの心やからだの発達と教育の謎に迫りたい方などとともに、子どもを多面的に学び研究していきます。
- ③一方では、「子どもの認識と表現の発達」として、家庭・地域での生活体験や学校教育ともかかわって、言語表現、数理認識、運動発達、音楽表現、造形表現等の領域について学びます。
- ④他方では、今日の子どもの達がかかえる困難や発達のもつれに焦点をあてて、家庭、地域、学校などでの教育実践や支援のあり方について学びます。

主なコース専門科目

- 子どもの発達
- 子どもの表現
- 子ども社会論
- 子ども発達論演習1・2
- 乳幼児認知発達論
- 子どもの心と教育
- 子どもの表現教育
- 心理統計法
- 数理認識発達論
- 造形発達論
- 子どもと生活
- 子どもとメディア
- 人間関係発達論
- 子どもスポーツ論
- 児童文学論
- 子どものからだづくり
- 子どもの発達支援
- 教育制度
- 幼年音楽論
- 健康行動科学
- 子どもの認識
- 児童福祉論
- 異言語指導論
- 美術教育史論
- 子ども発達研究法1・2



教員からのメッセージ

算数・数学についての 子どもの「わかり」を解き明かす

岡部 恭幸 准教授(数理認識論, 数学教育)

子どもが算数・数学がわかるようになるとはどういうことでしょうか。繰り返し練習さえすればいつかわかるようになるのでしょうか。授業に積極的に取り組み、しっかり発表すればわかるようになるのでしょうか。これらの答えを見つけるのは実は簡単なことではありません。

私達の研究室では数理認識の発達と教育についてのいくつかの研究を行っています。子どもはどのように数理概念をとらえているのでしょうか。さらに、子どもが獲得すべき概念はどのような構造をもっているのでしょうか。また、子どもはそれをどのように獲得していくのでしょうか。子どもたちの「わかり」は、まだまだ解き明かしていくべき「謎」に満ちあふれています。

また、この研究室では、研究で得られた知見をもとに、現場の先生方とも協力しながら教育内容や指導方法の開発も行っています。子どもの「わかり」を大切にする算数・数学教育をともに創っていきたくと考えています。

スタッフと研究分野・研究テーマ

岡部 恭幸 准教授 数理認識論, 数学教育 算数・数学の授業の中で子どもたちはどのように概念を形成していくのか、またどのように指導が効果的なのかについて研究しています。	北野 幸子 准教授 乳幼児教育学, 保育学 子ども特に乳幼児(0~8歳くらい)の遊び・生活・学びの内容や、乳幼児を教育する専門職の専門性について研究しています。	木下 孝司 教授 発達心理学 乳幼児や障害をもつ子どもたちが、発達の主体となり、相互にコミュニケーションを通して理解し合うプロセスについて研究しています。	國土 将平 准教授 身体発達発達, 保健体育科教育, 健康・スポーツ測定 子どもの身体の発達や健康, 体力・運動能力・運動動作の発達を理解し、それらに影響を与える教育・学習や生活環境, 生活習慣との関係を探っています。	五味 克久 教授 幼年音楽, リトミック, 合唱指揮 音楽でいかに遊ぶかを考えています。一つは以前からの関心であるリトミックについてです。もう一つは、手作り楽器で音の発見というテーマです。
鈴木 幹雄 教授 図工・美術教育学, 芸術教育に関連した教育学 (1)子どもの心に語りかける教師たち・自分の中に変化を発見する子ども達、或いは(2)モダニズムの精神の洗礼を受けた教師達とその改革的教育について研究しています。	目黒 強 准教授 児童文学, 国語教育 近代日本において児童文学というジャンルがどのように成立したのかについて研究しています。			

主な卒業研究テーマ

過去2年分より抜粋

- ・現代の小学生における植物遊び体験の実態調査
- ・人々は魅力的な芸術教育をどのように作り上げてきたのか—3人の芸術教育者の試み—
- ・人形を用いたふり遊びにおける幼児の理解とコミュニケーションの発達—子ども-人形-おとなの三者関係に着目して—
- ・児童養護施設における読書環境の実態
- ・保育用品としての「おどろぐばこ」の歴史
- ・文学教育におけるメディアリテラシーの育成—「注文の多い料理店」を事例として—
- ・3歳児クラスの仲間関係の発達における身体接触の役割について
- ・幼児期における言語活動としての対話型美術鑑賞
- ・子どもとの相互作用を重視した保育実践の検討—臨床美術の分析を中心に—
- ・幼児期の科学教育—科学絵本の読み聞かせを通して—
- ・2, 3歳児の砂山や砂山作りから発展した遊びの特徴
- ・イリノイ州立大学幼児教育学研究者の幼児教育観についての—考察—ラウラ・E・バーク氏の著作を手がかりに—
- ・3歳児クラスにおけるトラブルの発達—未解決のトラブルに着目して—
- ・4歳児はどのように絵本をとらえるか—昔話「三びきのこぶた」の読み聞かせを通して—
- ・子育てを通して母親が成長していくプロセス—幼児・学童期の子どもをもつ母親の語りから—
- ・子どもとパズル遊びに関する研究
- ・子どもの赤ちゃん返りの実際と教育的対応に関する研究
- ・地域における子育て支援政策の展開—地域子育て支援センター事業に着目して—
- ・地域に対する理解や興味を深めるための授業の工夫についての考察—総合的な学習の時間において—
- ・知育玩具とその対象年齢
- ・父親の育児参加とその影響—父母の違いに着目して—
- ・定期的な冒険教育活動が子どもの意識や態度に与える影響
- ・表現の魅力を伝える教育についての考察

子どもの見ている世界を 理解する方法を探る

清水 結衣 さん(子ども発達論コース4年生)

子ども発達論コースでは、子どもの発達のプロセスを心理学や教育学、芸術や運動など様々な視点から総合的に学ぶことができます。授業は講義と共に参加型の授業がとても充実しています。例えば童謡を歌ったり、紙芝居を作って発表したり、鬼ごっこをしたり、学生同士のグループで遊びを考えて、学生を子どもに見立てて実践したりしています。子どもが日々接しているもの実際に触れ、子どもの視点に立って考えることにより、頭だけでなく身体でも子どもを理解し学びを深めていくことができます。

私は幼稚園教諭の免許をとるために幼稚園に教育実習に行きました。そこで子どもと直接触れ合うことで今までに得た知識が深まり、新しい学びもたくさん経験しました。実習を通して子どもの魅力を改めて感じることができました。また、学生と先生の距離が近くアットホームな雰囲気であることも魅力の一つです。子どもが好き、子どもをもっと知りたいという人はぜひ一緒に勉強しましょう。



学生からのメッセージ

教育科学論 コース

Course Keyword (コースキーワード)

- 教育の歴史
- 教育のしくみ
- 教育の方法
- 社会科教育
- 科学教育
- 美術教育

教育や学校が今あるような仕方であるのはなぜだろう？

「科学・サイエンス」という言葉で皆さんが思い浮かべるのは、おそらく自然科学や科学技術のイメージではないでしょうか。しかし、この言葉の語源「スキエンティア」(ラテン語)は、「物事が今のような仕方であるのはなぜかについて知る」という意味なのです。私たち教育科学論コースが目指すのは、まさに、「教育や学校のいろいろな現象やあり方が今のような仕方であるのはなぜか、そしてそれは望ましいあり方か？」を問うことです。皆さんは今まさに学校で教育を受けていますね。学校があり先生がいていろいろな教科の授業が行われる。このような皆さんにとって自明の教育のあり方は、実は、法律・制度・行政・財政のルールや枠組みに即して運営され、しかも、このような学校教育制度が

成立したのは、人類史に見ればごく最近のことにすぎません。また、各教科の内容はそれぞれ、やはり人類の長期にわたる思索、探究、試行の結果が凝縮されたものですし、それを教える先生の教え方についても、実にさまざまな理論や方法の探究の歴史があります。たとえば、いくつもの長い川が合流した地点に皆さんの学校は立っていて、そこに皆さんがいるわけです。では、その「川」は今後どう流れていくか。それは皆さんにとってわからないだけでなく、実は私たち大人にもわかりません。でも、今よりもっとたくさんの豊かな水が活き活きと流れる川のあり方がきっとあるはず。その「あり方」を皆さんと共に考えてみたい。それが、教育科学論コースのスタッフ一同の願いです。

主なコース専門科目

- 教育学研究法1~8
- 教育思想史
- 日本教育史
- 教育制度
- 教育政策
- 教育方法学
- 学習指導論
- 科学教育論
- カリキュラム論
- 社会教育論
- 社会教育計画論
- 授業システム論
- 教育哲学
- 異言語指導論
- 教育科学論演習1・2
- 教育法
- 教育行政学
- 生活指導論
- 社会科教育方法論
- 教師教育史論
- 教育科学研究1・2



教員からのメッセージ

教育の歴史を知ることが、明日の教育を拓くカギである

船寄 俊雄 教授(日本教育史, 教育学)

新聞やテレビを通して、毎日のように、児童虐待、いじめ、不登校など深刻な教育問題が報じられています。私の研究室では、これらの問題を解決する現実的な処方箋を考えると同時に、これらの問題が歴史的にどのように推移し、その時々どのような解決策を人々は選択してきたのかという教育史的思考方法を鍛えています。

ゼミは、3年生と4年生合同で行い、4年生は先輩として緊張感を持って卒業研究に取り組み、3年生は4年生と身近に交流することにより、早くから卒業研究へ向けた取り組みができます。また、学部生と大学院生との合同ゼミも行い、研究者の卵である先輩からも指導してもらいます。私の専門は、日本の教員とその養成制度の歴史研究ですが、ゼミ生は私の専門分野にこだわらずに自らが関心を持つテーマに取り組んでいます。大衆史、教科書史、子ども史、国語科教育史、道徳教育史など教育の歴史に関して幅広いテーマの研究を行っています。

スタッフと研究分野・研究テーマ

<p>稲垣 成哲 教授</p> <p>科学教育</p> <p>科学教育におけるテクノロジーを利用した学習支援のための理論、方法、評価及び実践デザインの研究を行っています。</p>	<p>川地 亜弥子 准教授</p> <p>教育方法学</p> <p>国内外の創造的な教育実践に注目し、わかる・楽しい・感動のある授業づくり、安心できる集団づくりについて研究しています。</p>	<p>白水 浩信 准教授</p> <p>西洋教育史</p> <p>教育の歴史人類学。「教育」とはそもそも何であったのか、人間の生きる営み全体のなかで、大人と子どもの関係行為として「教育」を捉え直すを行っています。</p>	<p>勅使河原 君江 講師</p> <p>美術教育</p> <p>美術を通して子どもを理解し発達支援をする研究をしています。つまり、この研究は美術を通して子どもを知ること、私たちは人間に共通する美について理解する事につながる研究なのです。</p>	<p>船寄 俊雄 教授</p> <p>日本教育史, 教育学</p> <p>「子どもとは何か」「学校とは何か」「教師とは何か」「教育とは何か」、このような問いへの解答を歴史の中に求めて研究を行っています。</p>
<p>山口 悦司 准教授</p> <p>科学教育</p> <p>現在、子どもから大人まで、いろいろな場所で「科学」を学んでいます。どうすれば、それらの科学の学びをよりよく支援できるのかについて研究しています。</p>	<p>山下 晃一 准教授</p> <p>教育制度論</p> <p>教育制度改革論(子どもの豊かな育ちの保障に向けて、地域が学校に関与するしくみや、学校内部で教職員同士が協働するしくみ等)に関する研究をしています。</p>	<p>吉永 潤 准教授</p> <p>社会認識教育論</p> <p>幼稚園の砂場のケンカから国際紛争まで(?!), 他者とうまく共存していくのはなかなか難しい。どうすれば紛争は解決、または回避できるのだろうか。</p>	<p>渡部 昭男 教授</p> <p>教育行政学(地域教育学, 特別ニーズ教育)</p> <p>「学校」は個人的な体験と想い出の場に留まりません。特別ニーズ児を含む人間発達や地域創造の視点から教育行政の在り方を探求しています。</p>	

主な卒業研究テーマ

過去2年分より抜粋

- ・フランソワ・ラブレールにおける肉体と言語の陽気な出会い
- ・テスト機能を実装した児童用指文字学習ソフトウェアの実践的評価
- ・医学教育における大学—地域連携を通じた専門教育の展開と課題—高等教育一般への適応可能性を念頭に置いて—
- ・ロアルド・ダールの児童文学作品についての考察
- ・道徳授業実践家としての教師の事例研究—授業とインタビューの分析から—
- ・日本人学生の留学推進に向けた大学の支援策をめぐる現状と課題—神戸大学を素材にして—
- ・ドラマ『熱中時代』にみる教師の責任
- ・中学校武道必修化における柔道の安全対策—大阪府高槻市の中学校の授業実践を通して—
- ・学力観の転換とフィンランドの教育
- ・階層化機能を実装した再構成型コンセプトマップ作成ソフトウェアの実践的評価について
- ・学級における教師—生徒関係の社会的学的研究に関する一考察
- ・教育の地方分権化と国の役割
- ・教科書制度について考える
- ・公立小中学校事務職員における労働の自己マネジメントと意義づけの検討—心理主義化を超えて—
- ・国定修身教科書「野口英世」の伝記教材—伝記教材作成と教科書の在り方—
- ・少年非行対策における学校と警察の連携の意義について—兵庫県警の実例を軸として—
- ・新聞による自衛隊事故報道の研究
- ・リコーダーの歴史と器楽教育

新たな“知”を探求しませんか

小島 倫世 さん(教育科学論コース4年生)

いくつかの視点から多角的にとらえ、1つの立場に立って論じる。

私は教育科学論コースに入り、幅広い視野から柔軟に物事をとらえることの魅力と大切さを学びました。教育科学論コースでは、「教育」を制度、歴史、哲学、科学など様々な側面から探求します。「教育とは何か」、「どうして勉強しなければならないのか」といった、これまで当たり前だと思っていた事柄の本質を問い直し、自分が培ってきた経験や知識を活かしながら、新たな“知”へと挑戦する過程には、学び本来の醍醐味を感じることができます。また、少人数だからこそ実現できる仲間との活発な議論や先生を身近に感じる対話型の講義は、教育科学論コース最大の魅力です。教育に関する問いには、唯一の決まった答えはなく、スッキリしないこともしばしばですが、答えが決まっていなかったからこそおもしろく、やりがいを感じます。社会、他者、そして自分自身を見つめ、新たな“知”を探求しませんか。



学生からのメッセージ

学校教育論 コース

Course Keyword (コースキーワード)

- 幅広い教養
- 小学校教諭
- 発達を踏まえた実践力
- 幼稚園教諭
- 協同力
- 特別支援学校教諭

小学校, 幼稚園および特別支援学校の 教諭の免許を取得しよう

小学校や幼稚園, 特別支援学校の教師を目指す人たちが, 学校教育を通じた人間発達と人間形成に関して, 理論的かつ実践的に学びます。

コースの所定の科目を履修することにより, 小学校教諭, 幼稚園教諭および特別支援学校教諭の資格を取得することができます。そのために, コースに所属する学生にはまず, 人間, 文化, 社会, 自然のさまざまな事象について幅広く学ぶことを求めます。それらに関する広い関心と教養が, 優れた学校教育実践の基礎として不可欠だからです。その上で, このコースでは, 適切な学習環境づくりと発達支援のための子

ども理解の方法, 各教科をはじめ, 道徳, 総合的な学習などの指導法, さらにには学校教育の歴史, 制度など, 教師として必要な専門的知識, 技能についての学習を行います。それらの学習の成果を, 実践的場面で, つまり実際の子どもの前にして試す場が教育実習です。教育実習を通して, 教職の意義への理解と教育への情熱はますます深まることでしょう。以上の学びの集大成としての卒業研究は, 「子ども発達論」か「教育科学論」のいずれかのコースの教員のゼミに所属してまとめます。子どもの発達や学校教育に関する多様な課題領域の中から「自分ならではの」テーマを選択し, 1年以上をかけて追究していきます。

主なコース専門科目

- 教育哲学
- 教育思想史
- 教育方法学
- 特別支援教育総論
- 教育行政学
- 学習指導論
- 幼児環境指導法
- カリキュラム論
- 幼児教育内容論
- 生活指導論
- 教育政策
- 幼児健康指導法
- 授業システム論
- 学校教育資料調査法
- 特別支援教育学
- 学習障害等教育総論
- 幼児人間関係指導法
- 特別活動指導法
- 教師教育史論
- 障害児指導学
- 異言語指導論
- 幼児言語表現指導法
- 障害児発達学
- 教育法
- 視覚障害児発達学

教員からのメッセージ



美術を通じた人間の発達を考える

勅使河原 君江 講師(美術教育)

私たちの研究室では, 美術を通して人を理解し, その発達を支援する研究に取り組んでいます。

実践研究としては, 継続的に神戸市内の美術館と美術教育普及活動の連携を行っています。この活動では, 知識や技法を重視するのではなく, 10歳の子どもならば10年の経験値を大切に美術鑑賞や制作を行い, 70歳の大人は70年の経験をもつ人にしかできない作品との向き合い方や表現を大切にしています。鑑賞の手法として, 対話を基本とした美術鑑賞を中心に行い, その後の制作へとつなげる活動を実施しています。このように美術活動では, ひとりひとりの異なった美術との関わり方があり, それを共有する事で, 自分でも気づかなかった新たな視点を見つけることができます。生涯にわたった美術を通じた人の発達に貢献できる様に, ゼミの学生達と頑張っています。

学生からのメッセージ



子どもたちととっても楽しい授業を

安藤 弘貴 さん(学校教育論コース4年生)

40人の子どもたちの前に立ち, 授業をしたときの感動を味わったことがありますか? 私は教育実習でこの経験をしました。その瞬間, 「子どもたちととっても楽しい授業をしたい」という目標ができました。この目標は, コースで共に学んでいる仲間たちにも共通しています。

コースの授業では, 教育の歴史や先人の実践を学んだり子どもの発達を学んだりして, 様々な視点を獲得することができます。授業で学んだことを活かし, コースの仲間と模擬授業を行い, 子どもの姿を思い浮かべながら, お互いにアドバイスをしたり, もっと良い授業をするためにはどうしたら良いかを話し合ったりしています。

仲間とともに学ぶことで, 一人では気づけなかったことにたくさん出会い, お互いに刺激し合って成長することにより, 教師として大切な, 一生涯続ける姿勢を持つことができると感じています。ほかでは得ることのできない「学び」の機会が, ここにはあります。ぜひ, あなた自身の「学び」を見つけにきてください。

スタッフと研究分野・研究テーマ

稲垣 成哲 教授 科学教育 科学教育におけるテクノロジーを利用した学習支援のための理論, 方法, 評価及び実践デザインの研究を行っています。	岡部 恭幸 准教授 数理認識論, 数学教育 算数・数学の授業の中で子どもたちはどのように概念を形成していくのか, またどのように指導が効果的なのかについて研究しています。	川地 亜弥子 准教授 教育方法学 国内外の創造的な教育実践に注目し, わかる・楽しい・感動のある授業づくり, 安心できる集団づくりについて研究しています。	北野 幸子 准教授 乳幼児教育学, 保育学 子ども特に乳幼児(0~8歳くらい)の遊び・生活・学びの内容や, 乳幼児を教育する専門職の専門性について研究しています。	木下 孝司 教授 発達心理学 乳幼児や障害をもつ子どもたちが, 発達の主体となり, 相互にコミュニケーションを通して理解し合うプロセスについて研究しています。
國土 将平 准教授 身体発達, 保健体育科教育, 健康・スポーツ測定 子どもの身体の発達や健康, 体力・運動能力・運動動作の発達を理解し, それらに影響を与える教育・学習や生活環境, 生活習慣との関係を探っています。	五味 克久 教授 幼年音楽, リトミック, 合唱指揮 音楽でいかに遊ぶかを考えています。一つは以前からの関心であるリトミックについてです。もう一つは, 手作り楽器で音の発見というテーマです。	白水 浩信 准教授 西洋教育史 教育の歴史人類学。「教育」とはそもそも何であったのか, 人間の生きる営み全体のなかで, 大人と子どもの関係行為として「教育」を捉え直すを行っています。	鈴木 幹雄 教授 図工・美術教育学, 芸術教育に関連した教育学 (1)子どもの心に語りかける教師たち・自分の中に変化を発見する子ども達, あるいは(2)モダニズムの精神の洗礼を受けた教師達とその改革的教育について研究しています。	勅使河原 君江 講師 美術教育 美術を通して子どもを理解し発達支援をする研究をしています。つまり, この研究は美術を通して子どもを知ること, 私たちは人間に共通する美について理解する事につながる研究なのです。
船寄 俊雄 教授 日本教育史, 教育学 「子どもとは何か」「学校とは何か」「教師とは何か」「教育とは何か」, このような問いへの解答を歴史の中に求めて研究を行っています。	目黒 強 准教授 児童文学, 国語教育 近代日本において児童文学というジャンルがどのように成立したのかについて研究しています。	山口 悦司 准教授 科学教育 現在, 子どもから大人までが, いろいろな場所で「科学」を学んでいます。どうすれば, それらの科学の学びをよりよく支援できるのかについて研究しています。	山下 晃一 准教授 教育制度論 教育制度改革論(子どもの豊かな育ちの保障に向けて, 地域が学校に関与するしくみや, 学校内部で教職員同士が協働するしくみ等)に関する研究をしています。	吉永 潤 准教授 社会認識教育論 幼稚園の砂場のケンカから国際紛争まで(!?), 他者とうまく共存していくのはなかなか難しい。どうすれば紛争は解決, または回避できるのだろうか。

主な卒業研究テーマ

過去2年分より抜粋

- ネットいじめの原因と対策 一学校裏サイトを軸にして一
- 小学校における協働に関する研究
- 聴覚障害児の比喩理解の過程と課題
- 海外の日本人論を活用した自文化理解教育
- 幼稚園・保育所における家庭との連携
- 養護学校義務化について ~判例を手がかりに~
- 環境学習を支援するための植生遷移ゲームの改良
- 小学生における学校トイレ環境がトイレの快適性に与える影響
- 地域の特性に応じた保育とは 一過疎地域における工夫を中心に一
- 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続における意義と課題
- キャリア教育の現状と課題
- 学校週5日制の再検討
- 公害教育の制度化研究
- 校庭芝生化の現状について
- 国内外の教員養成制度と今学生が求めているもの
- 子どものドッジボール投動作上達のための指導法の検討
- 自己評価能力を育成する授業実践
- 総合遊具にみられる児童の基本動作
- 病棟における保育と看護の協働について
- 幼小連携 一小学校教員の意識調査からわかる現状と課題一

渡部 昭男 教授

教育行政学(地域教育学, 特別ニーズ教育)

「学校」は個人的な体験と想い出の場に留まりません。特別ニーズ児を含む人間発達や地域創造の視点から教育行政の在り方を探求しています。

人間行動学科

人間の発達を身体、健康、行動・運動から考える

学科の理念

人間の行動に係わる諸環境が高度に変容している現代社会においては、人間の価値観が多様化し、それに伴って人間の行動も複雑かつ多様化しています。このような人間の行動を解明し、人間の発達を探求するには、自然科学から人文・社会科学にわたる新たな学際的な枠組みによる教育研究が重要です。人間行動学科では、人間の行動と発達に係わる諸問題を、行動発達、健康発達、身体行動の視点から探求します。

学科の特色

アクティブ・ライフスタイルの構築を目指す — 各ライフステージに応じた活動的なQOLを実現しよう！

社会の高度な発達は、人間の価値観の多様化を生じるとともに、長寿社会を実現しています。このような現代社会においては、自らが自立して生きがいと幸福感を持ち、活動的なライフスタイルを実践できる健康と活力が必要です。人間行動学科では人間の身体的・心理的・社会的健康および発達・加齢現象を総合的に教育・研究し、各ライフステージにおける高いQOLを実現できる人材を育成します。

実践的行動力を重視する — 人間行動について理論と実践に強い人材の育成！

行動ということば、単に身体的に行動する(動く)だけでなく、心理的・精神的な行動もあれば、社会的行動もあります。まさに人間の発達そのものです。多くの大学の人間行動は心理学・教育学が中心です。本学の人間行動学科は、これらに加え健康・スポーツ科学の視点からも教育・研究します。そして身体行動の実践を重視し、理論と実践の有機的結合を目指すユニークな学科です。

新たな人間行動研究に挑戦する — 人文・社会・自然科学から人間行動を考える

青少年の健康行動、成人・高齢者のメタボや認知能力、子どもの身体能力の低下、地球温暖化と人間行動等、現在我が国は人間行動に係わる多くの課題があります。これらの課題は、人間・社会・自然環境の要因が複雑に絡み合い、その解決には学際的なアプローチが欠かせません。人間行動学科では健康科学、心理・社会科学、スポーツ科学から、新たな人間行動学の構築を目指します。



履修コース

人々の健康について基礎から実践まで一貫して学ぶ

健康発達論 コース 定員:15名 ▶P32



加齢にともなう人間の行動の「発達」と「適応」を学際的に探求

行動発達論 コース 定員:15名 ▶P34



人間の「行動」と「スポーツ」を科学するチーム

身体行動論 コース 定員:27名 ▶P36



主な取得可能な資格免許

*全ての学科に共通の資格免許

- ・中学校教諭一種免許状(保健体育)
- ・学芸員*
- ・社会福祉主事任用資格*
- ・高等学校教諭一種免許状(保健体育)
- ・社会教育主事*
- ・環境再生医資格*

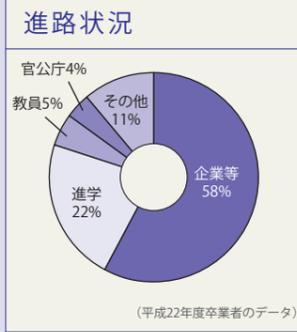
学科長からのメッセージ

学科長 平川 和文教授
(身体行動論コース)

みなさんに身近な例として、子どもの体力問題を取り上げて、人間行動を考えてみます。近年の子どもの体力は長年に渡る持続的低下と、運動をよくする子どもとしない子どもの両極の増加に特徴づけられます。子どもの頃の体力・運動習慣は大人になっても持ち越されます。言い換えれば、運動不足の子どものは将来のメタボ予備軍です。一方、運動をやりすぎている子どもはスポーツ障害やバーンアウトが心配です。これらは深刻な問題です。身体的にはどのような運動をどれくらいすればよいか、心理・社会的にはどのように運動環境を整えればよいか、自然環境的には地球温暖化も含めてどのように安全対策を講ずればよいかなど、総合的に考える必要があります。人間行動学科は、子どもから高齢者までを対象に、身体、健康、行動・運動をキーワードに教育・研究する活動的な学科です。



	1年	2年	3年	4年	卒業後
	学部共通科目		発達支援論コースに進むことも可		
	全学共通科目, 全学共通基礎科目				
	学科共通科目		コース専門科目		
		コース配属が決まります	ゼミ(研究室)配属が決まります	卒業研究	
全学共通科目	● 教養原論 ● 情報科目 ● 外国語科目 ● 健康・スポーツ科学				
学部共通科目	● 発達科学への招待				
学科共通科目	● 健康発達概論 ● 生涯スポーツ論 ● 身体運動のしくみ ● 行動発達概論 ● 人体構造機能論 ● からだの構造と運動 ● 身体行動概論 ● 健康管理論 ● 社会調査法 ● 身体機能加齢論	● 身体文化論 ● 公衆衛生学 ● 健康教育論 ● 発達支援論研究	● 身体運動発達論 ● 人間行動特論A・B		
健康発達論		● ヘルスプロモーション論 ● ストレス生理学 ● 子どもの発達支援 ● 安全行動・管理論 ● 認知発達論 ● 衣環境学1 ● 高齢者保健福祉論 ● 人間関係発達論 ● 栄養学 ● 救急医療概説 ● 臨床心理学 ● 生活環境共生論1 ● 身体適応論 ● カウンセリング ● 生活環境心理学	● 健康評価論 ● 予防医学概説 ● 国際健康開発論 ● 健康統計学 ● 健康生態学 ● 応用統計学A ● 健康行動科学 ● 健康政策論 ● 健康発達研究法	● 健康行動科学演習1・2 ● 健康評価論演習1・2 ● 健康生態学演習1・2 ● 健康政策論演習1・2 ● ヘルスプロモーション論演習1・2	さらに学びたい人は 大学院に進学 <input checked="" type="checkbox"/> 心身発達専攻 <input type="checkbox"/> 健康発達論
行動発達論		● 行動発達研究法 ● ヘルスプロモーション論 ● 栄養学 ● エイジング研究 ● 身体適応論 ● 乳幼児発達論 ● 行動適応論 ● スポーツプロモーション論 ● 臨床心理学 ● 運動処方論 ● 運動心理学 ● ストレス生理学 ● 身体運動制御論	● 予防医学概説 ● 身体適応論演習1・2 ● 健康行動科学 ● 社会行動論演習1・2 ● アクティブエイジング研究演習1・2 ● バイオメカニクス実験 ● 身体機能加齢論演習1・2 ● 行動適応論演習1・2 ● 健康政策論	● 行動発達演習1・2	<input checked="" type="checkbox"/> 人間行動専攻 <input type="checkbox"/> 行動発達論
身体行動論		● 体育・スポーツ史 ● 運動処方論 ● 運動障害論 ● スポーツ社会学 ● 体力科学論 ● 陸上運動方法論 ● スポーツプロモーション論 ● 身体適応論 ● 水泳系運動方法論 ● 運動心理学 ● 身体運動制御論 ● 野外運動方法論 ● 身体運動技術論 ● ストレス生理学	● スポーツマネジメント論 ● 舞踊運動方法論 ● 身体運動技術論演習 ● 子どものからだづくり ● 体育・スポーツ史研究法 ● 身体運動制御論演習 ● 健康行動科学 ● スポーツ社会学研究法 ● 運動処方論演習 ● 運動生理学実験 ● 運動心理学研究法 ● 体力科学論演習 ● バイオメカニクス実験 ● 体育・スポーツ史演習 ● 運動障害論演習 ● 球技運動方法論 ● スポーツ社会学演習 ● ストレス生理学演習 ● 武道系運動方法論 ● 運動心理学演習	● 体操運動方法論	<input checked="" type="checkbox"/> 人間行動専攻 <input type="checkbox"/> 身体行動論
コース専門科目		コース配属について 2年次より各履修コースに所属します。各履修コースの定員は次のとおりです。1年次終了時に行うガイダンスで希望を調整し、履修コースを決定します。 健康発達論 コース 15名 行動発達論 コース 15名 身体行動論 コース 27名			
		ゼミ配属について 3年次からゼミ(研究室)に所属します。4年次には、指導教員の下、所属するゼミ(研究室)で卒業研究を行います。各履修コースで定められたルールに従って、所属するゼミを決定します。			



さらに学びたい人は
大学院に進学

心身発達専攻 健康発達論

人間行動専攻 行動発達論

人間行動専攻 身体行動論

OB&OG INTERVIEW

INTERVIEW 01

日本テレビ放送網
株式会社 勤務

石浜 勇樹 さん
(2011年3月卒)



人間力を養う学部 やれないことは、ひとつもない

「現場から中継です。石浜さん!!」現場と呼ばれる場所に行き、情報をとり、アナウンサーが読む原稿を書く。時には、中継という形で自分でニュースを読んだりもする。zeroという番組では櫻井翔さんと一緒に仕事を。女子じゃなくてもやっぱりときめく(笑) これが報道に携わる私の仕事の一例です。

発達には私みたいな体育会系、芸術センス溢れる人、数学博士みたいな人、四六時中麻雀していたって人もいます。多様な人間が集まる学部に入ったおかげで「人間」そのものに興味を持ち、世の中を良くも悪くも騒がせる人達と取材を通して関わりたいと思いました。

人付き合いが嫌いな人はもしかすると発達科学部には向いていないかもしれません。人と関わるのが好きで、勉強するときはおもいきり勉強する、遊ぶときはおもいきり遊ぶ。とにかく濃い4年間を過ごしたい。そういう人は是非門をくぐってほしいと思います。最高の大学生活が待っていますよ。

INTERVIEW 02

TIS株式会社 勤務

大西 結花 さん
(2009年3月卒)



研究内容は柔軟に選択可能、 卒業後に活かせる力も身に付いた

健康発達論コースには文系から理系まで様々な分野を専門とする先生方がおり、あらゆる観点から健康について学ぶことができました。私は文系入学でしたが、医学が専門の中村晴信ゼミに所属し、実験的手法によりアレルギー様症状に影響する因子について研究を行いました。学問の領域に捉われず、最適な研究方法を選択できることは本学科の特長だと思います。また、他の研究室と合同で研究発表会を開催する機会が多く、異なる分野の先生・先輩方からアドバイスを頂けたことは自分の考えを多角的に見つめ直す貴重な経験でした。

現在、TIS株式会社のシステムエンジニアとして、お客様が抱えるビジネス上の課題に解決方法をご提案する仕事をしています。最適な解決方法を総合的に判断する能力が求められる為、大学で培った「多角的な観点から問題解決する力」が活かされていると感じます。今後はさらに実力をつけて活躍の場を広げ、社会に貢献していきたいです。

INTERVIEW 03

株式会社
朝日新聞社 勤務

飛松 風里 さん
(2009年3月卒)



今に繋がる、大学での自分が 大切にしたいことの発見

私は今、朝日新聞社の広告局で働いていますが、入学当時は自分の進みたい道がわからずとても不安だったことを覚えています。大学生活では、発達科学部に事務局のある「マスターズ甲子園」という大会に出会い、大人がイキイキ楽しんでいるって素晴らしいと感じる体験をしました。「大人」「楽しさ」ということに強い興味が湧き、卒業論文でも「大人の楽しさ」に関する研究をしました。その他、コースの授業では実験やインタビューも交えながら加齢にともなって人間の行動は発達するということを知り、コース研修と称してみんなでBBQを楽しんだことも思い出です。

これらの経験を通して、「大人が心から楽しいと思える機会を提供したい」という、自分が人生で大切にしていきたいことを発見できたことが最大の学びでした。仕事もこの発見を大切にしていきたいという想いで選びました。今の充実した毎日、この大学4年間としっかり繋がっているのです。

INTERVIEW 04

大阪府立
成城高等学校Ⅲ部 勤務

安田 亜未 さん
(2011年3月卒)



人と人、心と心をつなぐ スポーツを学ぶ

スポーツなしでは生きていけないと考えるくらいスポーツが大好きだった私は発達科学部人間行動学科に入り、2年生になって身体行動論コースに進みました。身体行動論コースではスポーツを多角的に勉強することができ「スポーツって面白い!」とより一層思うようになりました。特に六甲縦走、遠泳、スキーなどの宿泊を伴った実習はスポーツの素晴らしさを私に再確認させてくれました。これらの実習は勿論楽しいものなのですが、体力的につらい実習でもありました。しかし、どんなに心が折れそうでも皆で励ましあって乗り越え、絆を深めることができた経験は、スポーツには人と人、心と心をつなぐ力があることを教えてくれました。

私は現在、大阪府の高等学校の保健体育の教員をしています。私は体育を教える教員ではなく、体育で教える教員になりたいです。この4年間で学んだ人と人、心と心をつなぐ素晴らしさを体育教師として伝え続けていきたいと思っています。

主な進路・主な資格免許の取得状況

健康発達論 コース

主な進路

さらに学びたい人はp. 80へ。

- | | |
|-------------------|----------------------------|
| 2011年度 | 2010年度 |
| ・花王カスタマーマーケティング | ・エフアンドエム |
| ・カネボウ化粧品 | ・キャンノン |
| ・関西電力 | ・興和 |
| ・大和証券 | ・パソナ |
| ・NTTデータ関西 | ・三菱商事マシナリ |
| ・NTTドコモ | ・SBSメディアビジョン |
| ・Meiji Seika ファルマ | ・神戸大学大学院
人間発達環境学研究所(3名) |
| | ・京都府立医科大学大学院
保健看護研究科 |

主な資格免許の取得状況

社会教育主事、社会福祉主事任用資格を除きます。

- | | |
|--------|--------------------|
| 2011年度 | 2010年度 |
| なし | ・小学校教諭一種免許状 |
| | ・中学校教諭一種免許状(保健体育) |
| | ・高等学校教諭一種免許状(保健体育) |
| | ・幼稚園教諭一種免許状 |

行動発達論 コース

主な進路

さらに学びたい人はp. 94へ。

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 2011年度 | 2010年度 |
| ・アイエックス・ナレッジ | ・京都大原記念病院グループ |
| ・サントリーホールディングス | ・コベルコシステム |
| ・電通 | ・ソニー |
| ・トヨタ自動車 | ・西松屋チェーン |
| ・日鉄日立システムエンジニアリング | ・日本生命保険相互会社 |
| ・ニトリ | ・阪神電気鉄道 |
| ・ヒューマン・ブレーション | ・平和堂 |
| ・ミスノ | ・みなと銀行 |
| ・生駒市職員 | ・ユニクロ |
| ・長崎市職員 | ・東京都職員 |
| | ・大阪大学大学院人間科学研究科 |
| | ・日本女子大学家政学部(編入) |

主な資格免許の取得状況

社会教育主事、社会福祉主事任用資格を除きます。

- | | |
|-------------|--------|
| 2011年度 | 2010年度 |
| ・小学校教諭一種免許状 | ・学芸員 |

身体行動論 コース

主な進路

さらに学びたい人はp. 92へ。

- | | |
|----------------------------|----------------------------|
| 2011年度 | 2010年度 |
| ・伊藤忠商事 | ・アクセンチュア |
| ・関西電力 | ・朝日新聞社 |
| ・キッセイ薬品工業 | ・大分県信用保証協会 |
| ・京セラ | ・関西電力 |
| ・コーベヤ | ・さくらケーシーエス |
| ・ゴールドウィン | ・日本テレビ放送網 |
| ・サウンドクリエイター | ・福井新聞社 |
| ・ジェイテクト | ・富士フイルム |
| ・東京海上日動火災保険 | ・三井住友銀行 |
| ・東レ | ・モンベル |
| ・トヨタ自動車 | ・リクルート |
| ・南都銀行 | ・TIS |
| ・日本放送協会 | ・農林水産省 |
| ・ピーワークス | ・兵庫県職員 |
| ・丸紅 | ・大阪府教員(高校) |
| ・ミスノ | ・門真市教員(小学) |
| ・ワコール | ・兵庫県教員(高校) |
| ・大阪府警察 | ・神戸大学大学院
人間発達環境学研究所(5名) |
| ・神戸大学大学院
人間発達環境学研究所(5名) | ・神戸東洋医療学院 |
| ・神戸大学大学院国際文化学研究所 | |

主な資格免許の取得状況

社会教育主事、社会福祉主事任用資格を除きます。

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 2011年度 | 2010年度 |
| ・小学校教諭一種免許状 | ・小学校教諭一種免許状 |
| ・中学校教諭一種免許状(保健体育) | ・中学校教諭一種免許状(保健体育) |
| ・高等学校教諭一種免許状(保健体育) | ・高等学校教諭一種免許状(保健体育) |
| ・高等学校教諭一種免許状(地理歴史) | ・高等学校教諭一種免許状(地理歴史) |

健康発達論 コース

Course Keyword (コースキーワード)

- ヘルスプロモーション
- こころの健康
- ライフスキル教育
- 健康行動
- 公衆衛生
- 健康と生態学

人々の健康について基礎から実践まで一貫して学ぶ

健康発達論コースは、人間の健康に関わる諸問題を扱う「健康科学」について学習・研究するコースです。健康科学においては、ヒトの構造や機能といった生物学・生命科学に関する領域、自然環境や生活環境に関する領域、健康政策や健康教育などヒトの心理的側面や社会科学などに関する領域についての広範囲な知識を身につけ、自ら問題提起をし、これらの問題に対して科学的且つ論理的に徹底して追及する能力が求められます。このような健康に関する広範囲な知識、および問題解決能力を身に付けることにより、より高度な学問を追求する研究者、あるいは実社会における指導者として活躍できる人材の育成を目標としています。このため、学習の目標を人々の健康増進

(ヘルスプロモーション)に置き、そのために必要な基礎的な知識(疾病予防、健康増進のメカニズム、人間の発達と健康、環境と健康とのかかわりなど)および現実に生活している人々に直接貢献する実践的な知識(健康教育と行動変容、健康政策など)の両面について医学、保健学、教育学、心理学等の専門スタッフより教育がなされています。本コースにおいては、文科系、理科系双方の領域に関して広く関心と興味を持ち、ヘルスプロモーションに関する具体的な課題を発見し、健康科学に基づいて基礎的・応用的・実践的な問題を解明するため、徹底的に、且つ多分野にわたる人々と協力して問題解決を図っていき、意欲ある学生を待っています。

主なコース専門科目

- ヘルスプロモーション論
- 健康評価論
- 健康政策論
- 健康生態学演習1・2
- 安全行動・管理論
- 健康統計学
- 国際健康開発論
- 健康政策論演習1・2
- 高齢者保健福祉論
- 健康行動科学
- 健康発達研究法
- ヘルスプロモーション論演習1・2
- 救急医療概説
- 予防医学概説
- 健康行動科学演習1・2
- ストレス生理学
- 健康生態学
- 健康評価論演習1・2

教員からのメッセージ



脳と心の科学をベースに、健康への新しいアプローチを生む

辻本 悟史 准教授(認知神経科学, 健康行動科学)

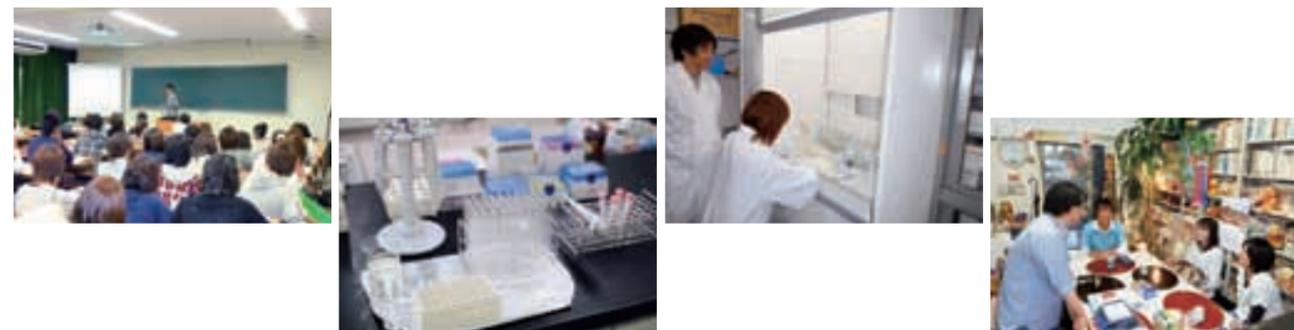
私たちは日常的に、絶えず意思決定を求められています。その内容は、その日の食事や就寝時間など些細な事柄から、進学や就職、結婚など人生の大きな決断までさまざまです。それら一つ一つの決断が少しずつ良くなれば、何十年も先の結果は大きく異なることでしょう。私たちのゼミでは、脳の中で決断が起こる仕組みや、その発達、さらにそれらの過程に影響する心理特性、環境要因などを明らかにし、より健康で幸せな人生への道筋を見つけ出すことを目指しています。

このような大きな目標のもと、ゼミ生はそれぞれ独自のテーマを持って、実験・調査を中心に研究を進めています。ゼミで過ごす3-4年生の時期は、就職活動や進学の準備など、心身共に負荷の大きい時期でもあります。メンバーの状況や個性に配慮し、少人数のアットホームな環境で活動しています。脳や心の科学から健康へという新しいアプローチを、皆さんと一緒に創生していけるよう期待しています。

スタッフと研究分野・研究テーマ

† 2013年3月31日をもって退職予定

加藤 佳子 准教授	川畑 徹朗 教授	田中 洋一 教授†	辻本 悟史 准教授	中村 晴信 准教授
健康教育, 健康心理学	健康教育, ヘルスプロモーション	健康科学, 生態学	認知神経科学, 健康行動科学	公衆衛生学
生活科学と心理学の学際領域をベースとし、食行動など日常生活における健康に関連する人の行動について探究し、健康の増進を目指しています。	青少年が薬物乱用などの危険行動を避け、健康増進行動を主体的に選択できるようにするため、健康教育、ヘルスプロモーションに関する研究を行っています。	足と靴の今と未来を考える。いい靴とはどういうものか。靴は足にとってイモノなのか、フルイモノなのか。そもそも必要なか。足の未来像を考える。	「脳と心の健康な発達」をテーマに、心身の健康を如何に保ち増進させるかについて研究し、生活の質(QOL)の向上に資することを目指しています。	生活習慣と疾病予防や健康増進との関係について研究しています。フィールド調査で健康問題を発掘し、実験で証明するスタイルをとっています。

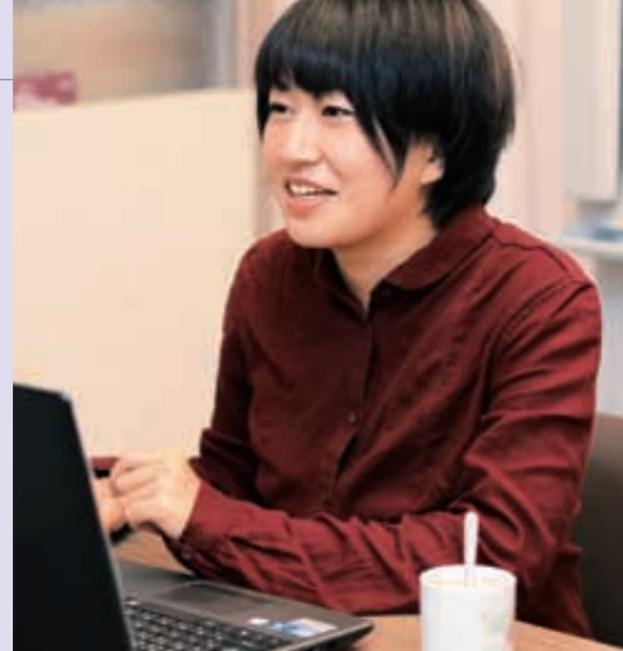


主な卒業研究テーマ

過去2年分より抜粋

- ・運動部の活動に関連した課題に関する文献的考察
- ・里親制度に関する文献研究
- ・男性摂食障害の発症リスク軽減のための教育的アプローチに関する研究
- ・きょうだいと性格特性に関する研究
- ・PMS(月経前症候群)の実態把握と学校教育における月経随伴症状に関する教育の必要性の文献的検討
- ・運動習慣の二極化の現状・学校現場での教育的アプローチの提言
- ・現代的なリズムのダンスを中高生の体育授業に取り入れる意義について
- ・一般流動性知能と性格特性の相関について
- ・顔の再認識における社会情報が及ぼす影響に関する研究
- ・健康増進に関わる防衛体力とそれに対する運動効果に関する文献研究
- ・健康への運動効果に関する文献的研究
- ・高機能自閉症における一般流動性知能について
- ・心の健康についての文献的研究 ~宗教的視点を中心に~
- ・社会的スキルを介した愛着と不登校問題の関係
- ・若年女性におけるアレルギー疾患と食習慣および体組成・免疫獲得機会・ストレスとの関連について
- ・小学生における空間性ワーキングメモリの発達に関する研究
- ・摂食障害発症の関連要因に関する文献学的検討
- ・糖尿病患者における履物選択意識およびその行動
- ・美容から見た健康に関する文献的検討(化粧と健康との関係)
- ・ワーク・ライフ・バランスと健康に関する文献的研究

学生からのメッセージ



広い視野で物事をとらえ、自分自身を深めていく場所

松浦 万里 さん(健康発達論コース4年生)

「健康発達」は様々な観点から健康をとらえ問題解決に導く学問です。「健康」といっても予防医学的な観点だけでなく、教育的・心理的・環境的観点と幅広い視野で物事をとらえる必要があります。私たちの生活において「健康」は当たり前のごとく感じるかもしれませんが、決してそうではなく、実は様々な要因から成り立つものなのです。その「当たり前」にも思える事を、改めて学び考え、そして理解を深めていく場こそがこの「健康発達論コース」なのです。当たり前だと思っていたことの仕組みや、現代における健康問題の解決の糸口を学ぶことはとても楽しく有意義なことだと感じながら毎日このコースで過ごしています。「健康」という観点から人間の行動をとらえてみると、自分自身だけでなく周りの人々への関心も広がり、そこからまた自分の考えを深めることができます。そんな「健康発達論コース」であなたと一緒に学びませんか?

行動発達論 コース

Course Keyword 【コースキーワード】

- 加齢
- 学際性
- 行動発達
- 文理融合
- 適応
- 高齢社会

加齢にともなう人間の行動の「発達」と「適応」を学際的に探求

年齢とともに人間の行動はいかに発達し、人間はどのように社会に適応していくのでしょうか。人間の行動の発達にはどのような個人的・社会的課題が存在し、どのようにすればそれらの課題を解決でき、人間行動の発達を促進できるのでしょうか。行動発達論コースでは、そうした疑問や関心に答えられるように、人間行動の発達と適応に関する仕組みや原理を学び、現実のさまざまな人間行動を多角的に説明、理解する能力と実践力を身につけ、人類社会に貢献しうる学生の育成を目指しています。行動発達論コースでは、以下に示すような学際的・総合的な4つの学習目標を設定しています。1) 人間の行動を生体メカニズムから社会・文化的行動まで総合的に理解する能力を身につける。2) 人間の行動を発達論的視点と社会・文化的視点から分析

的に理解する能力を身につける。3) 人間の行動を自然科学と社会科学の両面から観察・解明する方法を習得する。4) 人間の行動と環境との関係についての理解を深める。これらの学習目標を達成するために、このコースでは、応用生理学、環境生理学、身体運動科学、加齢体力学、社会学、社会心理学、行動適応学、実験心理学、ジェロントロジー、アクティブエイジング研究、スポーツプロモーションなど行動発達に関わる諸領域の理論と方法を学び、実践力を養います。現代の人間や社会が抱えている多様な課題に情熱を傾けて意欲的に取り組む学生、そして人間行動に関わる未知の分野を積極的、自主的に開拓する意欲のある学生を待っています。

主なコース専門科目

- 行動発達研究法
- 予防医学概説
- 行動適応論演習1・2
- 運動心理学
- 健康行動科学
- エイジング研究
- 社会行動論演習1・2
- 行動発達演習1・2
- 身体運動制御論
- バイオメカニクス実験
- 行動適応論
- 身体機能加齢適応論1・2
- 運動処方論
- 栄養学
- 健康政策論
- 身体適応論
- 身体適応論演習1・2
- ストレス生理学
- 乳幼児発達論
- スポーツプロモーション論
- アクティブエイジング研究演習1・2
- ヘルスポモーション論
- 臨床心理学

教員からのメッセージ



超高齢化社会を 心理学的側面からとらえる

増本 康平 准教授(高齢者心理学, 実験心理学, 認知心理学)

日本は高齢化社会であると言われるが、どれくらいの高齢化かご存知ですか?現在、65歳以上の高齢者が人口に占める割合は23.1%で、2035年ごろには人口の3人に1人が高齢者となると推計されています。このような超高齢社会では医療や福祉分野に限らず、経済・テクノロジー・生活環境・娯楽といったあらゆる分野で高齢者のニーズを取り入れる必要があるため、近年、加齢が人に与える影響について関心が高まっています。

私たちの研究室では心理的側面、特に記憶や感情、自己認識といった認知機能に着目し、加齢が認知機能に及ぼす影響や認知機能の低下が日常生活に及ぼす影響、反対に年齢とともにポジティブに変化(生涯発達)する機能について研究を行っています。認知機能の老化、あるいは発達についてはまだまだわからないことだらけです。誰にとっても不可避な加齢という現象と心の関係について一緒に研究してみませんか?

スタッフと研究分野・研究テーマ

† 2013年3月31日をもって退職予定

岡田 修一 教授	小田 利勝 教授†	近藤 徳彦 教授	長ヶ原 誠 准教授	増本 康平 准教授
加齢の身体運動科学	社会学, ジェロントロジー(老年学), 地域研究	応用生理学, 運動生理学, 環境生理学	スポーツプロモーション, 健康行動科学, ジェロントロジー	高齢者心理学, 実験心理学, 認知心理学
高齢者の立位バランス能力の多角的な分析・評価、及びその知見に基づいた転倒予防法の開発と効果判定に関する研究を行っています。	人間は、なぜ、そうした行動をするのか、しないのか。様々な場面における人間行動の不思議を社会調査と行動科学の理論に基づいて解明します。	物理的な外部環境の変化や運動に対するヒトの呼吸・循環・体温調節機構の適応を、生理学的観点から検討し、ヒトのからだの不思議にせまります。	成人・中高齢者を対象とした健康増進やスポーツ振興をテーマとして、健康的かつ活動的に年齢を重ねていくための支援方法を探究しています。	ひとの記憶・注意・感情・思考といった認知機能の仕組みや、加齢によるそれら認知機能の変化について実験心理学的手法を用いて研究しています。

主な卒業研究テーマ

過去2年分より抜粋

- ・ランニングにおけるピッチの変化が体温調節反応に及ぼす影響
- ・三次元映像を用いた突然の視覚的外乱が高齢者の立位バランスに及ぼす影響
- ・大学野球部員における野球グラブの満足度と再購入に関する研究
- ・大学野球部におけるキャプテンとポジションリーダーのリーダーシップ行動に関する研究
- ・8週間にわたるオーディオビジュアル機器を用いた体操が高齢者の運動・認知機能および社会性に及ぼす影響
- ・なぜ終の棲家として有料老人ホームを選ぶのか
- ・大学女子ラクロス競技者のスポーツ価値意識に関する研究～男女比較による女子の特徴に着目して～
- ・異なる歩行面における二重課題が高齢者の歩行動作に及ぼす影響
- ・環境温度の違いが味覚閾値に及ぼす影響
- ・地域日本語教室の学習者ニーズに関する研究—学習目的別の比較研究—
- ・東日本大震災における小規模復興支援プロジェクトに関する研究
- ・地デジ化に伴う高齢者のテレビ視聴に関する研究—データ放送の利活用に着目して—
- ・Simple Cognitive testにより評価された認知機能と心身機能及び社会的活動性との関係
- ・生け花が中高齢者に及ぼす心理・社会的効果に関する研究
- ・家族の死の受容に関する研究～ネットがもたらすものとは～
- ・高齢者の就活に関する研究
- ・高齢者の投票参加に影響を及ぼす要因分析
- ・滋賀県民にみる国民幸福度の要因とは—滋賀県民のスピリチュアリティに着目して—
- ・自助グループにおける摂食障害者の新たな自己概念の獲得～「逃げ」という前進～
- ・ジョガーのランニングウェア選好に関する研究
- ・大学生のハンドボール継続に関する研究
- ・暖色・寒色が温度環境の違いによる自律神経活動に及ぼす影響
- ・段鼻の色および動作局面が高齢者の階段降下時の下肢筋活動に与える影響
- ・中高齢者の「婚活」プロセス—結婚相談所に見る中高齢者の結婚活動の実態—
- ・聴覚障害者の国外旅行の実態(国外旅行経験に影響を及ぼす要因の分析)
- ・募金を巡る社会行動論的研究
- ・歩数の違いが高齢者の運動機能・認知機能および主観的健康度に及ぼす影響
- ・幼児の体温と身体活動性および環境要因との関連
- ・ラベンダーとグレープフルーツの香りが高温下での自律神経活動に及ぼす影響

学生からのメッセージ

仲間との支えあいがあるからこそ、やりたいことに没頭できる

森本 久美子 さん(行動発達論コース4年生)

私は行動発達論コースで、スポーツプロモーションを専攻しています。所属するゼミでは、スポーツの振興方法を科学する研究の一環として、スポーツイベントの企画・運営を行っています。他のゼミとは形式が全く異なり、座学ではなく実際の体験を通して様々なことを学ぶことができます。卒業論文は、自分の興味・関心を第一にテーマを設定できるので、意欲的に取り組みます。

私が行動発達論コースで良かったと思う理由は、同回生はもちろんとして、先輩方に恵まれていることです。勉強のことだけでなく、就活やプライベートな悩みにも、親身に相談のってくださいます。

また、このコースでは、個人が熱中していることを、教授も含め全員が全力で応援してくれます。私の大学生活の中心には部活動がありますが、先輩方が試合の応援に駆けつけてくださることもあり、とても心強いです。

素晴らしい友人、先輩、教授に囲まれながら充実した大学生活を送っています。



身体行動論 コース

Course Keyword (コースキーワード)

- 体力・運動処方科学
- 身体行動の心理
- 身体行動とスポーツ医学
- 身体行動の社会学
- バイオメカニクス
- 体育・スポーツの歴史

人間の「行動」と「スポーツ」を科学するチーム

身体行動には日常生活を構成する基本的な運動から、気晴らしや健康のための軽い運動、スポーツのような人間が創造した身体文化に至るまで、実にさまざまな身体活動が含まれます。本コースでは、このような身体行動に関するさまざまな事象を自然科学・人文科学・社会科学的手法を用いて分析し、人間の発達および社会との関わりにおいて身体行動が果たす役割を究明すること、さらにはこれらの知見をスポーツ行動や生活の場に応用し、運動機能の向上を助け、よりよい身体行動の実践に貢献したいと考えています。代表的な授業科目としては、体育・スポーツ史、運動心理学、体力科学論、身体運動技術論、ストレス生理学、身体運動制御論、生涯スポーツ論、運動処方論などの

講義があります。また、実験科目として、バイオメカニクス実験や運動生理学実験も用意しています。人間の運動を種々の測定機器を駆使して、さまざまな手法を用いて分析し、人間の身体運動のメカニズムを自らの手で実験・解析することによって理解を深めます。実習科目では水泳系運動方法論、野外運動方法論など、学生と教員やティーチングアシスタント学生が宿泊をともにして海洋実習や六甲山縦走、スキー実習などを展開しています。3年次からは各研究室に分かれ、演習を中心に卒業研究を進めるために必要な知識や手法を学び、総まとめである卒業研究へと発展させていきます。さらには大学院への研究発展をも可能にできることを目指しています。

主なコース専門科目

- 体育・スポーツ史
- 体力科学論
- 陸上運動方法論
- バイオメカニクス実験
- スポーツ社会学研究法
- スポーツ社会学
- 身体適応論
- 水泳系運動方法論
- 球技運動方法論
- 運動心理学研究法
- 運動心理学
- 身体運動制御論
- 野外運動方法論
- 武道系運動方法論
- 体操運動方法論
- 身体運動技術論
- ストレス生理学
- スポーツマネジメント論
- 舞踊運動方法論
- 運動処方論
- 運動障害論
- 運動生理学実験
- 体育・スポーツ史研究法

スタッフと研究分野・研究テーマ

† 2013年3月31日をもって退職予定

秋元 忍 准教授	河辺 章子 教授	高田 義弘 准教授	高見 和至 准教授	武井 義明 教授
体育・スポーツ史	運動生理学(身体運動制御)	運動生理学(身体コンディショニング)	運動心理学	運動生理学(健康運動生理学)
スポーツの未来を展望するには、その過去と現在に関する深い認識が不可欠です。身体・スポーツ文化の過去を新しい視点から解明します。	ヒトの運動の発現のしくみから動きの巧みさを考えるとともに、どのようにして巧みな動作を身につけることができるかを探究しています。	野球投手の障害予防や競技力向上のためにはどのようなトレーニングを行えばいいのかを、疲労とパフォーマンスの変化から研究します。	運動やスポーツは「時間とエネルギーの消費」とも言えます。では何故、人は夢中になり、何を得ているのでしょうか。この人間の心理に潜む「何故」を探究しています。	運動などの刺激による身体のストレス状態を生理学的に定量評価する研究および日常的な身体行動によるストレス状態の軽減に関する研究をしています。
平川 和文 教授	前田 正登 教授	柳田 泰義 教授†	山口 泰雄 教授	
運動生理学(運動処方論、体力・トレーニング科学)	スポーツ技術論、スポーツバイオメカニクス、スポーツ工学	スポーツ医学、特にスポーツ時における軽度頭部外傷	スポーツ社会学、生涯スポーツ論	
「子どもの体力・運動能力」「スポーツの競技力向上」「高齢者の運動と健康」について、運動処方の観点から研究しています。	身体運動やスポーツのバイオメカニクスとして人間(選手)の動作・技術を解析します。またそれらの運動技術の習得過程に関する研究を行います。	スポーツや身体運動、学校体育の場面で発生する外傷(障害)について、その実態を調査し、発生原因を明確化したうえで実験方法を駆使して予防策を検討します。	スポーツの多様な社会的側面に焦点を当て、スポーツとまちづくり、スポーツ・ツーリズム、ボランティア、スポーツ政策などを研究しています。	

主な卒業研究テーマ

過去2年分より抜粋

- ・弾性ソックス着用が運動後の心臓自律神経系活動に及ぼす影響
- ・野球における走塁技術に関する研究
～進塁時間短縮のための走塁方法を求めて～
- ・野球投手における投球腕の動作がボールの回転に及ぼす影響
- ・フットサル選手の間欠的持久性評価方法の検討
～直線、方向変換に着目して～
- ・KR&AC交流試合が神戸におけるサッカー普及に果たした役割
—明治から大正期を中心に—
- ・縄跳び運動が子どもの集中力に及ぼす影響
- ・走運動における下肢動作の左右差に関する研究
- ・大学運動部における集団効力感を規定する要因
- ・女子ラクロスにおけるクロスの保持が走運動に及ぼす影響
- ・中年ランナーの自主的な運動の継続要因
- ・水泳における効果的な下肢トレーニングの検討と付随する腰痛に関する実験的研究
- ・膝関節伸筋力に対するアブドミナルベルト着用の影響
- ・運動後低血圧を引き起こす運動強度の下限の検討
- ・1分間の高強度激運動による疲労指標に関する研究
—3時間の休息期をはさむ運動の反復からの検討—
- ・運動後のクーリングダウンにおけるPNFストレッチが筋疲労回復に及ぼす効果
- ・競技種目の違いからみた立ち幅跳びの最適跳躍角度に関する研究
- ・筋出力量の記憶保持に関する研究
—保持時間と発揮筋力の大きさに着目して—
- ・Jリーグクラブにおけるボランティアマネジメントに関する研究
—関西に拠点を置くクラブに着目して—
- ・スポーツ経験がスポーツ参加に与える影響
—「みるスポーツ」と「するスポーツ」の2つの観点から—
- ・大学運動選手におけるセルフトークの使用状況と効果に関する研究
- ・男子ラクロス競技フェイスオフスキルに関する研究
- ・投球数の増加に伴う上肢と下肢の筋疲労からみた投手の類型化の試み
- ・バスケットボールの試合による疲労がジャンプシュートに及ぼす影響
- ・バレーボールのスパイクジャンプに関する研究
—両脚の使い方に着目して—
- ・ボート競技において肩と肩甲骨の関節可動域が漕動作に及ぼす影響

教員からのメッセージ



スポーツパフォーマンス向上と子供から高齢者までの体力増進

高田 義弘 准教授(運動生理学(身体コンディショニング))

スポーツを構成する体力要素は、種目によって大きく違います。例えば投手が速い球を投げるためには、どのような能力を向上させればいいのか。筋力?筋持久力?筋パワー?これまでのトレーニングの量や質も違えば、身長や腕の長さなどの体格も違い、筋肉の質も違ってきます。これをやれば絶対に速い球が投げられるなど、パフォーマンスを伸ばす魔法の方法はありません。現在のレベルに応じた正しいトレーニングを行う必要があります。ゼミでは、その競技に必要な体力要素とそれをどのように測定して評価するのかや、どのようなトレーニングをどのくらいを行えばいいのかを研究します。また、現在医療費の高騰などの一因となっている生活習慣病予防対策について、その知識をどのようにすれば啓蒙できるかを各種団体と協力しながら講演会や展示会を企画し行っています。さあ、あなたも一緒に社会に役立つ研究・教育活動を一緒にやりませんか。

学生からのメッセージ



「上手になりたい」その気持ちがスタートライン!

竹内 彩華 さん(身体行動論コース4年生)

みなさんは今まで体育の授業や部活動、その他の活動を通して運動やスポーツをしてきたと思います。きっとみんな「上達したい」「上手になりたい」と思いながら取り組んできたのではないのでしょうか。身体行動論コースは、これらの気持ちを軸に、実際にどういったことをどのようにすればよいか、どういったことに気を付けなければならないのかといった具体的なことを学び、考えていくコースです。私は中学から現在に至るまでずっと陸上競技をして、「足が速い」って具体的にどういふことなのか知りたかったことがこのコースに行きたいと思ったきっかけでした。みなさんにも自分が今まで経験した運動やスポーツについてもっと深く知りたいと思うこと、もっと上手くなるためにはどうしたらいいのか考えてみたいと思うことがあると思います。それができるのはこの身体行動論コースです。私たちと一緒に、楽しくかつ真剣に身体運動について学びませんか?

人間表現学科

人間のあらゆる営みを、「表現」をキーワードに解明する

学科の理念

広い知識を授けるとともに、音楽、造形、パフォーマンス等の人間の様々な表現や創造活動について教育研究を行い、教養並びに表現領域についての幅広い知識や個々の領域における専門的な知識及び技術を身に付け、研究、創造及び社会的実践に関する優れた能力を有する人材を養成することを目的とします。

学科の特色

表現の原初に立ち帰る

人の表現行為は、日常の何気ない所作や立居振舞から「芸術」と呼ばれるものまで、実に多様です。その現れ方は、音声や身振りに始まり、身体や道具を使っての音、色、かたち、香り、味などの創造へと多彩に発展しますが、すべては人間の五感に基づくものです。近年のテクノロジーの進歩は、この表現の実体までも曖昧していくかのようにですが、私たちは、変容し続ける人間の表現行為について、まずその原初に立ち帰って考えます。



複眼的アプローチで挑む

表現は、私たちの生の反映です。私たちひとりひとりの一挙一動には、その影響と反応を、無限に繰り返し共有するコミュニケーションのサイクルが内包されており、それが歴史を創るのです。その渾然一体となって姿を変える人間表現の解明に、私たちは、表現創造論、表現文化論、臨床・感性表現論という3つの視点から複眼的なアプローチで挑みます。



アート/ヒューマンインターフェースの研究・開発を目指す

専門性を高めることは何より重要なことですが、その上で私たちが目指すのは、本来、分かれがたい表現領域から、音楽、舞踊、美術、ファッションというように分割されてきた専門分野を、「表現」を鍵にして結び合おうとする教育研究の場です。ここから、多彩な表現世界を自由に往来して、新しい表現と価値を生み育て、人と人をつなぐ豊かなアートの創造と研究に携わる人材が生まれゆくことを願っています。

履修コース

歴史や社会といった文脈の中で、表現文化を考える

表現文化論 コース 定員：18名 ▶P44



未来を担うクリエイター、ファシリテーターを目指そう!

表現創造論 コース 定員：18名 ▶P46



新しいアート・ヒューマンインターフェースの開拓に挑戦する

臨床・感性表現論 コース 定員：12名 ▶P48



主な取得可能な資格免許

*全ての学科に共通の資格免許

- ・ 中学校教諭一種免許状(音楽)
- ・ 高等学校教諭一種免許状(美術)
- ・ 社会福祉主事任用資格*
- ・ 高等学校教諭一種免許状(音楽)
- ・ 学芸員*
- ・ 環境再生医資格*
- ・ 中学校教諭一種免許状(美術)
- ・ 社会教育主事*

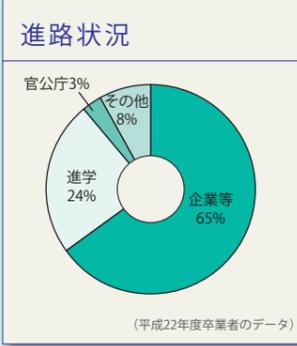
学科長からのメッセージ

学科長 塚脇 淳教授
(表現創造論コース)

「表現」への関心の持ち方は多様です。演奏や制作が得意な学生もいれば、鑑賞すること考えることに興味を持つ学生もいる。人間表現学科は、いわば発信する側と受信する側の両方の視点に立って表現を考えることのできる人の集合体でありたいと願っています。そういった学生と教員がともにそれぞれの持ち味を響き合わせることができれば、表現研究の新たな地平を開拓できると思うからです。そのために、2011年度から入試科目に大きな変更を加えました。美術受験コースを描写力試験のみとしたことや、実技試験を課さずに学科試験のみとする受験コース新設などです。各自の関心と得意を通して集まった人材が各自の個性を持ち寄り、それらが合わさり融け合ったとき、人間表現のどのような姿が浮かび上がってくるのか、とても楽しみです。そんな出会いを待っています。



入学から卒業までの流れ・カリキュラム

	1年	2年	3年	4年	卒業後						
	学部共通科目		発達支援論コースに進むことも可		進路状況  <p>(平成22年度卒業者のデータ)</p>						
	全学共通科目, 全学共通基礎科目		コース専門科目								
	学科共通科目	コース配属が決まります	ゼミ(研究室)配属が決まります	卒業研究							
全学共通科目	● 教養原論 ● 外国語科目	● 情報科目 ● 健康・スポーツ科学									
学部共通科目	● 発達科学への招待										
学科共通科目	● 表現文化概論 ● 表現創造概論 ● 臨床・感性表現概論 ● 創造の発想とプロセス	● 音楽理論1 ● 音楽理論2 ● サブカルチャー論 ● 先端表現演習A	● 遊びと芸術 ● 心理学入門 ● 生涯学習論	● 表現文化概論 ● 音楽理論1 ● 遊びと芸術 ● 心理学入門 ● 生涯学習論	● デザイン史1 ● 都市・建築文化論 ● ファッション文化論1 ● 声楽表現概論	● 合唱表現演習 ● コミュニティー音楽 ● ヴィジュアル・コミュニケーション論 ● 身体表現論	● 空間表象論 ● 子どもの表現 ● 身体文化論 ● 発達支援論研究	● 人間の発達と表現 ● アートマネジメント ● 舞台芸術論	● メディア論 ● 合唱表現演習 ● 表現ワークショップ論	● 表現の政治学 ● 音楽資料調査法	
コース専門科目	表現文化論	● 社会調査法	● 都市と建築の20世紀 ● 西洋音楽文化論 ● 西洋音楽文化論演習	● デザイン史2 ● デザイン史演習 ● 都市と建築の20世紀演習	● ファッション文化論演習 ● 映像・メディア論演習	さらに学びたい人は 大学院に進学					
	表現創造論		● 表現創造演習1・企画 ● 音楽集団活動論 ● ピアノ演奏概論 ● ピアノ演奏演習1 ● 声楽表現演習1	● 音楽集団活動論 ● 音楽理論3 ● 音楽理論4 ● 立体造形 ● 立体造形論 ● 声楽表現演習2 ● 音楽理論3 ● 音楽理論4 ● 立体造形 ● 立体造形論	● 絵画表現 ● 絵画表現論 ● 先端表現演習B ● 舞踊創造論 ● 舞踊創造論演習	● 人間表現専攻 <input type="checkbox"/> 表現文化論 ● コミュニティアート <input type="checkbox"/>					
	臨床・感性表現論	● 社会調査法	● 芸術療法論 ● 舞踊創造論 ● 舞踊創造論演習	● 心理統計法 ● 生活環境心理学 ● 西洋音楽文化論	● 感性心理学概論 ● 感性を測る ● 音楽療法論 ● 即興演奏	● 映像論 ● 臨床舞踊論 ● 臨床舞踊論演習 ● リトミック ● 深層心理学	● 人間表現専攻 <input type="checkbox"/> 表現文化論 ● コミュニティアート <input type="checkbox"/>				
		コース配属について	ゼミ配属について								
		2年次より各履修コースに所属します。各履修コースの定員は次のとおりです。1年次終了時に行うガイダンスで希望を調整し、履修コースを決定します。	3年次からゼミ(研究室)に所属します。4年次には、指導教員の下、所属するゼミ(研究室)で卒業研究を行います。各履修コースで定められたルールに従って、所属するゼミを決定します。								
		表現文化論 コース 18名 表現創造論 コース 18名 臨床・感性表現論 コース 12名									

OB&OG INTERVIEW

INTERVIEW 01

東京芸術大学音楽研究科
音楽文化学音楽文芸専攻博士課程 在籍

生田 美由紀 さん
(2009年3月卒)



分野横断型の学びがくれたもの

演劇と音楽の二つに興味を持って人間表現学科に入学した私ですが、神戸大学在籍時には、学科の特質である「各芸術分野を横断的に学ぶ」ということを最大限に活用できました。現代アートについて学ぶ機会は特に多く与えられ、中でもそれぞれ異なる特技をもつ仲間たちと分野横断的なパフォーマンスを創作する機会が与えられたのは、現在の私が芸術に関わるうえで、重要な経験となっています。大学在籍時に教授を通して関った市民オペラでの経験がきっかけで、外国作品を日本語で歌うことの意義はなにかということに疑問を持ち、より専門的な研究を志して東京芸術大学に進学しました。現在は外国オペラの「訳詞」について研究を進めています。また、演劇活動も続け、某新劇団の研修所に所属しています。芸大でも研修所でも、それぞれ専門分野に特化した活動になりがちですが、人間表現学科で学んだ幅広いアプローチ方法は大きなヒントになっています。

INTERVIEW 02

大阪府立吹田高等学校 勤務

池本 早織 さん
(人間行動・表現学科2008年3月卒)
(発達科学部は2005年4月に3学科を4学科に改組しました。人間行動・表現学科は現在の人間行動学科と人間表現学科の前身です。)



今、私が最も学生に送りたい言葉、 「好奇心の塊であれ」

私は現在、大阪府立高校で音楽教諭として勤務しています。教員という仕事には昔から興味があり、その想いは変わることなく発達科学部入学へ至りました。教員採用試験受験の際、志望動機を改めて考えましたが、結局答えは「学校という場所が好きだから」。

学部時代、指導教員である大田美佐子先生の生き方に非常に感化され、「音楽学」というものの見方が変わり、大学院に進むに至りました。人間表現専攻において、音楽のみならず他の表現分野の意見を横断的に吸収し、メディアを駆使した原語論文収集法や研究者としての心得を学ぶことができたことは、大きな収穫でした。ドイツ、オーストリア、アメリカに短期留学したり、学会に積極的に参加したりするなど二年間貪欲に過ごし、その経験は現職で活かされています。自身の専門は近現代アメリカ音楽史ですが、将来もう一度現地で研究したいというのが野望です。今は現場で日々奮闘していますが、ずっと変わらず「好奇心の塊」でありたいと思っています。

INTERVIEW 03

株式会社
博報堂プロダクツ 勤務

宇野 雅晴 さん
(2011年3月卒)



今をかたちづいているのは、 ひとつひとつの学びです

私は広告制作会社の営業として、顧客動向のデータ分析、webサイトの作成・管理、DMなどの販促物の制作を行っています。大学時代は、情報社会論のゼミで学んでいました。メディアと密接な関係があり、社会の雰囲気をつかえ、発信し、購買の促進や企業のイメージづくりに寄与する広告業に興味があり、この仕事を選びました。

学生時代を振り返って印象に残っているのは、美術、音楽、身体表現といったさまざまな分野の先生方と直接インタラクティブな意見のやりとりができていたことです。それが可能だったのは、大学という環境だからこそのことです。

この学科は、学んだことが直接仕事と結びつくようなタイプではないと思います。しかし、感性や美といった抽象的で明確な答えのない命題に取り組むことによって、その人なりのユニークな考え方や解決法が身に付くと思います。広告は人と違った視点で価値を生み出すことが大事なので、大学での学びは私の強みと自信になっています。

INTERVIEW 04

セントラルスポーツ
株式会社 勤務

高畑 侑季 さん
(2010年3月卒)



スポーツクラブという舞台ではたらく

私はスポーツクラブに就職し、インストラクター業務を行って2年が経とうとしています。エアロビクスやダンスのレッスンも行うほか、子どものスクール指導から経費の処理まで様々な業務をこなしています。私は在学中から「身体表現力を活かして人を元気にしたい」という思いで将来を考えていたので、「0歳から一生涯の健康づくりに貢献する」という企業理念に惹かれ就職しました。お客様の喜ぶ顔が最高のやりがいです。在学中には自らが中心となり学科の皆で協力し、舞台を一から作り上げたのが強く印象に残っています。スポーツクラブでもアルバイトを含め多くのスタッフがいる中、どう上手くまとめていこうかがクラブを率いる社員としての役目でもあります。私は在学中の経験を活かし、より良いクラブを作れるように一人ひとりの特性を見てアドバイスをしています。これからもお客様を元気にできる活気のあるクラブを作り、健康産業を盛り上げていきたいです。

主な進路・主な資格免許の取得状況

表現文化論 コース

主な進路

さらに学びたい人はp. 98, 100へ。

- | | |
|----------------|-----------------|
| 2011年度 | 2010年度 |
| ・神戸デザインクリエイティブ | ・オリンパス |
| ・ジーユー | ・神戸珈琲 |
| ・社会福祉法人希望の家 | ・サイバーエージェント |
| ・バルグループ | ・セブテーニ・ホールディングス |
| ・JR西日本伊勢丹 | ・大志学園 |
| | ・中部電力 |
| | ・博報堂プロダクツ |
| | ・モダンタイムス |
| | ・ワークスアプリケーションズ |
| | ・神戸大学大学院 |
| | 人間発達環境学研究科(1名) |

主な資格免許の取得状況

社会教育主事, 社会福祉主事任用資格を除きます。

- | | |
|------------------|------------------|
| 2011年度 | 2010年度 |
| ・中学校教諭一種免許状(家庭) | ・中学校教諭一種免許状(音楽) |
| ・高等学校教諭一種免許状(美術) | ・高等学校教諭一種免許状(音楽) |
| ・学芸員 | ・学芸員 |

臨床・感性表現論 コース

主な進路

さらに学びたい人はp. 98, 100へ。

- | | |
|------------------|--------------------|
| 2011年度 | 2010年度 |
| ・コーエーテクモホールディングス | ・キリンビバレッジ |
| ・コベルコシステム | ・タマホーム |
| ・東海ゴム工業 | ・西松屋チェーン |
| ・阪神高速道路 | ・ノバレーゼ |
| ・埼玉県職員 | ・日立造船 |
| ・神戸大学大学院 | ・三菱電機 |
| 人間発達環境学研究科(1名) | ・国際教養大学大学院(専門職大学院) |

主な資格免許の取得状況

社会教育主事, 社会福祉主事任用資格を除きます。

- | | |
|------------------|------------------|
| 2011年度 | 2010年度 |
| ・小学校教諭一種免許状 | ・高等学校教諭一種免許状(美術) |
| ・中学校教諭一種免許状(音楽) | ・学芸員 |
| ・中学校教諭一種免許状(美術) | |
| ・高等学校教諭一種免許状(音楽) | |
| ・高等学校教諭一種免許状(美術) | |
| ・学芸員 | |

表現創造論 コース

主な進路

さらに学びたい人はp. 98, 100へ。

- | | |
|----------------|----------------------|
| 2011年度 | 2010年度 |
| ・キョードー大阪 | ・アシックス商事 |
| ・愛媛朝日テレビ | ・川崎重工業 |
| ・星野リゾート | ・ケイ・オプティコム |
| ・レンゴー | ・真生印刷 |
| ・NTTドコモ | ・総合商研 |
| ・神戸市立保育所 | ・東京海上日動火災保険 |
| ・大阪府立学校教員(中学) | ・希学園 |
| ・神戸大学大学院 | ・パルス |
| 人間発達環境学研究科(2名) | ・NRIネットワークコミュニケーションズ |
| | ・大阪府警 |
| | ・神戸市教員(小学) |
| | ・神戸大学大学院 |
| | 人間発達環境学研究科(2名) |
| | ・京都大学大学院文学研究科 |
| | ・アート・アニメーションのちいさな学校 |
| | ・大阪デザイナー専門学校 |

主な資格免許の取得状況

社会教育主事, 社会福祉主事任用資格を除きます。

- | | |
|------------------|------------------|
| 2011年度 | 2010年度 |
| ・小学校教諭一種免許状 | ・小学校教諭一種免許状 |
| ・中学校教諭一種免許状(音楽) | ・中学校教諭一種免許状(音楽) |
| ・中学校教諭一種免許状(美術) | ・中学校教諭一種免許状(美術) |
| ・高等学校教諭一種免許状(音楽) | ・高等学校教諭一種免許状(音楽) |
| ・高等学校教諭一種免許状(美術) | ・高等学校教諭一種免許状(美術) |
| ・幼稚園教諭一種免許状 | ・幼稚園教諭一種免許状 |
| ・学芸員 | ・学芸員 |

表現文化論 コース

▶ Course Keyword (コースキーワード)

- 表現
- デザイン
- 建築
- メディア
- 音楽
- ファッション

歴史や社会といった文脈の中で、表現文化を考える

「表現」といえば、アーティストやパフォーマーの専売特許だと思いませんか?もし、あなたがそんなふうに思っているなら、ぜひ表現文化論コースの扉を叩いてみてください。そこには、これまで知らなかった表現の世界が広がっているはず。表現文化を学ぶ立場からすれば、あらゆる人間の生きた証こそが「表現」なのです。そのとき表現者とは、何か特別な才能をもった人ばかりではありません。それとは比べものにならないくらい多くの普通の人びとがそれぞれの時代を懸命に生きる中で、さまざまなモノが創り出され、歌が生まれ、街がで、流行と同時に変わらぬ伝統も受け継がれてきたのです。傑出した芸術作品もまた、この広がり抜きには語れません。

このようにして、近代社会の形成とともに人間をとりまく環境や身の回りのものごとは、目まぐるしく変容してきました。それはまた、人間の考え方や振る舞いにも影響を与えずにはおきません。表現文化論コースでは、近現代において独自の展開を見せてきた表現分野、たとえば建築、デザイン、メディア、ファッション、音楽文化、舞台芸術などを取り上げながら、人間の創造物や表現行為に関わる歴史や文化を、政治や経済、社会、技術といったさまざまな文脈から学び、人・モノ・社会の交流のなかに生成する近現代の表現文化を見つめ、考え、その可能性を探求します。そのなかから、あなたの知的好奇心は、新たな表現のあり方と人間の姿を発見することでしょう。

主なコース専門科目

- 都市と建築の20世紀
- 音楽理論3・4
- 都市と建築の20世紀演習
- 感性を測る
- 映像・メディア論演習
- 西洋音楽文化論
- 立体造形論
- ファッション文化論2
- 感性心理学概論
- 西洋音楽文化論演習
- デザイン史2
- 映像論
- 臨床舞踊論
- 音楽集団活動論
- デザイン史演習
- 音楽療法論
- ファッション文化論演習



教員からのメッセージ

ファッションの「今」を過去から見つめ直す

平芳 裕子 准教授(ファッション文化論, 表象文化論)

みなさんは「おしゃれ」と言えば女性のものと思いませんか。ハイヒール、アクセサリ、レース、刺繍など、現代の女性ファッションにとって欠かせないアイテムが、歴史を遡ると実は「男性」貴族を華やかに飾っていたことがわかります。それではなぜ、どのようにしてファッションは女性的なものとなされたのでしょうか。私のゼミでは、西洋を中心にファッションやブランドをとりまく文化の歴史を学び、人々がファッションをいかに解釈してきたのかを考え、実物の服飾作品を美術館で見学しながら、近現代のファッション文化に対する知識と理解を深めています。古くから洋服産業の発展してきた街・神戸において、歴史を学ぶことで、ファッションの「今」を過去から見つめ直し、現代に対する認識を新たに卒業生の中には実際、ファッション業界で活躍している人もいます。あなたもファッションについて、ぜひ一緒に学んでみませんか。

スタッフと研究分野・研究テーマ

† 2013年3月31日をもって退職予定

梅宮 弘光 教授	大田 美佐子 准教授	田畑 暁生 准教授	中山 修一 教授†	平芳 裕子 准教授
近代建築史	西洋音楽史, 音楽美学	社会情報学, 映像論	デザイン史	ファッション文化論, 表象文化論
20世紀の建築について研究しています。とくに日本の大正期、昭和戦前期。実際に建てられたものだけでなく、計画倒れや夢に終わったものも興味深いです。	両大戦間の音楽文化の諸相(音楽・音楽劇における伝統の継承とその展開、受容の問題)について研究しています。	現代は情報社会と呼ばれ、さまざまな情報メディアが社会で利用されていますが、その機能や影響について、特に映像メディアを中心に、研究しています。	近代英国のデザインに関する研究をしています。とりわけ、ヴィクトリア時代の詩人にして工芸家、政治活動家でもあったウィリアム・モリスに関心をもっています。	ファッションとそれをとりまく文化の歴史を明らかにすることによって、西洋近現代を中心とする「ファッションと女性」との関わりを考察しています。

主な卒業研究テーマ

過去2年分より抜粋

- ・舞台芸術とマーケティング ～その理論と実践について～
- ・日本人の美意識に関する考察 —ファッション文化史的な観点から—
- ・ブランドとしてのチャネルの継続性に関する考察 —復帰コレクションを中心に—
- ・複製技術と既製品の登場による芸術的価値観の変容についての考察 —デュシャン、ウォーホールに焦点を当てて—
- ・企業広告におけるヴィジュアル・デザインについての一考察 —『年鑑広告美術』の中のサントリーウイスキー4商品を事例として—
- ・コミックを原作とした実写映画化に関する考察 —「ハチミツとクローバー」の内容比較—
- ・雑誌『オートバイ』(1983年～2003年)に見られる Kawasaki GPZ900Rのデザインの変遷
- ・神戸市における1980年代以降の都市開発と遊園地
- ・「デジタル・コピー」の時代における音楽消費習慣の変容について
- ・日本のエイズポスター表現に関する研究
- ・パンクファッションの誕生と展開 —1970年代イギリスから現代日本まで—
- ・ファッションにおけるジャポニズム —着物がモードに与えた影響—
- ・「アウトサイダー・アート/アール・ブリュット」の日本での受容 —ボーダーレス・アートミュージアムNO-MAの取り組みから—
- ・デジタル情報財の価値設定問題に対する考察 —効率性と公平性の観点から—
- ・「ゆるキャラ」人気に関する一考察
- ・1936年撮影神戸市空中写真の分析をとおして見た、戦前期神戸の都市景観に関する研究
- ・1968年における男女の表象に関しての一考察 —『平凡パンチ』と『婦人公論』を手がかりとして—
- ・4マス媒体との比較から見るインターネット広告の課題
- ・iPodとウォークマンのコンテンツ保有からの考察 —テレビCM事例を通して—
- ・朝日新聞の松屋(呉服屋)店の広告(1922-1942年)に見られる銘仙の盛衰に関する一考察
- ・エドゥアール・マネ 近代絵画と女性像
- ・音楽史のなかのベルエポック —ドビュッシーの作品と思想を通して—
- ・芸術家と市民の「文化」観念の相違 ～明治期・大正前期の交響楽運動からみるオーケストラのアウトリサーチ活動への示唆～
- ・雑誌『暮らしの手帖』による生活の提案に関する研究

「知らない世界」を「知りたい世界」にできる場所

真柄 あゆみ さん(表現文化論コース4年生)

人間表現学科というと、作品を制作したりパフォーマンスを行うところという印象があるかもしれませんが、しかし、表現文化論コースは、文献調査をしたりレポートをまとめたといったことが主な内容です。私も最初の頃はコース専門科目に実技科目がないことに違和感を覚えました。個人的には美術作品の制作も続けていますが、授業ではオペラ、ファッション、統計など、これまで興味がないと思っていた分野も学びます。そして今は、人間の表現活動そのものを、一歩引いた地点から、歴史、経済、政治などの関係をふまえて考えることに、面白さを見出しています。

考えてみれば、自分の向き／不向きがわかるほど、世の中を知っているわけではなかったのです。人間の表現にも、たくさんの「知らない世界」があることに気づきました。授業などで垣間見た未知の世界。それへの小さな窓を、こんどは自分自身で大きく広げられるよう、充実した大学生活にしたいと思っています。



学生からのメッセージ

表現創造論 コース

Course Keyword (コースキーワード)

- 複合的表現
- 声楽
- 絵画
- 器楽
- 彫刻
- 作曲

未来を担うクリエイター, ファシリテーターを目指そう!

私たち人間は、遙か古の時代より、思考や感情を表現しようとする欲求に駆られて、さまざまな文化を生み出し、この地球に生き存えてきました。なかでも音楽、造形、舞踊といった創造的表現は、本来、人間の生存本能に基づく必然的な文化的・芸術的行為であり、人間固有の発達や人格の形成に欠くことのできない重要な営みとして人びとの暮らしの中に根付き、永々と受け継がれてきています。表現創造論コースでは、このような人間存在の根幹に関わる創造的表現の可能性を、音楽や美術に基軸を置いた実践的研究を通じて多面的に追求し、私たち人間の存在の意味や文明の未来を、自分自身に、そして社会に問いかけていきます。さらに、それらの枠組みでは捉えきれない多様な表現領域をも巻き込んだ「時間と空間における総合的な表現の創造」にも挑戦し、各人固有のエネルギーと個性を存分に生かした協

同一致の表現世界の創造を目指します。この試みはコース必修科目である一連の「表現創造演習」において総合的なパフォーマンスとして結実させますが、同時にアート・マネジメントの実践の機会としても活用し、企画立案からパフォーマンスまでのプロセスをトータルに学びます。一方、マルチメディアやニューテクノロジーによる先端的融合表現の領域をも視野に入れながら、次代を担う複合的で新しいタイプのクリエイター、ファシリテーターの養成を目指しています。つまり、当コースで育まれるのは、美や自然の尊厳に対する鋭敏な感覚と洞察力に富んだ問題意識並びに、バランスに富んだ統治能力と現場感覚なのです。そして、このような美意識や能力を具えた人間力豊かな人材こそが、アートを新たな調和の世界へと導き、未来を切り開くものと確信しています。

主なコース専門科目

- 表現創造演習1・企画
- 音楽集団活動論
- 音楽理論3・4
- 絵画表現論
- 合奏表現演習
- 表現創造演習2・運営
- ピアノ演奏概論
- 立体造形
- 先端表現演習
- 室内楽
- 表現創造演習3・制作
- ピアノ演奏演習1・2
- 立体造形論
- 舞踊創造論
- 表現創造演習4・総合
- 声楽表現演習1・2
- 絵画表現
- 舞踊創造論演習

教員からのメッセージ



うたう
-息づかいが聞こえていますか、
感じていますか?

佐々木 倫子 教授(声楽)

私のゼミには、声を使って表現することに興味がある人が集まっています。音楽の中で、歌だけが言葉を持っていますが、言葉に魂を吹き込むのが息づかいを伴った声です。たとえば、毎日誰かと交わす「こんにちは」という挨拶ひとつ取り上げても、私たちはこれが昼間に会ったときの挨拶だという意味以外に、この人は、今日は元気だとか、疲れているとか、何か怒っているなどということが無意識に感じ取っています。それは、言葉の意味ではなく、息づかいつまり言葉を発した人の思いです。うたう者にとっては意味よりもこの息づかいのほうが重要であることが多いのです。このゼミでは、様々な息づかいが、どのような身体の反応とともに生まれてくるのかを観察・分析しながら、呼吸のコントロール法を身につけ、自分の声(うた)の表現へとつなげています。 <うたう>という身体表現を通して生まれる感動や疑問を土台に、一緒に考え、議論しながら表現について深めてみませんか。

スタッフと研究分野・研究テーマ

岸本 吉弘 准教授	佐々木 倫子 教授	田村 文生 准教授	塚脇 淳 教授	坂東 肇 教授
絵画表現	声楽	作曲、編曲、西洋芸術音楽を中心とした作品研究	美術、彫刻	器楽(ピアノ、室内楽)
現代における「絵画表現」を実践的(実技) また理論的(研究) な両側面より追求し、より本質的な人間表現としての「絵画」像を模索しています。	クラシックの音楽の中で、日本・ドイツ・ロシアの歌曲を中心に研究・実践しています。どの歌曲も語るように歌うことがテーマです。	音楽作品の様式・実態・機能の分析により、音楽の作られ方・聴かれ方を探る様々な演奏形態での音楽表現の多様性を、作品の創作によって提示しています。	20世紀の美術、特にロダン以降の抽象彫刻について研究教育しています。私自身は彫刻家として鉄の彫刻を制作し、国内外に精力的に発表しています。	音の中に込められた想いはどのような形をとって表現となり人の心に達するのか。ピアノ演奏におけるコミュニケーションに内在する原理を探求しています。

主な卒業研究テーマ

過去2年分より抜粋

- ・ピクサーの成長にみられる3DCG映画が果たした役割と組織文化
- ・日本のジャズにおける実践・受容空間とコミュニティ ~その質的変容に関する考察~
- ・モーリス・ラヴェル《弦楽四重奏曲へ長調第一楽章》における「響き」と「形式」
- ・他者の文化的介入によって変容する先住民の造形 -カナダ北西海岸先住民を一例に-
- ・声のことばの可能性 ~「詩のボクシング」を例に~
- ・『WEST SIDE STORY』が与えた影響について
- ・テレビアニメ『少女革命ウテナ』に見る前衛的演出 ~寺山修司の映画作品との比較を通して~
- ・現代日本アニメにおける「行間」についての研究 -リミテッド・アニメーションの視点から-
- ・日本における音楽療法士の資格制度について ~国家認定の資格にむけての課題~
- ・スティーヴ・ライヒの中期作品におけるミニマリズムからの逸脱プロセスについて 一声を使った作品を中心に-
- ・クラシックピアノにおけるアマチュアの活躍と今後の展望
- ・マーク・ロスコの「場」の創造 -シーグラム壁画にみる鑑賞者の経験を中心に-
- ・フランツ・リストの信仰心と音楽 -<巡礼の年第3年S.163>を中心に-
- ・「うた」の現代性と『信濃の国』 ~校門を出た唱歌~
- ・音響的視点から捉えるメディアアート
- ・J-POPと社会
- ・アーティストと学校の連携による教育実践の可能性
- ・アルフレッド・リードが日本の吹奏楽界へ与えた影響
- ・横尾忠則の絵画における流用表現
- ・イジー・トルンカ人形アニメーション作品における後期4作品の特殊性に関する研究ノート -『真夏の夜の夢』以前の作品との比較から
- ・歌・絵本に込められた子どもたちへのメッセージ ~現実を語る作品から、社会の変化を読み解く~
- ・描かれる「女性像」の変化に関する考察
- ・コンサートホールとオーケストラ -その相互関係の現状と課題-
- ・サイトスペシフィック・アートの発生と展開
- ・ソルの教授法から見た練習曲集 ~教則本と作品60を通して~
- ・ニキ・ド・サンファル研究 -射撃絵画から『ナナ』に至るまでの表現-
- ・日本における社交ダンスの風紀問題 -昭和初期までのダンスホールの商業化を中心に-
- ・モーリス・ラヴェルの音楽作品における機械的性質と卓越性
- ・ヤン・シュヴァンクマイエルの芸術における触覚への拘泥
- ・よさこい系祭の現状及び今後の可能性 ~関西の祭を中心に~
- ・肖像画の四分の三観面に関する研究
- ・創作和太鼓の成立と発展

学生からのメッセージ



広がる可能性,
新たな世界に踏み込むことの楽しさ

宮野 源史 さん(表現創造論コース4年生)

表現創造論コースの大きな魅力は、自分の可能性を広げ続けることができることです。やりたいこととことん取り組む仲間がいて、それぞれが好きな方面に進むため、みんなが集まったときの世界はさらに広がります。また、多方面で活躍している先生方が、展覧会・演奏会など多様な勉強の場を用意してくださるので、そこに飛び込む勇気を持てば、可能性はどんどん広がっていきます。 私は神戸大学交響楽団に所属し指揮を担当しています。入学まではもっぱらピアノでしたが、今ではコントラバスを弾き、合唱団員として市民オペラで歌い、もちろんピアノも続けています。所属は、指揮とアンサンブル法のゼミですが、ゼミ生のテーマはさまざまで、音楽と企業メセナ、J-POP、そして私はコントラバスの音響と、自分の興味・関心が狭められることはありません。日々新しい発見ができ、多くのことに挑戦できるこのコースで、あなたも自分の可能性を広げてみませんか?

臨床・感性表現論 コース

Course Keyword (コースキーワード)

- コミュニティ
- 図形科学
- 音楽/ダンス療法
- 感性心理学
- 臨床音楽学/舞踊学
- 視覚・物質文化

新しいアート・ヒューマンインターフェースの開拓に挑戦する

人々の価値観が多様化した現代社会においては、これまで我々の生き方を規定してきた文化的な枠組みは大きく変化し、社会と人間の間には新たな関係が見出されるようになってきました。人間の表現行為は、芸術から日常的な行為にまでさまざまな様態がありますが、そういった行為を一続きのものとする見方も、比較的最近になってからと言ってよいかもしれません。

歌を歌う、踊る、ものを作るといった人間の表現行為は専門の芸術家でなくとも、すべての人間にとっても、生きていく上で大変大きな意味を持っています。その領域は、音楽療法やダンス療法、美術療法といったさまざまな芸術療法という形に展開することができますし、あるいはデザインや生活上のさまざまな表現リソースの開発や研究としても展

開できます。また、新しい時代の芸術表現の創造へと展開する大きな可能性も秘めています。

臨床・感性表現論コースでは、従来のさまざまな芸術コースとも、諸芸術学ジャンルとも異なり、表現者として、新しいアート・ヒューマンインターフェース(芸術と人間という2つのもの間に立って、双方の情報のやりとりを仲介するもの)を研究し、開発する人材を養成していくための大変新しいコンセプトの履修コースです。具体的には、音楽療法、ダンス療法などの諸芸術療法、感性や心理をもとにしたデザインやメディアの研究、開発、マルチメディアなどを使った複合的芸術表現やインタラクティブ・アート、新しい表現教育などの領域の研究、開発、創造を目指します。

主なコース専門科目

- 芸術療法論
- 心理統計法
- ピアノ演奏概論
- 音楽療法論
- 臨床舞踊論演習
- 舞踊創造論
- 生活環境心理学
- 感性心理学概論
- 即興演奏
- 舞踊創造論演習
- 西洋音楽文化論
- 感性を測る
- 臨床舞踊論

教員からのメッセージ

舞踊の魅力 共感するココロ、表現するカラダ

関典子 講師(舞踊学、コンテンポラリーダンスの創作と研究)

私のゼミでは、身体という最も身近な存在を表現媒体とする舞踊の実践と研究を通して、「共感するココロ」と「表現するカラダ」についての考察を深めることを目標としています。学生の研究テーマはさまざまですが、常に重視しているのは身をもって体感すること。ワークショップや公演活動を通して、舞踊の理論や意義を体験的に理解することを目指しています。これまでに、アーティストック・ムーヴメント・イン・トヤマ2011特別賞を受賞、神戸ビエンナーレ2009・2011では、兵庫県立美術館の屋外大階段で群舞パフォーマンスを上演、好評を博しました。様々なジャンルの芸術表現を総合的に学ぶ人間表現学科の学生の皆さんの感性には、私も一表現者として大いに刺激を受けています。研究面においても表現面においても身体のもつ力を信じ、教員と学生という関係に留まらない同志として、舞踊や身体表現の魅力を探求していきたいと願っています。

スタッフと研究分野・研究テーマ

小高 直樹 教授	関典子 講師	山本 道子 講師
感性科学, 図形科学	舞踊学, コンテンポラリーダンスの創作と研究	造形心理学, 感性心理学
芸術家の技や個性、デザイナーの暗黙知といった、曖昧で多義的な感性の世界、いわば形容(動)詞の世界を科学的に取り扱うための方法を探究しています。	ダンスや身体表現の特質である「現感性」や「コミュニケーション」について、表現活動と研究活動をフィードバックしながら探究しています。	よりよい情報伝達を行うために、人間の情報処理に最適な表現やコミュニケーションを、心理学的アプローチ方法によって探求します。



主な卒業研究テーマ

- ・ウェブマンガはいかに論じられるべきか
—議論の枠組みと切り口を提示する—
- ・コントにおける笑いの因子に関する研究
- ・音楽経験が尺八古典曲の印象評価に与える影響
- ・コミュニケーション形成におけるうなずき行動と社会的スキル
- ・Musica Callada におけるハーモニーの特徴について
- ・モノの不便の改善に向けての基礎的研究 —不便の所在とその特徴—
- ・人の顔と声に対する印象の合致性に関する研究
- ・顔の再認における表情・示差性・適合度の影響
- ・関西系漫才と関東系漫才の比較研究
—2001年～2010年の漫才を題材として—
- ・ダンス作品における音楽の影響関係に関する一考察
- ・日本語音韻の音象徴における視覚と聴覚の関係性
- ・映画『ハリイの災難』の音楽分析
～映画の中で音楽はどのような機能を担っているか～
- ・競技ダンスにおける「コネクション」に関する一考察
- ・競技ダンスにおける衣装の効果に関する研究
- ・化粧前後の印象の違いとその判断部位に関する研究
- ・サウンドスケープ論の広まり
—現代の日本における普及状況と今後の可能性を考える—
- ・図形とその副次的要素としての色彩に関する研究
- ・知的障害児のための音楽療法 包括的教育での音楽療法モデル
- ・学びの場としてのワークショップに関する一考察
- ・マンガにおけるスピード感の表現に関する研究

過去2年分より抜粋

ホットな感性をクールに見つめ、 アートとの新しい出会いを求め続ける

野見山 鮎美 さん(臨床・感性表現論コース4年生)

私がこの学科を志望したのは、ヒトの感性とアートの関係に対する興味からでした。さまざまなアートに触れたときの感じ方は多様ですが、その経験の蓄積のなかで、人間の表現にかかわる感性や可能性は、とどまることなく変化するのでと思います。

私が、本コースでとくによかったと思えるのは、コンテンポラリーダンスや即興演奏など、高校時代までにはあまり身近でなかったジャンルの芸術に出会えたことです。それは、私のアートへの向き合い方や作品づくりに、思いもよらない方向から刺激を与え、アートを通してヒトの感性の素晴らしさを教えてくれました。本コースの先生方には現役のアーティストもいらっしゃいますし、学生の多くも学内外で多様なアート活動に関わっています。そうしたアートとの出会いのチャンスがある一方で、人間とアートを客観的に見るクールなスタンスも求められる。このユニークな学科での出会いは、かけがえのない私の感性の一部だと思っています。

学生からのメッセージ



人間環境学科

人間発達を支える新たな環境の創造と持続を目指して

学科の理念

人間環境学科では、学生の皆さんは広い知識を身に付けるとともに、人間の発達の在り方に深くかかわる環境の諸問題を総合的・学際的に探究することを学びます。具体的には自然環境、数理情報環境、生活環境及び社会環境の視点から、理系・文系の枠を超えて幅広い教養と多様な専門的知識を身に付け、それらの統合・融合を積極的に図ることを目指しています。これらの学びを通じ、新たな人間環境の創造に向けて理論的・実践的な問題解決の力を得ようとする意欲的な皆さんを、人間環境学科はお待ちしております。

学科の特色

学際性 — 理系・文系の枠組みを超え、多様な知を融合させる

人間の発達と環境の関係をめぐる諸問題は、特定専門分野の方法だけでは捉えられない複雑な構造を有しています。それを理解するには、これまでの学問分野の構成にとらわれず、複数の分野からの複眼的な視点をもつ必要があります。本学科では、理系・文系の枠組みを超え、多様な学的知見の融合をはかり、人間環境に関する諸問題に幅広い視野からアプローチできる人材を養成します。



専門性 — 高度な専門性に根ざし、環境の理解に立ち向かう

他方で、学際的な勉強・研究は、専門性という拠点があってはじめて成り立ちます。複雑で多様な人間環境を理解するためには、しっかりした専門分野をもち、その固有の論理に立脚したうえで、多様な視点を身につける必要があります。本学科は、自然環境論、数理情報環境論、生活環境論、社会環境論という四つの履修コースを擁し、それぞれにおいて高度な専門教育を行います。



実践性 — 問題解決に必要な力を能動的に身につける

人間が発達できる環境をどのように形成し、維持するかは、理論上の問いであると同時に、優れて実践的な課題です。現に私たちは、環境に関する多彩な問題状況に取り巻かれ、その解決を必要としています。本学科は、講義に加え、実験、調査、フィールドワーク、演習、実習などを重視することによって、人間環境の諸問題を実証的に分析し、その解決に能動的に挑戦する人材を養成します。

履修コース

科学の幅広い視野から自然環境の本質を探求してこそ、答えが見えてくる

自然環境論 コース 定員:35名 ▶P56



数理と情報が生み出す精密な道具を手に、情報の海を旅しよう

数理情報環境論 コース 定員:25名 ▶P58



日常生活の現場から環境のあり方を追究する

生活環境論 コース 定員:30名 ▶P60



人間の発達と社会の発展を多様な視点の総合から学ぶ

社会環境論 コース 定員:30名 ▶P62



主な取得可能な資格免許

*全ての学科に共通の資格免許

- ・中学校教諭一種免許状(理科)
- ・中学校教諭一種免許状(数学)
- ・中学校教諭一種免許状(社会)
- ・中学校教諭一種免許状(家庭)
- ・高等学校教諭一種免許状(理科)
- ・高等学校教諭一種免許状(数学)
- ・高等学校教諭一種免許状(地理歴史・公民)
- ・高等学校教諭一種免許状(家庭)
- ・学芸員*
- ・社会教育主事*
- ・社会福祉主事任用資格*
- ・環境再生医資格*

学科長からのメッセージ

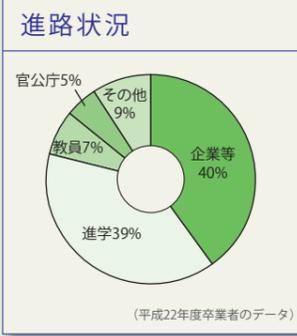
学科長 平山 洋介教授
(生活環境論コース)

私たちを取り巻く環境は、グローバル化、気候変動、資源枯渇、高度情報化、少子高齢化などによって、大きく変わろうとしています。この状況のなかで、人間環境学科は、人間の発達を支える環境の構築を目指し、次のような特徴をもつ教育と研究に取り組んでいます。第一は、学際性です。本学科は、理系・文系の枠を超え、多様な学的知見の統合をはかり、幅広い視野を備えた人材を育成します。しかし同時に、高度な専門性をも重視する点に特色があります。本学科は、専門教育のために、自然環境論、数理情報環境論、生活環境論、社会環境論という四つのコースを擁しています。さらに第三は、実践性です。本学科では、講義だけでなく、実験、調査、フィールドワーク、演習、実習などに力点を置き、人間環境をめぐる諸問題に果敢に挑戦する姿勢を養成します。



入学から卒業までの流れ・カリキュラム

	1年	2年	3年	4年	卒業後
	学部共通科目		発達支援論コースに進むことも可		
	全学共通科目, 全学共通基礎科目				
	学科共通科目		コース専門科目		
		コース配属が決まります	ゼミ(研究室)配属が決まります	卒業研究	
全学共通科目	●教養原論 ●情報科目 ●外国語科目 ●健康・スポーツ科学				
共通専門基礎科目	●物理学B1・B2 ●基礎地学 ●法律学 ●物理学C1・C2・C3 ●線形代数学入門 ●経済学 ●無機化学基礎 ●線形代数学1・2 ●政治学 ●有機化学基礎 ●微分積分学入門 ●社会学 ●生物学I・II・III ●微分積分学1・2 ●倫理学	●物理学B3 ●数理統計学 ●日本史 ●物理学C4 ●人文地理学 ●物理学実験 ●外国史			
学部共通科目	●発達科学への招待				
学科共通科目	●人間環境学概論 ●数理情報環境概論 ●社会環境概論 ●自然環境概論 ●生活環境概論	●統計の考え方 ●発達支援論研究 ●環境モデリング入門	●高齢者環境論 ●エコロジー論		
自然環境論	●自然科学演習 ●自然科学総合演習	●自然環境科学実験A・B・C ●大気環境学 ●自然環境総合演習 ●自然環境科学 ●環境計測学A ●情報処理演習 ●環境地球科学A・B ●鉱物学 ●環境数値解析1 ●現代物質科学 ●植物環境学1・2 ●応用数学入門・同演習 ●現代物理化学A ●生活環境緑化論1 ●数理の基礎 ●現代生命科学A ●生物多様性論 ●解析系の基礎 ●宇宙史 ●自然環境科学特論A・B ●数理統計の基礎	●現代物理化学B ●環境遺伝学 ●量子化学 ●現代生命科学B ●環境地球化学・同演習A ●高次分子生命科学 ●環境物理学実験 ●環境計測学B ●生物環境科学 ●物質環境科学実験 ●生活環境緑化論2 ●動物行動生態学 ●生物環境科学実験 ●環境経済学 ●環境地質学・同演習1 ●地球環境科学実験 ●公衆衛生学 ●地球流体力学 ●野外生物学実習 ●身体適応論 ●人間環境学総合演習 ●分子生命科学実習 ●環境物理学 ●環境数値解析2 ●地球環境科学特別講義 ●量子物理学 ●生命情報科学A ●地球環境変遷学 ●基本粒子物理学 ●生命情報科学B ●宇宙環境物理学 ●分析化学 ●応用解析学A ●無機化学 ●環境有機化学 ●応用統計学A ●環境植物生態学 ●生物有機化学 ●情報環境科学A・B・C ●科学哲学論 ●化学反応論	●環境地球化学・同演習B ●環境地質学・同演習2 ●現代物質化学演習 ●環境物理学特別演習 ●生命情報科学B ●応用解析学B ●応用統計学B	さらに学びたい人は 大学院に進学 人間環境学専攻 □自然環境論
数理情報環境論		●数理の基礎 ●解析系の基礎 ●生活環境電子計測論1 ●数理と計算機 ●代数系の基礎 ●社会調査法 ●計算機科学A・B ●数理統計の基礎 ●生活環境メカニクス1 ●幾何系の基礎 ●生活環境メカニクス1	●応用代数学 ●情報環境科学A・B・C ●生活環境メカニクス実験 ●数理と論証 ●代数学II ●ヒューマンエレクトロニクス実験 ●計算機科学 ●解析学III ●数理認識発達論 ●応用解析学A・B ●幾何学III ●メディア論 ●応用幾何学A・B ●確率論I ●応用数理特論1 ●応用統計学A・B・C ●環境経済学 ●情報環境特論1 ●数理情報先端特論 ●生命情報科学A・B	●応用数理特論2・3 ●情報環境特論2・3	人間環境学専攻 □数理情報環境論
生活環境論		●生活環境基礎実験 ●衣環境学1・2 ●生活環境共生論1・2 ●生活環境調査法 ●生活環境メカニクス1 ●栄養学 ●生活空間計画論1・2 ●生活環境電子計測論1・2 ●現代生活論 ●生活環境心理学 ●食環境学1・2 ●ライフスタイル論1・2 ●生活環境緑化論1 ●植物環境学1・2	●生活環境緑化論2 ●ヒューマンエレクトロニクス実験 ●衣環境学演習 ●住宅設計論 ●ライフスタイル論実習 ●動作解析コンピュータ演習 ●生活電気・機械 ●植物環境学実験実習 ●植物環境学演習 ●生活環境メカニクス2 ●食環境学実習 ●生活環境共生論演習 ●生活エネルギー機器論 ●生活環境共生論実習 ●ライフスタイル論演習 ●食環境学実験 ●生活環境心理学演習 ●環境経済学 ●衣環境学実験 ●生活環境緑化論演習	●生活環境メカニクス実験 ●生活空間計画論演習	人間環境学専攻 □生活環境論
社会環境論		●社会規範論A・B ●産業構造論 ●生活環境心理学 ●社会文化環境論 ●労働史 ●現代生活論 ●産業社会環境論A・B ●コミュニティ論 ●生活環境緑化論1 ●地域社会環境論A・B ●国際平和論 ●社会調査法 ●国際社会環境論 ●地域空間システム論 ●教育思想史 ●社会環境思想史 ●現代日本社会史 ●社会変動史 ●生活空間計画論1・2	●都市地域論 ●自治体論 ●社会環境思想史演習A・B ●社会政策史 ●国際開発論 ●社会文化環境論演習A・B ●福祉国家論 ●環境経済学 ●産業構造論演習A・B ●農村開発論 ●生活環境緑化論2 ●労働史演習A・B ●フィールドワーク実習 ●環境植物生態学 ●都市地域論演習A・B ●憲法秩序論 ●数理と論証 ●コミュニティ論演習A・B ●公共性論 ●メディア論 ●国際開発論演習A・B ●家族論 ●公共性論演習A・B		人間環境学専攻 □社会環境論



コース配属について

2年次より各履修コースに所属します。各履修コースの定員は次のとおりです。1年次終了時に行うガイダンスで希望を調整し、履修コースを決定します。

自然環境論 コース	35名
数理情報環境論 コース	25名
生活環境論 コース	30名
社会環境論 コース	30名

ゼミ配属について

3年次からゼミ(研究室)に所属します。4年次には、指導教員の下、所属するゼミ(研究室)で卒業研究を行います。各履修コースで定められたルールに従って、所属するゼミを決定します。

OB&OG INTERVIEW

INTERVIEW 01

ゲンゼ株式会社 勤務

池島 宏亮 さん
(2010年3月卒)



人間の生活と環境を総合的に扱う 多彩な講義や実習が今に活きる

私はメーカーでインナーウェアの営業担当として勤務しています。人間が快適に生活するための環境や物に興味があり、最も身近な物の1つであるインナーウェアのメーカーに入社を決めました。仕事では、どのような商品が求められているのか?商品の良さや特徴を分かりやすく伝えるためには?等を考える必要があるため、商品や素材に関する事だけではなく、消費者心理も含めた幅広い知識が必要になります。人間環境学科の専攻分野では快適なインナーウェアの条件について、各種測定機器を用いた客観評価に加えて主観評価を行い、快適性の評価に取り組みました。他の分野でも単なる知識の習得だけではなく、実験や実習を多数経験できました。社会人になった今、専攻分野はもちろん、幅広く他の分野も経験できた事が自らの糧となり仕事の様々な場面で役立っていることを実感しています。今に活きる多彩な内容を学べる場所、それが人間環境学科です。

INTERVIEW 02

株式会社
住化分析センター 勤務

小山 泰弘 さん
(2010年3月卒)



幅広い分野を柔軟に学んだことで 身につけた社会への適応力

私は学生時代、人間環境学科の分析化学研究室に所属していました。ここでは日々の実験や毎週のゼミなどを通じて、世間でどのような分析技術が必要とされ、またそれに対してどのように取り組んでいくかを学んできました。そして大学で学んだ知識や技術を社会に出ても活かしたいと考え、現在は化学分析の企業で技術者として分析に関わる仕事をしています。

人間環境学科で学んだことは、もちろんこのように社会で直接役立つ場合も多々あります。とはいえ、大学で学んだことを将来どのように活かしていくかは様々でしょう。むしろ学んだ内容そのものよりも、学びを通して自発的に問題意識を持てるようになった点こそが自身のためになる、というのが私の実感です。特に発達科学部には多様な研究分野の人が集まっており、学問以外の部分でも多様な価値観を共有できたことは、私にとっての財産です。今後も、自分の知識を多様な視点で社会に還元できればと思います。

INTERVIEW 03

株式会社
三菱東京UFJ銀行 勤務

櫻井 絵里 さん
(2011年3月卒)



幅広い分野を学び、 たくさんの人と出会える環境

私はもともと理系だったので、理系の専門的な学部への進学も考えていました。ですが、幅広い分野を学習でき、将来の選択肢を限定しない自由さに魅力を感じ、この学部を選びました。実際、私は数学を専攻しながら、現在は銀行の法人営業部門に勤務し、様々な企業に対するソリューション業務上の問題点や課題を解決するための手段を提供する業務を行っています。

こう書くと、大学での勉強と仕事が無関係に見えるかもしれませんが、銀行の営業は様々な業種の人と話す機会が多く、幅広い価値観と多様な視点が求められる仕事です。発達科学部では多様な分野の人が仲良く交流でき、自然に多様な視点が身につきますし、卒業研究を進める中でも論理的な考え方と多面的な見方を学ぶことができました。

社会人になってからも、人との出会いを大切に、何事も幅広く貪欲に学んでいきたい、そう思える基盤を作れたのは、人間環境学科で学んだ成果なのです。

INTERVIEW 04

西日本旅客鉄道
株式会社 勤務

林 風介 さん
(2009年3月卒)



大学時代の行動原則は興味・関心 —勉強も遊びもそれに尽きます

皆さんは鉄道会社が多くの商業施設を保有していることをご存知でしょうか。学生時代、私は建設途中のJR大阪三越伊勢丹やルクアで働きたいと思い、JR西日本という鉄道会社に就職しました。現在はその念願が叶い、大阪駅のJR大阪三越伊勢丹のワイン売場で働いています。

鉄道会社の社員が百貨店で働いていることに皆さんは違和感を覚えるかもしれませんが、私が商業施設に携わりたくて鉄道会社に入ったのは、所属していた都市地理学のゼミで、商業施設など都市機能の裏側・仕組みを学べたからでした。今、自分の興味・関心と直結した仕事を出来ているのは、振り返れば、学科内で自分の興味・関心に基づいて自由に学ぶ内容を選択できた結果だと思います。その意味で、人間環境学科は自分の真にやりたいことを見つけるには最適でした。皆さんにもたくさん選択の機会が待っています。ぜひ自分の興味・関心を大事にして下さい。未来はそこから見えてきます。

主な進路・主な資格免許の取得状況

自然環境論 コース

主な進路

さらに学びたい人はp.104へ。

- | | |
|---|--|
| 2011年度
・荏原製作所
・大阪ガスセキュリティサービス
・田辺三菱製薬
・東京海上日動火災保険
・日本水処理工業
・マネックスグループ
・三菱UFJ信託銀行
・三菱食品
・NTTマーケティングアクト
・神戸市職員
・神戸大学職員
・労働基準監督署
・大阪府教員(中学)
・神戸市教員(中学)
・桃山学院中学校・高等学校
・神戸大学大学院
人間発達環境学研究所(8名)
・大阪大学大学院理学研究科
・京都大学大学院人間・環境学研究所
・名古屋大学大学院環境学研究所 | 2010年度
・アルペン
・商船三井
・北杜林
・類設計室
・NTTファシリティーズ
・神戸市職員
・神戸大学職員
・神戸大学大学院
人間発達環境学研究所(14名)
・大阪大学大学院医学系研究科
・慶應義塾大学大学院医学研究科
・神戸大学大学院
システム情報学研究所 |
|---|--|

主な資格免許の取得状況

社会教育主事, 社会福祉主事任用資格を除きます。

- | | |
|---|---|
| 2011年度
・中学校教諭一種免許状(理科)
・高等学校教諭一種免許状(理科)
・学芸員
・環境再生医(初級) | 2010年度
・中学校教諭一種免許状(理科)
・高等学校教諭一種免許状(理科)
・学芸員
・環境再生医資格 |
|---|---|

生活環境論 コース

主な進路

さらに学びたい人はp.108へ。

- | | |
|---|---|
| 2011年度
・岡村製作所
・さくらケーシーエス
・聖文館
・ソフトバンクテレコム
・日本鋼管病院
・阪急交通社
・日立ソリューションズ
・りそな銀行
・ロフト
・京都大学職員
・神戸市職員
・富山大学職員
・神戸大学大学院
人間発達環境学研究所(2名) | 2010年度
・アグレックス
・ウィルウェイ
・京都銀行
・セキスイハイム近畿
・千趣会
・ソフトウェア興業
・中国電力
・トマト銀行
・ニトリ
・日本生命保険相互会社
・三井住友カード
・三菱東京UFJ銀行
・楽天
・高槻市職員
・神戸大学大学院
人間発達環境学研究所(5名) |
|---|---|

主な資格免許の取得状況

社会教育主事, 社会福祉主事任用資格を除きます。

- | | |
|----------------------|---|
| 2011年度
・環境再生医(初級) | 2010年度
・中学校教諭一種免許状(家庭)
・高等学校教諭一種免許状(家庭) |
|----------------------|---|

数理情報環境論 コース

主な進路

さらに学びたい人はp.106へ。

- | | |
|--|---|
| 2011年度
・関電システムソリューションズ
・近畿日本鉄道
・VSN
・大阪府教員(高校)
・堺市教員(中学)
・滋賀県教員(高校)
・奈良県教員(高校)
・兵庫県教員(高校)
・兵庫県教員(中学)
・横浜市教員(中学)
・和歌山県教員(中学)
・神戸大学大学院
人間発達環境学研究所(4名)
・奈良先端科学技術大学院大学 | 2010年度
・インテリジェンス
・ウィザス
・学校法人平安学園
・富士通エフ・アイ・ピー
・三菱東京UFJ銀行
・リアル
・京都市職員
・滋賀県教員(中学)
・奈良県教員(高校)
・神戸大学大学院
人間発達環境学研究所(7名)
・東京大学大学院
新領域創成科学研究科
・奈良先端科学技術大学院大学 |
|--|---|

主な資格免許の取得状況

社会教育主事, 社会福祉主事任用資格を除きます。

- | | |
|---|---|
| 2011年度
・中学校教諭一種免許状(数学)
・高等学校教諭一種免許状(数学)
・特別支援学校教諭一種免許状 | 2010年度
・中学校教諭一種免許状(数学)
・高等学校教諭一種免許状(数学)
・特別支援学校教諭一種免許状 |
|---|---|

社会環境論 コース

主な進路

さらに学びたい人はp.110へ。

- | | |
|---|---|
| 2011年度
・TOA
・オリエンタル鍍金
・サントリーホールディングス
・千趣会
・パナソニックカーエレクトロニクス
・兵庫県信用農業協同組合連合会
・広成建設
・不二製油
・三井住友銀行
・尼崎市職員
・大阪地方裁判所
・川西市職員
・神戸大学職員
・高石市職員
・豊中市職員
・大阪府教員(高校)
・神戸大学大学院
人間発達環境学研究所(3名) | 2010年度
・ウッディーズ
・サンエース
・中国電力
・クボタ
・情報技術開発
・西日本電信電話
・西日本旅客鉄道
・日亜化学工業
・日の出証券
・ファーストリテイリング
・三井物産
・りそな銀行
・JA共済連大阪府本部
・芦屋市職員
・豊中市職員
・奈良県教員(高校)
・兵庫県教員(小学)
・神戸大学大学院
人間発達環境学研究所(4名)
・京都大学大学院情報学研究所
・京都大学大学院
人間・環境学研究所 |
|---|---|

主な資格免許の取得状況

社会教育主事, 社会福祉主事任用資格を除きます。

- | | |
|---|--|
| 2011年度
・中学校教諭一種免許状(社会)
・高等学校教諭一種免許状(地理歴史)
・高等学校教諭一種免許状(公民)
・学芸員 | 2010年度
・小学校教諭一種免許状
・中学校教諭一種免許状(社会)
・高等学校教諭一種免許状(地理歴史)
・高等学校教諭一種免許状(公民)
・特別支援学校教諭一種免許状
・学芸員
・環境再生医資格 |
|---|--|

自然環境論 コース

Course Keyword (コースキーワード)

- 自然環境の多角的理解
- 物質環境
- 異分野との相互刺激
- 地球環境
- 環境物理学
- 生物環境

科学の幅広い視野から自然環境の本質を探求してこそ、答えが見えてくる

環境問題に根本から取り組もうとするならば、自然の成り立ちや法則を本質から理解することが必要不可欠です。特に現在は、人類が宇宙へと本格的に足を踏み入れた宇宙時代の黎明期とも言えるべき時代です。人類がこの時代にふさわしいアイデンティティーを確立できるか否かは、宇宙の創成と進化、太陽系や地球の形成の歴史、さらに物質の化学進化を経て生命の誕生と進化に至る壮大な歴史と、その中の個々のプロセスとを科学的に解明してはじめて得られる、透徹した認識にかかっていると云えるでしょう。環境問題の根本への取り組みも、こうした広い認識があって初めて可能となるのです。だとするならば、現在求められているのは、物理、化学、生物、地学など旧来の学問枠組にとらわれず、対象によって自分自身のポジションを自在に変えながら、広い視野から状況に応じた解決策を見出すことに他なりません。こ

のような考えのもと、自然環境論コースでは、環境破壊などの身近な問題だけでなく、地球や宇宙の様々な場での物質と生命の多様な現象を本質から理解するための授業科目を用意しています。このコースでは、早くから自分の専門分野を限定せず、自然科学の様々な方法論の基礎を習得する事に特色があります。高学年次では、具体的な問題をより深く追求するため、環境物理学、物質環境、地球環境、生物環境の4つの教育研究分野から2つを選び、さらに専門的に学習、研究します。4年生になると具体的な課題を決めて研究の訓練をすることになります。そのときには、生物学と化学、生物学と地球科学、化学と物理学などの境界領域の研究や環境問題の背後にあるより基礎的なテーマについての研究も可能です。

主なコース専門科目

- 環境地球科学A・B
- 環境計測学A・B
- 宇宙環境物理学
- 環境物理学
- 化学反応論
- 現代物質科学
- 鉱物学
- 無機化学
- 量子物理学
- 量子化学
- 現代物理化学A・B
- 植物環境学1・2
- 環境植物生態学
- 分析化学
- 高次分子生命科学
- 現代生命科学A・B
- 生物多様性論
- 環境遺伝学
- 環境有機化学
- 生物環境科学
- 大気環境学
- 地球環境変遷学
- 環境地球化学・同演習A・B
- 生物有機化学
- 環境地質学・同演習1・2

教員からのメッセージ



サンゴから花こう岩まで 同位体・微量元素で探る地球環境

寺門 靖高 教授(環境地球化学)

私の研究室では、化学的データを基に地球環境を研究しています。扱う試料は様々で、面白そうなことは学生諸君の希望も取り入れて挑戦しています。例えば水に関するものでは、雨水、河川水、地下水、海水、温泉水など様々です。水は地球上を循環しているので、これらは相互に関係がありますし、岩石や大気、さらに生物とも関係しています。岩石と水が反応することで風化が起きますが、このとき大気中の二酸化炭素が消費されることになり、地球温暖化で問題となっている二酸化炭素とも関係しています。また、海水に溶け込んだ二酸化炭素は、サンゴなどの骨格となり沈殿し、やがて石灰岩になります。水というものから、地球環境の多様な側面が見えてくるのです。このような地球物質の分析から何が起きているのかを詳しく理解しようとするとき、必要なのは幅広い知識です。総合理学院の本コースカリキュラムで学んだ皆さんの活躍を大いに期待しています。

学生からのメッセージ



複雑な環境問題に 立ち向かえるサイエンティストになる

石橋 杏奈 さん(自然環境論コース4年生)

私は「地球温暖化」が重大な環境問題だと考えています。ですが「温暖化」と一言でいっても、そこには大気の温まり方(物理)、温暖化を加速させる物質(化学)、生態系の変化(生物)、乾燥地の拡大(地学)といった多くの要因が複雑に絡み合っています。よって「温暖化」について理解し解決策を編み出すには、一つの専門分野に固定することなく、様々な分野を多面的に学ぶことが必要です。そのために最適な場所が自然環境論コースです。自然環境論コースでは3回生まで物理・化学・生物・地学を学び、4回生で自分の専門分野の研究室に所属します。実験、フィールドワーク、ディスカッションといった多様な形式の授業を通じて多方面の先生方から熱心な指導を受け、また多様な関心を持つ仲間たちとの議論を通じて視野を広げることができます。皆さんもぜひ自然環境論コースでサイエンスを学び、地球環境問題の解決に貢献する人材になりませんか。

スタッフと研究分野・研究テーマ

† 2013年3月31日をもって退職予定

青木 茂樹 教授 素粒子・宇宙線物理学 素粒子および宇宙線に関する実験的な研究をしています。	伊藤 真之 教授 宇宙物理学, 科学教育 人工衛星等によって得られるデータを用いた宇宙の観測的研究や地域社会における市民科学活動支援システムの構築に関する研究をしています。	丑丸 敦史 准教授 植物生態学 花(被子植物)の形質進化や多様性創出機構および里山や都市域における生物多様性保全を目的とした希少種の分布特性・環境依存性の解明を目指しています。	榎本 平 教授 分子生物学 高増殖性・高重油生産性を有する重油生産菌 Botryococcus braunii の開発に関する研究や遺伝子クローニング技術の開発を行っています。	江原 靖人 准教授 生物有機化学 生物の優れた能力を利用した、新規機能性物質の創製、さらに、それらの物質を組み合わせた人工細胞、人工生命の構築を行っています。
蛭名 邦禎 教授 環境物理学, 理論生命科学 地球システムと生命システムのダイナミクスを理解するための基礎理論の構築と、環境問題に係わる科学研究の成果の批判的な検討を行っています。	大串 健一 准教授 地球環境 地球環境変動のメカニズム解明に向けた古環境研究を行っています。	齊藤 惠逸 教授 分析化学 発光現象を利用した物質の分析法、有機化合物を用いた金属イオンセンサー、ストレスマーカー測定法の開発に取り組んでいます。	高見 泰興 准教授 進化生態学 地球上の多様な生物が、どのように生じ、維持されているのかについて、形態学、行動学、生態学、進化学の各視点から研究しています。	武田 義明 教授† 植生学, 植物生態学 植物群落は、気候、地形・地質等の環境および人為影響などの総合的な環境を反映して成立しています。その環境と種類組成、多様性の関係を研究しています。
田中 成典 教授 計算生物学, 理論生命科学 タンパク質やDNA, RNAなどの生体分子に対する計算機シミュレーションや原子・分子のマイクロレベルからコンピュータ上で構築する理論構造生物学について研究しています。	寺門 靖高 教授 環境地球化学 河川水、生物が作る鉱物、地殻を構成する岩石・鉱物などの様々な地球表層物質についての元素濃度や同位体組成を用いた地球環境の地球化学的研究を行っています。	中川 和道 教授 放射光物性物理学, 環境物理学 大気環境科学(太陽を光源とした温暖化ガスの検出など)やシンクロトロン放射を用いた生体分子の分光(アミノ酸やDNA分子など)に関する研究を行っています。		

主な卒業研究テーマ

過去2年分より抜粋

- ・インフルエンザウイルスとの結合能を有する糖鎖修飾核酸の合成
- ・Botryococcus braunii 共生細菌の単離・同定と培養系に与える影響
- ・都市のツクサ集団における送粉者の減少と自殖性の進化
- ・低層大気自動測風システムの動作条件の検討
- ・六甲山地における花崗岩の風化と断層の影響評価
- ・2011年東北地方太平洋沖地震による津波堆積物の堆積学的研究
- ・月面突発発光現象の観測と新たに形成されたクレーターの探査
- ・FFASTレコード盤軌道に対する検出天体数の評価
- ・イシモチソウにおける捕虫形態の適応的意義
- ・陸奥湾の有孔虫群集の解析による三内丸山遺跡衰退の解明
- ・グリシン固相における真空紫外線誘起化学進化実験の再検討
- ・クロナガオサムシにおける精液物質の生理学的機能の解析
- ・原子核乾板中の α 崩壊核種の存在量に関する研究
- ・交雑帯における遺伝子浸透を利用した種分化遺伝子の解析
- ・神戸層群凝灰岩のRb-Sr年代とSr同位体比
- ・神戸大学における酸性雨の主成分および微粒子の観察
- ・電気化学発光検出を用いる微小流体デバイスの開発
- ・糖鎖修飾非天然DNAzymeのRNA切断能評価
- ・ナラ枯れが森林の植生と多様性に与える影響
- ・フィルタ捕集法を用いたリン酸イオンの化学発光検出

数理情報環境論 コース

Course Keyword (コースキーワード)

- 情報環境
- 現象の数理的モデル化
- 論理的思考
- 数理的手法の理論と応用
- 情報処理の理論と実務
- 統計的手法の理論と応用

数理と情報が生み出す精密な道具を手に、情報の海を旅しよう

アメリカの調査会社によると、2006年のデジタル情報の総量は、これまで書かれた全書物の情報量の数百万倍にのぼるそうです。しかもその量は数年でさらに数倍に増えたとも言います。この膨大で多様な情報の海が、人間の知的発達や産業構造に多大な変化を与えつつあることは言うまでもありません。こうした現代の情報環境で、情報の海に漂流することなく様々な問題を解決するには、何よりも信頼できる精巧な道具が必要です。そしてその基礎的技法を与えるのが数理情報環境論コースなのです。

このコースでは、数理的理論を基礎から応用まで幅広く学ぶこと、様々な情報環境問題を数理的に捉え、解析し、処理する能力を養うことを2つの柱にしています。2年次では、具体的な問題解決に必要な数学や情報科学の基礎理論を学びます。論理的な思考にもとづいてものご

とを正確に表現するトレーニングを行い、プログラミングやネットワークに関する基礎知識を習得します。3年次では、次の3つの領域で学んでいきます。情報数理では、情報環境を構成するコンピュータを理論的に考察し、計算やプログラムのしくみなど情報そのものも数理的メカニズムの解明を目指します。応用数理では、自然科学や社会科学に現れる様々な現象を数学的な視点からモデル化するとともに、そのモデルをコンピュータで詳しく解析する方法についても学びます。情報統計では、私たちの身近に存在する様々なデータを考え、情報のもつ理論的な背景を考察し、統計学的な問題解決の方法について学びます。そして3年次後半から4年次にかけて、いよいよ各自で課題を設定し、これまでに身につけた道具を駆使して問題の解明を目指し、結果を卒業論文にまとめます。情報の海を縦横無尽に旅したいあなたをお待ちしています。

主なコース専門科目

- 数理の基礎
- 数理と計算機
- 計算機科学A・B
- 幾何系の基礎
- 解析系の基礎
- 代数系の基礎
- 数理統計の基礎
- 応用代数学
- 数理と論証
- 計算機数学
- 応用解析学A・B
- 応用幾何学A・B
- 応用統計学A・B・C
- 数理情報先端特論
- 情報環境科学A・B・C
- 応用数理特論1・2・3



教員からのメッセージ

証明のつぼを身につけよう、どっぼさんとさよならしよう

高橋 譲嗣 教授(数理論理学)

数理の世界では演繹的論証により定理を証明するという営みが重要な役割を演じます。私のゼミでは、ひとまとまりの数理的理論を時間をかけてじっくり勉強しながら、数理的証明の技法に習熟することを目指します。

証明は小さな推論を積み重ねて作られます。単位となる推論の一つ一つは至極単純なのですが、ひとかどの定理を証明するとなると何百何千もの推論を1か所の間違いもなくつなぎ合わせる必要があり、これは一筋縄では行きません。しかし、推論の組み合わせ方にはある程度決まったパターンがあり、迷路のように推論が錯綜して見える証明にも、核となる流れ、そこから派生する支流等からなる構造があり、証明の記述の仕方を工夫することでその構造をより効率よく管理することができます。こうした知恵を身につければ、証明とは手におえない化け物ではなく、一定の法則によって制御できる綺麗な構造体であることが見えてきます。一緒に体験してみませんか？

スタッフと研究分野・研究テーマ

稲葉 太一 准教授	桑村 雅隆 准教授	阪本 雄二 准教授	高橋 譲嗣 教授	高橋 真 教授
数理統計学, 応用統計学, データ解析	応用解析学	数理統計学	数理論理学	情報論理学
統計学は、データを解析することから始まります。学部生の間に、自分の興味を持てるテーマを選び、適切な統計手法の適用方法を研究することを目的としています。	物理学, 化学, 生物学などに現れる問題を解析学(微積分学を基礎としている数学の一分野)とコンピュータシミュレーションを利用して調べています。	水の流れの中を漂う花粉の運動や株価の変動のような時々刻々とランダムに変化する現象について、そのメカニズムを解明するデータ解析法を研究しています。	論証による証明を効率よく理解し、かつ正しく書くために有効な実践的知恵の体系化、及び数理的方法全般の数理論理的な手法を用いた考察に取り組んでいます。	システム検証(ソフトウェアが信頼できるかどうかを数学的な方法で検証する方法)と公理的集合論(集合の理論を公理的に扱う体系)を研究しています。
長坂 耕作 准教授	宮田 任寿 教授			
計算機代数	幾何学的トポロジー			
数値・数式融合計算(パソコン上で様々な計算を行うために必要な理論研究やプログラミングによる実現)と、その応用(ICTによる様々な分野への展開)について研究しています。	様々な図形をトポロジーと呼ばれる「柔らかい幾何学」によって分類したり、その考え方や技術を数学内外の様々な分野に応用する研究をしています。			

主な卒業研究テーマ

過去2年分より抜粋

- ランダムフラクタル
- サッカーにおけるパスの分析
- サッカー男子日本代表の試合分析
～サッカー界における通説を解析～
- 連続ドラマ視聴率の解析
- 重大事故発生時の放射線量測定データの分析
～新聞上の公開データから読み取れること～
- より快適なWebブラウジングの為にユーザ補助の検討
- 形式仕様記述とモデル検査
- 統計学における近似公式について
- モデル検査の基礎とUPPAALによる検証
- 紫外線強度の尺度(UVインデックス)の背景と気象条件による影響度分析
- バレーボールにおけるセッターによるブロックの枚数と決定率の違い
- Androidによる手書き計算アプリケーションの設計と開発
- 2階変数係数線形微分方程式と境界値問題
- Degree theory and Borsuk-Ulam theorem
- F1ラップタイム解析のための数量化法
- On universal ultrametric spaces
- アメリカンフットボールにおける怪我の要因分析
- サッカーのシュートとペナルティエリア内での攻防に関する考察
- 常微分方程式について
- スクイークを用いた「速さ」教育について
- スマートデバイスに対応した数学アプリケーションの開発
～グラフ表示アプリケーション「Math Graph」～
- バドミントンの勝敗における要因解析
- バレーボールにおけるスパイク決定率に関する分析
- ファッションコーディネートシステムに向けたWebアプリケーションの作成
- プロ野球ドラフト分析
- メビウスの帯と精神分析学の関係について
- 留数定理を用いた実定積分の計算

理学部にはない数理特有の自由な環境がうれしい!

中平 智 さん(数理情報環境論コース4年生)

私の目標は数学教師です。大学では数学を学ぼう! そう思い発達科学部を選びました。理学部と迷いましたが、私はこの学部を選んで良かったと思っています。

数理情報環境論コース(以下、《数理》)は必修科目が少なく、授業の多くを自分で選べます。また純粋数学だけでなく、応用数学やプログラミングなど様々な内容を学ぶのも《数理》の特徴です。

私は発達科学部内に多様な学問の授業があることを活かし、他コースの物理などを受講しています。物理では微積分などの数学が必要ですが、そこでは数学の利用に主眼が置かれています。私は《数理》で数学の理論を学ぶことが多いので、別の視点で数学を扱うことは、数学を学ぶ上での刺激になっています。実際、他学問における数学の利用を知ることで、元となる数学理論を理解する意義がより実感できるのです。

自分の興味に合わせて自由に、広い視野から数学を学びたい方は、ぜひ数理情報環境論コースへどうぞ!



学生からのメッセージ

生活環境論 コース

Course Keyword (コースキーワード)

- 生活の質(QOL)
- 生活空間
- 安全・安心
- 生活技術
- 持続可能
- 生活資源

日常生活の現場から環境のあり方を追究する

昔、「大人になる」とは親世代と同じ暮らしをすることでした。しかし現代の私たちは、誰も「大人になれば親世代のように暮らす」などとは思えません。私たちの暮らしと、それを取り巻く環境との変化は、それほど激しく急速になっています。日々創られる最先端技術は日常生活の利便性を高める一方で、暮らしと環境に関わる新たな課題も生み続けています。生活の基礎条件である衣食住さえ、つねにその様相を変え続けています。さらに住まいから近隣、都市までの生活を取り巻く空間の変貌ぶりは言うまでもありません。私たちの生活環境は、かつてなく複雑な状況の中に置かれているのです。

そこで生活環境論コースは、日常生活と環境の関係をどのように理解し、組み立てるべきかという問題に対処できる人材の養成を目指しています。具体的には私たちが暮らし、働き、憩うための空間をどのように創造すべきかについて、住居、福祉施設、緑地、都市などの空間

の実態を調べ、生活環境のあり方を考える「生活空間領域」、さまざまな技術が、衣食住にかかわる生活用品や健康と福祉にかかわる機器などにどのように用いられ、暮らしの環境に影響を及ぼしているか、その現状を把握し、技術利用の方向性を考える「生活技術領域」、食糧、水、エネルギーなどの資源環境と暮らしがどのような関係をもつべきなのかを追究し、生活のための資源利用・保全・管理の方法を考える「生活資源領域」という3つの領域から生活環境を捉えます。実験、フィールドワーク、シミュレーションを組み合わせて生活環境の分析を進め、生活製品設計の提案、福祉機器開発、食糧生産のあり方、まちづくりへの参画、高齢者施設設計への参加、環境負荷低減など、実践的なプロジェクトを重視して問題解決のための教育・研究を行っています。

主なコース専門科目

- 生活環境基礎実験
- 生活環境緑化論1・2
- 食環境学1・2
- 現代生活論
- 生活エネルギー機器論
- 生活環境調査法
- 衣環境学1・2
- 植物環境学1・2
- 住宅設計論
- 生活空間計画論1・2
- 生活環境メカニクス1
- 生活環境共生論1・2
- 生活電気・機械
- 生活環境心理学
- 生活環境電子計測論1・2
- 栄養学
- 生活環境メカニクス2

教員からのメッセージ



環境に配慮した社会やライフスタイルの方向性を提案する

田畑 智博 講師(環境システム工学)

現在、資源の枯渇、地球温暖化、廃棄物など様々な問題が顕在化しています。こうした問題の発生要因を探ると、実は私たちの暮らしと密接に関連していることが分かります。私の研究室では、資源・エネルギー、環境の各観点から、よりよい社会や家庭のライフスタイルの方向性を提案することを目的としています。主な研究テーマはごみ処理、再生可能エネルギー、ごみの排出抑制などで、地域や家庭を対象として具体的なテーマを設定し、研究成果を実社会に提言することを目指しています。研究では、フィールドワーク、統計、アンケートなどによる調査を行います。また、環境面の評価だけでなく、経済面や社会面の評価も行うことで、包括的な視点から解決方法を検討します。そのため、研究の遂行には実に様々な知識が求められますが、その分とてもやりがいがあります。まずは、皆さんが重要だと思う環境問題について、解決方法を考えることから始めていきましょう。

学生からのメッセージ



日常生活に面白い問題が潜んでいることに気づきます

泉谷 惲乃 さん(生活環境論コース4年生)

自分が勉強していることが将来どんな役に立つのだろうか、と考えている人も多いのではないのでしょうか。生活環境論コースは、名前の通り日常生活に関する様々なテーマを扱います。日常生活といっても、いざ研究となると文系・理系の枠を越え、アンケート調査から化学、物理実験まで様々な方法を必要とする複雑な領域です。しかしそれだけに、研究成果は私たちの生活に直接関連し、役立ちます。私は文系出身ですが、今は実験中心の「理系」的な研究をしています。私が所属している植物環境学研究室では食料生産、環境保全などに貢献するための植物バイオテクノロジー開発を手掛けています。最先端の技術に触れ、扱えるのはまさに研究の醍醐味です。頭で考えるだけでなく、実際に目で見ても感じて結果を体感でき、しかも身近な問題につながる。これが生活環境論コースの何よりの魅力です。日常生活の様々な問題について、みなさんもここで学んでみませんか。

スタッフと研究分野・研究テーマ

市橋 秀樹 教授 植物環境学 植物が生活環境において果たしている多様な働きを量的に評価して、それに基づいた植物を利用した快適な生活環境作りについて研究しています。	井上 真理 准教授 衣環境学, 感性工学 着用感・使用感の良い製品設計のために、繊維状材料をはじめ生活の中で人が触れて用いる材料の特性と人間の感覚との関係を探る研究を行っています。	近江戸 伸子 教授 環境バイオテクノロジー 農業、医療、食糧生産、環境保全に貢献するための人間生活の中で変化する環境に対応する植物バイオテクノロジーに関連する研究を行っています。	城 仁士 教授 生活環境心理学 身近な生活環境での人間活動の心理学的解明を行っています。研究者と研究対象者の協同的実践で新たな人間科学的意味の再発見に努めています。	白杉 直子 教授 食環境学 食生活が生み出す環境問題（台所排水の汚濁負荷、肥料による地下水の窒素汚染）に関する研究や食品成分からみた味覚研究を行っています。
田畑 智博 講師 環境システム工学 地域、個人等、様々なレベルでの環境負荷の発生要因やその構造を調査、解析し、解決に導くための手法論を提案する研究を行っています。	平山 洋介 教授 生活空間計画 住居からコミュニティ、都市にいたる生活空間をどのように構想すればよいのか、という問題を理論と実証の双方から考えています。	福田 博也 准教授 生体電子計測, ヒューマンエレクトロニクス 人や植物の生体電位を計測することにより、人と環境に優しい技術・物としての「ヒューマンエレクトロニクス」について研究しています。	矢野 澄雄 教授 振動工学, バイオメカニクス 日常生活動作を力学的に分析し、骨や筋肉などの身体機能・特性を計測して福祉・介護や健康科学関連の機器・用具の開発などにかかわる研究を行っています。	

主な卒業研究テーマ

過去2年分より抜粋

- ・ 社交ダンスと社交ダンス喫茶が中高年女性のQOLに及ぼす影響
- ・ 握力センサの製作と動き出し反応時間
- ・ 紅葉期における街路植栽の評価
- ・ ジャトロファの遺伝子組換え体の作出
- ・ アメリカフーの紅葉特性
- ・ 人工芝のねじり特性の初期性能と耐久性に関する研究
- ・ スーツの着心地に被服圧が及ぼす影響
- ・ 神戸市に本社を置く企業の緑化に関する社会貢献活動
- ・ 環境制御ブースの改良と植物生体電位計測システムの再構築
- ・ 高齢者の住宅改善と療養環境
- ・ 植物バイオマス:クズの効率的な発根方法と染色体解析
- ・ 地域包括ケアシステムによる住宅高齢者支援のあり方
—京都府福知山市「高齢者の介護及び生活」に関するニーズ調査から—
- ・ 乳酸の塩味増強・抑制効果に関する研究
—乳酸添加食塩水の官能評価—
- ・ 神戸市民による街路樹の評価—紅葉期の街路樹の印象評価から—
- ・ タオルの風合いと物理特性の関係
- ・ 音刺激が植物の気孔開度に及ぼす影響と生体電位応答
- ・ 既婚女性の就労・育児と住宅事情
- ・ 携帯電話の入力操作が歩行に及ぼす影響
- ・ 高機能綿織物の性能評価
- ・ 公共空間における音声情報伝達についての潜在因子抽出による検討
- ・ 高齢期以前の年代における主観年齢と老いへの抵抗感について
- ・ 若年層の居住に関するデンマークと日本の比較研究
- ・ ジャトロファの組織培養における効率的なシュート再分化に関する研究
- ・ 住宅所有形態と少子化の関係についての研究
- ・ 静止時における手の握り強さが動き出し反応時間に及ぼす影響
- ・ トイレペーパーの風合いと物理特性
- ・ 布と皮膚の摩擦特性に関する測定方法の検討
- ・ 有機栽培碾茶園における減肥プロジェクト
—統計解析による窒素溶脱低減化の評価—

社会環境論 コース

Course Keyword (コースキーワード)

- グローバル化
- 新自由主義
- 地域社会
- 第三世界
- 文化変容
- 公共性

人間の発達と社会の発展を多様な視点の総合から学ぶ

「社会」とは不思議なものです。一方で、社会とは一人一人の人間の集合であり、つまり社会を形作っているのは他ならぬ私たちです。そして私たちはこの社会の中で、迷いや力不足を感じつつも、他の人たちとともに少しでも幸せに、充実して生きていこうとしています。より良い生き方を目指して他の人たちと協働する場、それが社会であるはずですが。

しかし他方で、私たちはこの社会の中で、必ずしも思うように生きていくことができません。いや、「思うように」どころか、せめて「もう少しマシな」生き方を目指すことさえ簡単ではないのが現実でしょう。むしろ様々な壁に囲まれ、「生きにくい」と感じている人も少なくないようです。しかもその苦しみや不安、窮屈さは、最近ますます強まっています。しかもその苦しみや不安、窮屈さは、最近ますます強まっています。

私たち自身が社会を作っているはずなのに、なぜこうなるのか。一体どうすれば今の状況を変えられるのか。そして何を目標として進むのか——こう

した問題を考えるのが、社会についての新しい学問である【社会環境論】です。

【社会環境論】では、社会を人間の自由な発達のための環境として捉えます。今の社会で私たちはどんな状況に置かれているのか、私たちはなぜ今のような社会を作り出したのか、一人一人が充実して生きるためにはどんな社会が良いのか、そしてそうした社会を私たち自身がどう作り上げるのか。これが【社会環境論】のテーマです。

ですが、このテーマに取り組むには社会を多面的に見る必要があります(社会全体にかかわる問題を一つの解法で解けるわけではありません)。そのために【社会環境論】は様々な分野(政治、経済、法律、歴史、地理…)をベースにしながら、その枠を越えた学問を目指してチャレンジしています。あなたもこのチャレンジに参加してみませんか?面白さは保証つきです。

主なコース専門科目

- 社会規範論A・B
- 社会環境思想史
- 国際平和論
- 福祉国家論
- 家族論
- 社会文化環境論
- 社会変動史
- 地域空間システム論
- 農村開発論
- 自治体論
- 産業社会環境論A・B
- 産業構造論
- 現代日本社会史
- フィールドワーク実習
- 国際開発論
- 地域社会環境論A・B
- 労働史
- 都市地域論
- 憲法秩序論
- 環境経済学
- 国際社会環境論
- コミュニティ論
- 社会政策史
- 公共性論

教員からのメッセージ



地域を変化させる力を 読み解く醍醐味を 味わって欲しい

澤 宗則 准教授(人文地理学, 地域社会論)

私たちの日常生活の基盤である地域は、現在様々な点で大きく変容しています。シャッター街と化した地方都市駅前や商店街や過疎地域など、人々の努力や取り組みにもかかわらず都市内部や農村において衰退していく地域が数多くあります。その一方、大都市の駅前ではタワー型マンションが次々に林立し、郊外では大規模ショッピングモールが次々に建設されています。このような変化はどのようにして生じるのでしょうか?ここでの地域格差は何から生じているのでしょうか?ゼミではこのような問題意識から、地理学や地域社会に関する文献を読むと同時に、学外でのフィールドワークを通じて「地域を変化させる力を読み解く眼」を養います。そのために必要な両輪として理論研究(文献)と実証研究(現地調査)を行うため、よく読み・よく歩きます。また、毎年大学院生と共同で合宿形式のフィールドワークも行い、現地の人と交流しながら議論を行います。

学生からのメッセージ



私たちの素朴な「なぜ」を 探求することで社会をとらえる

村上 遼介 さん(社会環境論コース4年生)

今、世の中は大きく変化しています。変化とともに数多くの矛盾が生まれています。その矛盾を知り、社会で生きて行くための糧にしたいと思い、私は社会環境論コースに進学しました。

私はとくにグローバル化から生ずる矛盾に強い疑問をもっていたので、3年次に国際社会や国際開発について勉強できるゼミへ進みました。そのゼミで私は、先生や仲間と一緒にフィリピンの農村へ足を運び、マイクロファイナンスという貧困対策プログラムを調査したのです。フィリピンに行くまでに、ゼミでは何度もディスカッションを行い、家でも語学、調査のための勉強に時間を費やすなど、準備は決して楽なものではありません。ですが、一人一人が積極的に準備に取り組み、互いに刺激を与え合ったゼミでの日々は、とても充実したものでした。

世界、日本、そして身の回りにある「なぜ」という疑問を深く考えることができる場所、仲間が、社会環境論コースであなを待っています。

スタッフと研究分野・研究テーマ

† 2013年3月31日をもって退職予定

浅野 慎一 教授	岩佐 卓也 准教授	太田 和宏 准教授	岡田 章宏 教授	澤 宗則 准教授
社会文化環境論, 社会学	社会政策	途上国政治経済	社会規範論, イギリス統治構造論	人文地理学, 地域社会論
国境を越えて移動する人々を主な対象として、歴史に翻弄されながらも、自ら主体的に新たな歴史を創り出す諸個人の生活や行為について研究しています。	新自由主義的な制度改革と社会編成が進行するなかで、雇用のルールはどのように変容してきているのか、資金問題などを焦点に研究しています。	グローバル社会の抱える諸問題を発展途上国に焦点を当てて研究しています。特に開発政策と政治構造のあり方について検討しています。	近現代におけるイギリス地方自治の形成と展開を検討の対象としながら、住民自らが自治を行う可能性とそのあり方について研究を行っています。	グローバル化にともなう地域社会の変容、特に開発途上国インドの農村の変化、先進国の移民社会の形成について、現地調査に基づいて研究を行っています。
橋本 直人 准教授	山崎 健 教授	和田 進 教授†		
社会思想, 社会学史	都市地理学	憲法学, 平和論		
ドイツの哲学・社会学を中心に、これまで現代社会がどうとらえられてきたかを研究することで、社会と人間に関する新しい考え方を探求しています。	日本及び中国の都市・都市圏内部の地域構造の形成と変容について、地理学的手法を用いて研究を行っています。	日本国憲法の特徴を形成する平和主義を、その理念、歴史的経緯と現状、日本国民の平和意識、日米安保体制の展開等について研究しています。		

主な卒業研究テーマ

過去2年分より抜粋

- ・日・中・韓 平和絵本プロジェクト
- ・震災復興における市民と行政の協働
—新潟県中越地震における中越復興市民会議を中心にして—
- ・地域コミュニティ再生へ向けて —東灘区のNPO取り組みを追う—
- ・男性家事・育児参加の現状とイクメンへの展開
- ・子育てネットワーク形成について
—インターネットの利用は何を変えたか—
- ・グローバル化の構造転換 —近代世界システムの彼方へ—
- ・キャラ付けのコミュニケーションとアイデンティティの関係性
—ゴフマン・ミードの視点から—
- ・景観まちづくりと市民参画の新たなカタチ
—神戸市旧居留地地区の事例から—
- ・企業の社会的責任(Corporate Social Responsibility)形成の歴史的分脈とその現代的意義
- ・国内ボランティアと国際ボランティア比較
- ・冷戦崩壊後の平和意識の変遷
- ・経済格差から見る教育格差の新たな展望
- ・現代人の幸福の在り方 ～幸福を多角的に考える～
- ・エーリッヒ・フロムの思想の考察 —自発的な仕事のありかた—
- ・介護労働者の社会的地位の向上 —デンマークとの比較から—
- ・学生団体による地域再生活動の目指すべき方向性
- ・環境先進国ドイツの課題 ～生物多様性に関する取り組みについて～
- ・現代社会が抱えるコミュニケーション関係の課題について
- ・郊外住宅団地における男性退職者のネットワーク形成について
—神戸市垂水区団地スポーツ協会を事例にして—
- ・産業社会における遊びの自由と抵抗の可能性
- ・地域づくりにおける社会関係資本の形成
—丹波市における新規定住者獲得に向けた取り組みを事例に—
- ・不登校・ひきこもりの経験者の生活と意識
—内的葛藤と新たな社会認識の錯綜—
- ・ボランティア学習の意義と課題
—国立ハンセン病療養所国分館でのワークキャンプを事例に—

発達支援論 コース

Course Keyword (コースキーワード)

- 子どもと家庭の支援
- ジェンダー・イクイティ
- 成人学習
- ボランティア
- 社会的排除
- 持続可能な社会づくり

4学科横断のユニークなコースで、 鋭い問題意識を幅広い観点から鍛える

発達支援論コースは、発達科学部の特色を生かすことを目的に作られました。どの学科からでも3年次から、実践的研究に関心のある学生なら進むことができ、自分の関心に基づいて他のどのコースの授業でも受講することができます。卒業論文にその成果をまとめることが目的です。卒論研究に当たっては、人間発達環境学研究科に設置されたHCセンター(ヒューマン・コミュニティ創成研究センター)の活動と連動しながら、アクション・リサーチという、実践現場に足をのいた研究方法の指導を受けることができます。HCセンターには、「ヘルスプロモーション」、「ジェンダー研究・学習支援」、「子ども・家庭支援」、「労働・成人教育支援」、「障害共生支援」、「ボランティア社会・学習支援」という6つの領域があります。詳細はそれぞれの教員紹介欄をご覧ください。

これらの多様なプロジェクトに参加しながら、鋭い問題意識を養っていきます。たとえば、HCセンターでは、アクション・リサーチに取り組むために大学外の市街地に、のびやかスペース「あーち」というサテライト施設をつくっています。ここでは「子ども・家庭支援」と「障害共生支援」の2つの部門がさまざまなプログラムを展開しています。毎年、この施設を利用して卒論に取り組む学生がいます。また、学生たちの表現活動の場にもなっています。このコースで学ぶためには、社会の動きに目を向けその成り行きに関心をもっていることや、さまざまなアクティビティに自分から参加して、参加者の間をつないでいくような能動的な姿勢が必要です。

主なコース専門科目

- 発達支援論研究
- 発達支援論演習(子ども・家庭支援論)
- 発達支援論演習(ジェンダー研究・学習支援論)
- 発達支援論演習(ボランティア社会・学習支援論)
- 発達支援論演習(労働・成人教育支援論)
- 発達支援論演習(障害共生支援論)
- 発達支援論演習(ヘルスプロモーション論)
- 発達支援研究法



教員からのメッセージ

対立や葛藤を 成長の糧に変えていこう

津田 英二 准教授(生涯学習論, 障害共生支援論)

「のびやかスペースあーち」などで取り組んでいる実践的研究において、対立や葛藤を人間の成長によって乗り越えるという視点が大切だと思っています。解決不可能であるかのように思える問題の中に身を投じ、粘り強く解決を探るという経験は、学生のみなさんの心身を鍛え、地球に溢れる諸問題の解決に向かう重要なプレイヤーとしての素質を磨きもすることでしょう。マニュアル社会に住む私たちは、答えがすぐに手に届くところにあると考えてしまいがちですが、私たちの社会にある公共的な課題の多くは、簡単な介入による解決を許さない複雑な背景をもっています。学生のみなさんには、たくさんの地球規模の課題を身近に感じ、その根の深さを知り、それでも根気強く解決に向けて地道な努力をしている人たちに接してもらいたいと思っています。発達支援論コースは、そうした機会をたくさん提供しています。学生も教員も一緒に悩み、そして前進しましょう。

スタッフと研究分野・研究テーマ

† 2013年3月31日をもって退職予定

<p>伊藤 篤 教授</p> <p>子ども家庭福祉論</p> <p>出産から青年期までの子どもの発達を支援する仕組みを、当事者である家庭と学校を含む公的資源およびNPOを含む地域資源との協働という視点から考えています。</p>	<p>川畑 徹朗 教授</p> <p>健康教育, ヘルスプロモーション</p> <p>青少年が薬物乱用などの危険行動を避け、健康増進行動を主体的に選択できるようにするため、健康教育とヘルスプロモーションに関する研究を行っています。</p>	<p>末本 誠 教授</p> <p>社会教育, 成人教育, 成人学習論, ライフヒストリー</p> <p>社会に存在する学校以外の場での、成人の学習の意義やその支援の方法などについて研究しています。現在とくに取り組んでいるのは、ライフヒストリーを成人教育に応用するという方法論の開発です。</p>	<p>高尾 千秋 助教†</p> <p>ESD, 青少年教育, 野外教育</p> <p>ESDサブコースのコーディネーターとして、ESD(持続可能な開発のための教育)を推進するプログラムの研究・開発や、野外での体験学習やワークショップ等による青少年教育の実践的研究を行っています。</p>
<p>津田 英二 准教授</p> <p>生涯学習論, 障害共生支援論</p> <p>障害の問題を社会の問題として捉え、社会的排除のない共生社会にどのように近づくことができるかということを実践的に追究する研究を行っています。</p>	<p>朴木 佳緒留 教授</p> <p>ジェンダー問題と教育・学習</p> <p>日本のジェンダー問題を明らかにし、教育や学習の問題また学習者支援について具体的、実践的に追究する研究を行っています。</p>	<p>松岡 広路 教授</p> <p>生涯学習論, 福祉教育・ボランティア学習論</p> <p>持続可能な開発をしつづけてきた現代社会を変革するためのさまざまな市民活動・社会的事業・教育活動を対象に、その推進方策・原理を実践的に研究しています。</p>	

主な卒業研究テーマ

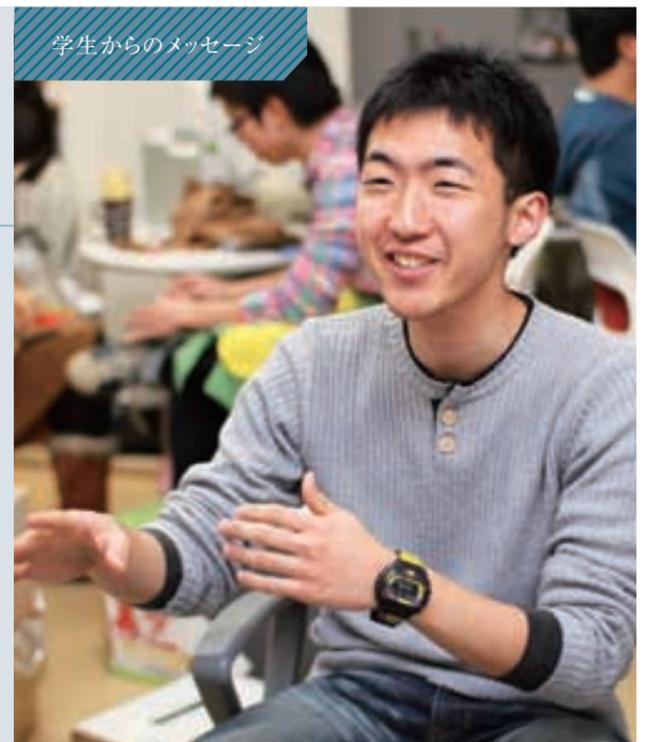
過去2年分より抜粋

- ・不登校と不登校児の家族の家族療法による変化に関する考察
- ・ブックスタートの現状と親子に与える影響についての一考察
- ・母体体重に関する産後の不安を減らす試み
ーやせ妊婦増加の視点からー
- ・子どもを対象とした野外活動におけるボランティアサブリダーの役割についての一考察
- ・岸和田男女共同参画と岸和田だんじり祭りの関係についての一考察
- ・ボランティアが拓く学校内の脱学校の取組の可能性
ー放課後の学習支援実践を通してー
- ・家庭に問題を抱える子どもに対応した教員の連携に関する一考察
- ・歴史的に見た演劇教育の発展と衰退ー現代の普及に向けてー
- ・アスペルガー障害のある学生の高校から大学初年度にわたる支援についての一提言
- ・児童保育施設における健常児と障害児の関係の発展に関する一考察
- ・児童相談所におけるマンパワー不足問題
ー児童相談所数・児童福祉数等の量的問題について
- ・性行為におけるジェンダーについての研究
ーデンマーク・オーフス市の事例と聞き取り調査を通してー
- ・男性の育児休業取得促進のために
ースウェーデンの育児休業制度・企業対応・人々の意識を参照してー
- ・地域と【協働】するワークキャンプに関する一考察
ーワークキャンプ実践が未来への懸け橋となる事を願ってー
- ・内的キャリア形成のあり方についての考察
ー自己のライフストーリーをもとにー
- ・薬物をめぐる文化に関する考察
- ・ゆとり教育をめぐるメディア報道の当事者的観点からの考察
ー新聞記事に対する当事者へのインタビューを通してー

自分の新たなフィールドを 見つける, 創る, 広げる

田中 雄大 さん(発達支援論コース4年生)

ここはどのコースからも入れたため、非常に個性的なメンバーが揃っています。部活に打ち込む者、子どもとキャンプで載れる者、イベント運営に関西中を飛び回る者、他にも紹介しきれない様々な人たちが集まっています。それぞれが独自のフィールドを持っていることもあり自分のフィールドの幅もぐっと広がります。たとえば僕自身、このコースに来たおかげで東北で気づきの多いボランティアに参加する機会をえました。そして東北のボランティアをきっかけとして、福島の高校生の演劇行脚でお手伝いをさせてもらったり、フェアトレード団体の事業企画会議に参加させてもらったりと、派生して自分のフィールドが広がっていきました。正直、このコースで何がされているのかは深く理解せずにやってきた感はあるのですが、日々新しいフィールドが見え、発達科学部の魅力的なイチャオシのコースです!



学生からのメッセージ

カリキュラム

	1年	2年	3年	4年
学部共通科目	学部共通科目			
全学共通科目, 全学共通基礎科目	全学共通科目, 全学共通基礎科目			
学科共通科目	学科共通科目			
コース専門科目		コース専門科目		
卒業研究				卒業研究
全学共通科目	●教養原論 ●外国語科目 ●情報科目 ●健康・スポーツ科学			
学部共通科目	●発達科学への招待			
学科共通科目	【入学時の学科の学科共通科目を履修します】			
コース専門科目		●発達支援論研究	●発達支援論演習(ジェンダー研究・学習支援論) ●発達支援論演習(労働・成人教育支援論) ●発達支援論演習(ヘルスプロモーション論) ●発達支援論演習(子ども・家庭支援論) ●発達支援論演習(ボランティア社会・学習支援論) ●発達支援論演習(障害共生支援論) ●発達支援研究法	
		【2年で所属するコースのコース専門科目を履修します】	【発達科学部のすべての授業科目を履修することができます】	

主な進路・主な資格免許の取得状況

主な進路

さらに学びたい人はp. 88へ。

2011年度	2010年度
<ul style="list-style-type: none"> ・ケイ・オブティコム ・ノバシステム ・神戸市教員(中学) ・横浜市教員(小学) ・横浜家庭裁判所 	<ul style="list-style-type: none"> ・エステティシャン ・京都新聞社 ・タガヤ ・読売新聞大阪本社 ・モラブ阪神工業 ・NPO法人ブルービーンズシヨア ・Verizon Communications Singapore Pte. ・鳴門教育大学大学院学校教育研究科

主な資格免許の取得状況

社会教育主事, 社会福祉主事任用資格を除きます。

2011年度	2010年度
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校教諭一種免許状 ・幼稚園教諭一種免許状 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校教諭一種免許状 ・特別支援学校教諭一種免許状 ・幼稚園教諭一種免許状

OB&OG INTERVIEW

社会福祉法人恵仲会
サンレジデンス湘南 勤務

伊藤 美友 さん
(2010年3月卒)



今の私は神戸大学での4年間があったからこそ

私は今、神奈川県平塚市にある社会福祉法人で福祉用具の販売やレンタルの仕事をしてながら、人事やヘルパー2級講座の事務局など法人内の様々な仕事に関わらせてもらっています。また、現在社会福祉士通信課程で社会福祉士の取得を目指して勉強中です。

大学時代は人間表現学科に所属し、自由劇場という演劇部で4年間演劇をしていました。学科のみんなと卒業公演で舞台をやれたことは、最高の思い出であると共に今の私の原動力となっています。発達科学部では本当にたくさんの人と出会い、たくさんのことを学びました。

私が現在の仕事に就こうと思ったのも、所属していた発達支援論コースの院生と話をしていて「どんな人でも集えるような『コミュニケーション』つくりたいよね。」という話題で盛り上がったことがきっかけ。本当にそんな居場所づくりしたいという思いが今の仕事に結びついています。将来はもちろん自分で『コミュニケーション』を作ってそこで演劇したいですね!

発達科学部

ESD サブコース

Course Keyword (コースキーワード)

- 持続可能な社会の構築
- 人権・平和・環境・開発・倫理
- アクション・リサーチ
- 人間の変革可能性
- 新しい価値観の形成
- 未来への責任

専門的な15コースでの学びに加え、履修可能な補助カリキュラム

ESDサブコースは、発達科学部・文学部・経済学部・農学部・国際文化学部・工学部の6つの学部が協働し運営している学部を超えた領域横断型のユニークなコースです。発達科学部の学生は主専攻に加えて選択できるコースとなっているため、サブコースと呼ばれています。

地球規模の環境破壊や、エネルギーや水などの資源保全の問題など、人々が現在の生活レベルを維持しつつ、次世代も含む全ての人々により質の高い生活をもたらすことができる社会づくりが重要な課題になっています。これを解決するため、日本政府の発案により、世界中で取り組むことが国連で決議された「持続可能な開発のための教育」のことをESD (Education for Sustainable Development) といいます。

ESDサブコースは、3つの大きな特徴を持っています。ひとつには、ESDに求められる課題の多様性に対応し、貧困、平和、正義、人権、倫

理、健康など「持続可能な社会の形成」に重点をおいた各学部の特徴を生かした多領域の学びが用意されています。次に、学生のみならず、地域社会の個々の活動現場に出かけ、学外の人々と連携しながら実践活動への参画(アクション・リサーチ)を通して、持続不可能な社会や仕組みの問題性あるいは解決の方向性を探究することになります。そして、4年間で関連科目を含め14単位を取得することで、卒業学位とは別に「ESDプラクティショナー」として認証を受けることができます。こうした特徴的な仕組みのなかで、個別の専門知識に偏らない複眼的な視点、実際の問題を解決する上で求められる組織・集団の調整能力、および問題を解決する意志とスキルを持った人材の養成を目標としています。

カリキュラム

	1年	2年	3年	4年
基礎科目	●ESD基礎(持続可能な社会づくり) ●実践農学入門 ●総合科目I(ESD論)			
関連科目	●生涯スポーツ論 ●農と植物防疫入門 ●熱帯有用植物学 ●ヴィジュアル・コミュニケーション論 ●阪神・淡路大震災 ●総合科目II(ボランティアと社会貢献活動)	●子どもの発達 ●自然教育論 ●健康行動科学 ●都市・建築文化論 ●生活空間計画論I ●生活環境緑化論I ●ガバナンス論	●環境人文学講義I ●バイオエシックス ●環境NPOビジネスモデル設計概論 ●社会コミュニケーション入門 ●食糧生産管理学 ●植物学講義 ●環境人文学講義II	●国際開発論 ●環境植物生態学 ●エコロジー論 ●メディア論
フィールド演習科目		●ESD演習I(環境経済学) ●ESD演習I(兵庫県農業環境論)	●ESD演習I(環境発達学) ●ESD演習I(環境人文学) ●ESD演習II(環境発達学)	●生涯発達心理学 ●ESD演習II(環境人文学) ●ESD演習II(環境経済学) ●ESD演習II(実践農学)
総合実践科目				●ESD実践論

「考え」、「発見」し、「学び」を得ることができる場所

山崎 茜草 さん(発達支援論コース・ESDサブコース4年生)

ESDサブコースでの授業は、知識を得るというよりは、それぞれが「考え」、「発見」し、「学び」を得るような構成になっています。実際にフィールドに出かけることも多く、調査やアンケート、人との交流といった体験の中に多くの発見や学びがあります。また、それぞれが学んだことを発表する機会が設けられ、人の学びから新たな発見を得ることができます。普段自分が触れることのない領域にも関わることができ、その中で自分が目も向けていなかったところに問題が潜んでいたり、学部によって考え方に違いがあったりすることに気づかされます。昨年度は大震災を受け、震災に関して、人、農業、エネルギーなど様々な観点から問題や行われている活動についてお話を訊いたり、調査したりする機会が多く設けられました。今の社会で問題になっていることをリアルタイムで学習できるのもこのコースの特徴です。

学生からのメッセージ





神戸大学大学院 人間発達環境学研究科

Graduate School of Human Development and Environment

人間発達環境学研究所とは

科学技術の進展、高度情報化、社会のグローバル化は、人間の発達可能性を増大させる一方で、民族紛争や価値観の衝突、知識と富の偏在、自然環境の破壊、エネルギーの枯渇など、人類の生存を脅かす問題も深刻化することが予想されます。

このようななか、人間発達は、人間それ自身についての研究のみでは捉えられず、人間をとりまく環境のあり方を探求し、人間的なもの・こととは何であるか、何が人間にとって利益で、何が不利益か、など複雑な事象について、多面的、重層的に研究することが求められています。

このような社会的・学問的要請のもと、人間発達環境学研究所では、人間の発達とそれをとりまく環境に関する深い見識と洞察にもとづいた、新しい人間発達研究に取り組みます。



教育の特色

博士課程前期課程の特色

博士課程前期課程では、人間の発達及びそれを取り巻く環境に関わる基礎的並びに応用的・実践的な教育研究活動に主体的に参加し、これを推進する指導的役割を担える高度な専門的能力を備えた人材の養成を目指しています。このために、本研究所の教育プログラムは、個々の学生が、本研究所在学中のあらゆる機会を通じて身につけていく知識・スキル・能力・資質の獲得と、それらの自己開発力の獲得とを、トータルにプロデュースし、支援していく組織的な取り組みとなっており、以下のような特色をもった、学ぶ側の立場に立った能力開発支援型の教育プログラムです。

●積み上げ方式のカリキュラム構成

専門力量の形成を支援するために、研究課題に応じ、基礎科目(特論Iなど)、展開科目(演習など)、および関連科目からなる積み上げ方式のカリキュラム構成となっています。また「演習」においては、開発するスキル群をシラバスに明記し、スキル開発を重視しています。

●研究科共通科目(ヒューマンコミュニティ創成研究)の設定

研究科共通科目「ヒューマンコミュニティ創成研究」において、ヒューマン・コミュニティ創成研究センター、「あーち」、サイエンスカフェなどを活用した産学官民協働のフィールド研究活動に積極的に参画し、それらの活動を通して、ヒューマン・ディベロップメント、ヒューマン・コミュニティ創成のメインを醸成します。

●特別研究Ⅰ・Ⅱの設定

研究科共通科目「特別研究Ⅰ」において、文献調査法や資料収集法、フィールドワークやアクション・リサーチの技法など、研究に必要な方法論の基本的手法を修得することで研究能力の基礎を固めます。さらに共通科目「特別研究Ⅱ」において、フィールドワークやワークショップ、プロジェクト研究や作品展など、研究の実際の場面に関わることで、研究の実際的手法を修得します。また、後期課程進学志望者については、1年次の「学会参加」、2年次の「学会発表」を支援します。



●長期履修制度や柔軟・適切な教育方法の実施(社会人学生)

社会人学生については、長期履修制度を設けるとともに、学習の機会が制約されないよう、(大学設置基準第14条に定める教育方法の特例にもとづく)夜間・休日開講など、柔軟かつ適切な教育方法を実施します。

●ソフトスキルや社会人基礎力の育成

専攻レベル、研究室レベルで実施されている諸活動(専攻研究セミナー、修士論文発表会など)について、「参加」「運営」といった役割を担うことを通して、コミュニケーション・スキル、ネゴシエーション・スキル、企画力、マネジメント・スキル、チームワーク・スキル、リーダーシップ・スキルといったソフトスキルや社会人基礎力の育成を支援します。

●取得できる学位と後期課程への進学

前期課程では、修士(学術)が基本ですが、教育研究内容によっては、教育・学習専攻においては修士(教育学)、人間環境学専攻においては修士(理学)を取得することができます。また、前期課程を修了した者が引き続き後期課程に進学を希望する場合は、選考の上、進学することができます。後期課程への入学料は必要ありません。



求める学生像

人間発達環境学研究所は、人間の発達及びそれを取り巻く環境に関わる基礎的並びに応用的・実践的な教育研究活動に主体的に参加し、これを推進する指導的役割を担える高度な専門的能力を有する人材の養成を目指しています。そのため、次のような資質・能力を持った学生を積極的に受け入れます。

- 高度な研究を遂行していくための基礎的な資質・能力
- 人間の発達や環境に関する諸課題に対する鋭敏な感受性と深い専門知識にもとづいて新しい課題を析出していく資質・能力
- 多角的かつ重層的に課題を分析・考察し、体系的に概念化と理論化を行うことができる高度な知的能力
- 現代的諸問題を解決するための具体的方策を提案し、柔軟に対応できる行動力



博士課程後期課程の特色

博士課程後期課程では、人間の発達及びそれを取り巻く環境に関わる基礎的並びに応用的・実践的な教育研究活動に主体的に参加し、これを推進する指導的役割を担える高度な専門的能力、そして独創性及び卓越性を発揮しうる研究能力を備えた人材の養成を目指しています。このために、本研究所の教育プログラムは、個々の学生が、本研究所在学中のあらゆる機会を通じて身につけていく知識・スキル・能力・資質の獲得と、それらの自己開発力の獲得とを、トータルにプロデュースし、支援していく組織的な取り組みとなっており、以下のような特色をもった、学ぶ側の立場に立った能力開発支援型の教育プログラムです。

●専門力量の深化

さらなる専門力量の深化を目指した高度化科目(特論Ⅱ)を展開します。

●特別研究Ⅲ・Ⅳの設定

研究科共通科目「特別研究Ⅲ」において、文献課題やレビュー論文の作成などを通して、国内外の研究状況を把握するための能力発展を目指します。さらに共通科目「特別研究Ⅳ」において、フィールドワークやワークショップ、研究会、学会、プロジェクト研究などの企画・運営に参画し、研究を組織化する方法を修得することができます。

●体系的な博士論文作成指導システムの提供

前期課程、後期課程の5年間で円滑に博士論文を作成できるようにするため、複数教員による体系的な論文作成指導システム(基礎論文、プロポーザル、予備論文、中間発表、公開最終試験)が準備されています。

●実践的な教育力の涵養支援

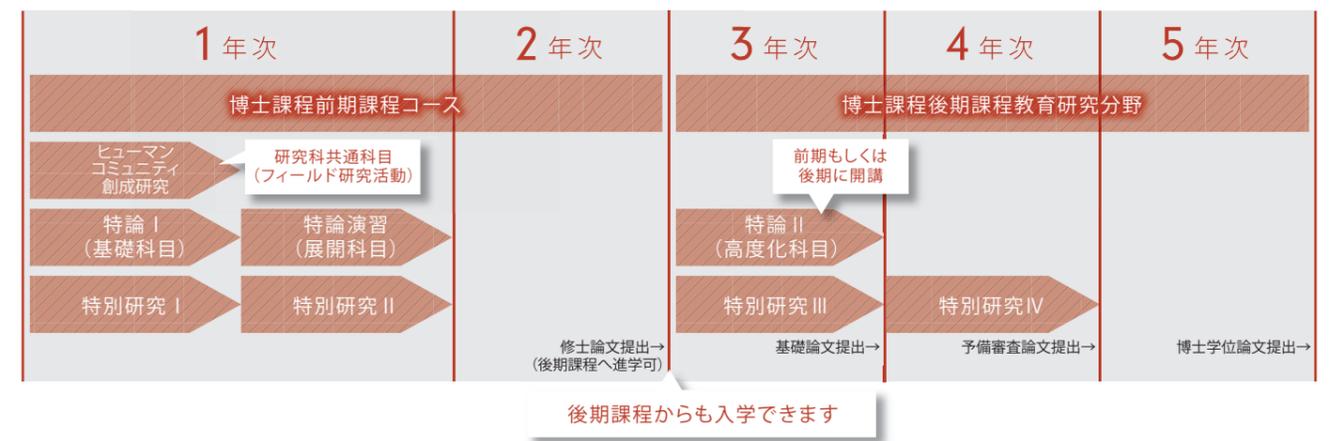
大学教員を目指す学生に対して、学部の教育実習に相当する科目「教育能力養成演習」の履修により、実践的な教育力の開発を支援します。

●取得できる学位

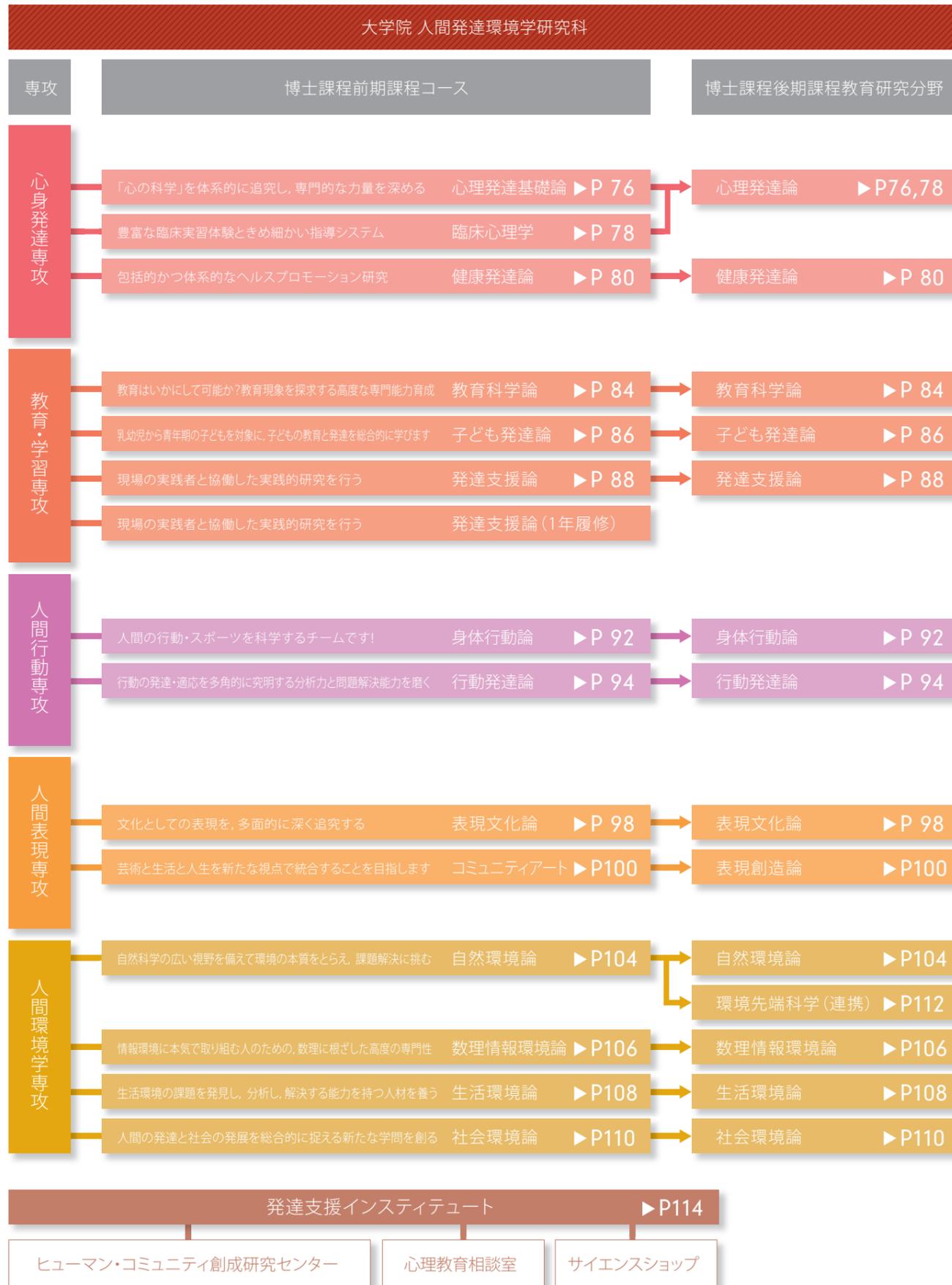
博士(学術)を基本としますが、教育研究内容によっては、教育・学習専攻においては博士(教育学)、人間環境学専攻においては博士(理学)を取得することもできます。



研究科のカリキュラム



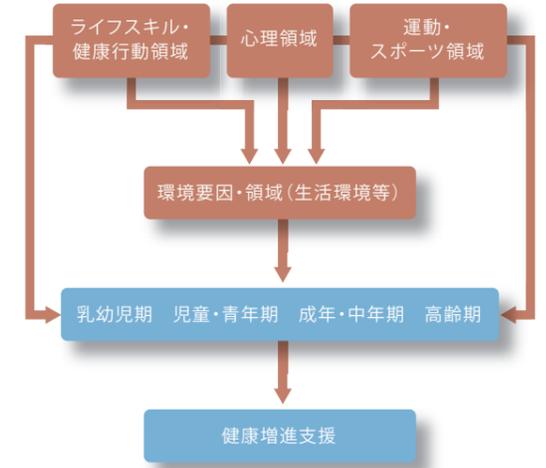
研究科構成図



研究トピックス

TOPICS 1 健康増進支援プロジェクト
「人々の健康増進を支援することから
高齢社会の課題解決を試みる」

日本は、世界のどの国も経験したことのない少子・高齢社会を迎えています。これにより、日本の活力低下が懸念され、それに関連して医療費の高騰が国の予算を圧迫し始めています。このような中で、国民一人一人が健康的な生活をおくることが求められ、国の大きな課題となり、国レベルの様々は施策が実施されていますが、いまだ解決にいたっておりません。この課題の解決には従来の医療的は視点のみではなく、個人の健康課題とその人を取り囲む環境課題との相互関連から検討が欠かせず、さらに、各年代に合った、発達という視点での取り組みがキーになります。したがって、総合的な視点での研究が可能な本研究科において、まさしく、アプローチしなければいけない課題であります。このような中で、本研究科では2011年度から健康増進支援プロジェクトを立ち上げ、教員と大学院生との共同で現代の健康課題に取り組むことにより、少子・高齢社会での生き生きとした社会の構築を目指しています。



TOPICS 2 ESD海外実践研究
「海外フィールドワークで
現実を直視し問題の本質に迫る」

2011年春、教職員と学生の総勢17名が、バングラデシュで約2週間にわたり、ストリートチルドレン支援現場への訪問、フェアトレード事業主との交流、農村探訪、現地高校生との道づくり活動、ハンセン病療養所訪問、まち探索ワークショップ、大使館訪問などの活動を行いました。あらかじめ十分な学習を行っていたものの、どの活動においても頭はまるで嵐(ストーム)、混乱の極みとなることもしばしばありました。毎晩、全員で当日の活動に関する振り返り会を行うも、これまで固めてきた自分の考え方や観点が崩れ、かえって「わからない」が増幅するという繰り返りでした。しかし、実際に現場で見聞きしたものが現実なのです。

このように、持続可能な開発のための教育に取り組むには、学外のフィールドに出かけ現場を知ることが重要です。現実を直視しフィールドに存在する問題の本質にふれ、改めて自分のすべき方向を探るこのプロセスこそ、問題解決への道標が存在します。

TOPICS 3 学術WEEKS
「国内・国際交流研究会を軸として
学際的研究を推進する」

学術WEEKSは、教員、大学院生、大学生が総体となり、国内・国際交流研究会ならびに研究活動報告会を企画、実践するもので、2008年度から11月頃に毎年実施しています。これらの実践活動を通して、個人ならびにグループの研究を鳥瞰的に見つめ直し、研究能力の向上を図ることが目的の一つです。また、本研究科で行われている多様な研究領域について、教員、大学院生、大学生が異なる学術分野の枠を超えて交流するように多角的に工夫されており、新たな学際的研究を生むフィールドとしても期待されます。2011年度の学術WEEKSでは、12企画を実践し、外国人研究者はのべ21名、大学院生と大学生はのべ387名が参加しました。特に大学院生が企画段階から主体的に取り組むことで、On the job training(OJT)として、英語力、企画・運営力、広報力、発表力などの研究に重要なスキルを習得し、キャリアを育成する支援を行うという教育的側面も持っています。



心身発達専攻

心の発達とヘルスプロモーションの見地から人間を理解する！

専攻の理念

心身ともに健康で、自らの多様な可能性を十全に開花させながら人生を送ることは、すべての人の共通の願いです。人は生涯にわたって様々な発達課題や困難に直面していて、その年齢を問わず多面的な支援を必要としています。心身発達専攻では、発達心理学・臨床心理学・健康科学を総合した観点から、心の発達とその病理、身体の発達と健康及びその促進的要因や阻害要因について深く探究し、心と身体の複雑な相互関係を社会システムとの関連の中でトータルに把握することに努め、広い視野と深い専門性を総合した人間発達の様相を追究しています。



専攻長からのメッセージ

専攻長 森岡 正芳 教授
(臨床心理学コース)

心身発達専攻は、「心理発達論」と「健康発達論」の2つの教育研究分野から構成されています。前期課程には、発達心理学の基本的諸問題や発達障害の教育臨床的諸問題を教育研究する「心理発達基礎論コース」、心の健康や心の病理・心理療法などの心理適応の諸問題を教育研究し、臨床心理士の養成をおこなう「臨床心理学コース」、生涯発達の基礎をなすヘルスプロモーションのメカニズムに関わる健康発達・健康教育などの諸問題を教育研究する「健康発達論コース」があります。各コースとも、それぞれのコースにおける高度な専門的知識を身につけ、人間的で成熟した市民社会の形成過程に主体的に貢献できる人材を養成しています。後期課程では、上記の諸問題をさらに専門的かつ総合的な観点から俯瞰でき、高度な専門的学識と創造性豊かな優れた研究・開発能力を持ち、自立して新たな知見や価値を創出できる研究者を養成しています。

コースと教育研究分野

「心の科学」を体系的に追究し、専門的な力量を深める

心理発達基礎論 コース
(教育研究分野：心理発達論)

▶ P76



豊富な臨床実習体験ときめ細かい指導システム

臨床心理学 コース
(教育研究分野：心理発達論)

▶ P78



包括的かつ体系的なヘルスプロモーション研究

健康発達論 コース
(教育研究分野：健康発達論)

▶ P80



主な進路

2011年度

- ・松阪厚生病院
- ・神戸市職員
- ・岡山県職員
- ・高知県職員
- ・社会福祉法人大阪府衛生会
- ・独立行政法人国立国際医療研究センター
- ・法務教官
- ・甲南大学特任教授
- ・神戸大学大学院人間発達環境学研究科(1名)

2010年度

- ・アステラス製薬
- ・富士通エフ・アイ・ピー
- ・松原病院
- ・伊丹市職員
- ・さいたま家庭裁判所
- ・兵庫県職員
- ・堺市教員(小学)
- ・神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究生
- ・神戸大学大学院人間発達環境学研究科(1名)

主な取得可能な資格免許

- ・特別支援学校教諭専修免許状
- ・臨床心理士試験受験のための基礎資格(臨床心理学コースのみ)

心理発達基礎論 コース

(後期課程:心理発達論教育研究分野)

Course Keyword (コースキーワード)

- 心理学
- 生涯発達
- 発達臨床
- 適応支援
- 自己形成
- 認知発達

「心の科学」を体系的に追究し、専門的な力量を深める

前期課程では、心理学の専門的知識・技術を持って、心の発達と様相をトータルに研究するための能力と円滑な人間関係をマネジメントできる実践力を養成します。そのために、心のはたらき、心のメカニズム、心の発達と形成、発達障害の理解と支援などにわたる、基本的かつ総合的なカリキュラムを用意しています。学生は、同じ人間発達論講座の臨床心理学コースの科目と併せて履修することにより、心の問題について、基礎的、原理的な理解の上に臨床的、実践的な理解を積み上げ、一層専門的な力量を深めることができます。就職先としては、自治体の心理職(心理判定員・心理相談員)、法務関係の専門職(家庭裁判所調査官、鑑別技官)、民間企業や自治体の一般職などが考えられます。

後期課程では、前期課程(臨床心理学コースを含む)での学習・研究を踏まえ、生涯にわたる心の発達について、さらに高度な専門的知識を深めると同時に、解明を求められている研究課題について、多面的・総合的な視点から研究し、成果をあげることでできる人材を養成します。また、修了後に大学などの教育研究機関で勤務することを想定し、教員としての教育力の育成を図ります。人間の生涯発達を理解する上で欠かせない人格形成の諸問題、発達心理学の諸問題、心理的適応と心の健康・病理や発達障害などの臨床的諸問題などの研究を通して、より高度な専門的教育・研究を行います。修了し、博士号を取得した後の就職先としては、大学をはじめとする研究機関の研究職などが考えられます。



大学院生からのメッセージ

子どもの発達に 作文は何ができるか

若原 ひとみ さん(前期課程2年生)

子どもの発達を支えるために学校教育で何ができるのか、それが私の最大の興味です。とくに、作文をとおして小学生の思考や心の発達を支えるための指導方法を研究しています。人の内面で起こっていることは外からは見えづらいものですが、それをいかに見えるかたちに取り出すのか。作文は、その手段として可能性を秘めています。であれば、作文指導は子どもの発達にどう関わることができるだろうか。そこが難しいところでもあり、またそれだけに面白いところでもあるのです。

教科教育が何をもとに何を目指し、それが子どもにとってどのような意味を持つのか。授業をとおして、こうした視点の重要性を感じています。他コースの学生との交流からは、専門の中だけでは気づけなかった子どもを読み解く新鮮な観点を見出すこともしばしばです。日々、子どもの姿について学び、語り合う中で、子どもがたくさんのことを私たちに教えてくれる。そこに人間の奥深さを感じています。

スタッフと研究分野・研究テーマ

①前期課程・後期課程担当(無印は前期課程のみ)

赤木 和重 准教授 発達障害心理学 自閉症児における自己と社会性に注目して研究しています。特に教示行為の発達と障害について、実証的な研究を行っています。	齊藤 誠一 准教授① 発達心理学 思春期の身体発達・性的成熟が当の青年及び親・友人など周囲の人間に与える心理的影響に関して研究しています。	坂本 美紀 准教授① 教育心理学 児童の協調的な学びのプロセスとその支援に関心があり、科学的思考や科学的リテラシーを育成する授業の開発とその評価に取り組んでいます。	谷 冬彦 准教授① 人格心理学 青年期におけるアイデンティティ(自我同一性)の研究を中心として、広くパーソナリティ(人格)や自己に関する実証的研究をしています。	鳥居 深雪 教授① 発達障害臨床学 発達障害の背景にある認知神経心理学的な問題について追及するとともに、どのような介入を行うことが脳の発達を支えるのかについて研究しています。
--	---	--	--	---



主な授業科目

②後期課程開講科目

- 人間発達特論Ⅰ
- 自己形成特論Ⅰ
- 教育発達心理学特論Ⅰ
- 行動発達分析学特論Ⅰ
- 発達障害臨床学特論Ⅰ
- 心理統計法特論
- 人間発達特論Ⅱ②
- 自己形成特論Ⅱ②
- 教育発達心理学特論Ⅱ②
- 教育能力養成演習②
- 臨床人間関係学特論Ⅱ②
- 臨床心理学特論Ⅱ②
- 芸術療法特論Ⅱ②
- 臨床心理実習Ⅱ②

主な学位論文テーマ

③は博士学位論文
過去2年分より抜粋

- ・愛着との関係からみる自己愛人格の構造に関する研究
- ・青年期における親子関係および父母関係の認知と対人態度の関連
- ・高校生のポータルメディアの利用と「1人でいられる能力」による情動発達との関連について
- ・セクシュアリティとジェンダー：身体意識、性同一性、性指向、性役割とその関連
- ・小中移行期における学校適応の変化 - 縦断研究による調査から -
- ・発達の移行における自己愛と人格特性との関連の変化③

研究最前線 谷 冬彦 准教授(人格心理学)

青年のアイデンティティから 日本文化におけるパーソナリティ形成まで

私は、青年期における「アイデンティティ(自我同一性)」の研究を中心に、広く「パーソナリティ(人格)」や自己に関する実証的研究をしています。特に、アイデンティティ研究においては、アイデンティティの感覚の程度を多面的に測定する多次元自我同一性尺度(Multidimensional Ego Identity Scale: MEIS)を開発しました。これは、現在の日本のアイデンティティ研究において最も多く使用されている尺度で、今や研究に欠かせないものとなっています。私の著書「自我同一性の人格発達心理学」(2008年、ナカニシヤ出版)は、このMEISを用いて行った最先端の研究をまとめたものです。

アイデンティティ研究以外にも、精神分析の人格理論に基づいた実証的研究や精神病理的傾向に関する実証的研究も行っています。具体的には、自己愛、基本的信頼感、「甘え」のような精神分析の人格理論に基づいた実証的研究、また、対人恐怖・対人不安、絶望感、抑うつなどのような精神病理的傾向に関する実証的研究などです。

「甘え」や対人恐怖については、日本の文化と深く関連していることが従来から指摘されてきたわけですが、特に「甘え」についてはまだ実証的に明らかにされているとは言い難く、さらなる研究が必要だと考えています。こうした問題については、私も日本文化におけるパーソナリティ形成という観点から関心を持ってきました。それは、日本人におけるアイデンティティ形成とも密接に関わるからです。これまでに、「甘え」とアイデンティティ形成、日本的なアイデンティティ形成と対人恐怖、日本的な自己愛の在り方とアイデンティティ形成といったテーマに取り組んできましたが、今後、さらに追究してゆきたいと考えています。



臨床心理学 コース

(後期課程:心理発達論教育研究分野)

Course Keyword (コースキーワード)

- 臨床心理専門職
- トータルな人間把握
- 実践能力
- アートと癒し
- 研究能力
- 心理社会支援

豊富な臨床実習体験ときめ細かい指導システム

臨床心理士養成を目的とするコースで、心理臨床の専門職に求められる実践力と研究能力をともに高めることを目指しています。臨床心理士受験資格取得の第1種指定大学院コースです。資格認定協会指定カリキュラムに対応した授業科目を準備しています。

発達支援インスティテュート心理教育相談室や外部実習施設での実習を通して、心理や発達上の問題を抱える子どもから青年のカウンセリング・遊戯療法・心理療法の諸技法そして心理検査・発達検査について専門的力量を養成します。最近は成人期から熟年世代、家族の問題に対応することも多くなっています。コース担当教員の個別スーパーヴィジョンおよび、事例研究を通じて綿密な臨床指導を行っています。ヒューマンコミュニティ創生センターとの連携で、ボランティアその他コミュニティ支援に関わる活動も活発で、体験的に感性を育てることができます。また東日本大震災での教員を含む院生たちの心理社会支援は大きな課題となっています。

実習機関として神戸大学附属病院、附属学校のほか、地域の病院、学校、児童養護施設、司法機関などと提携しています。心理教育相談室は外来の相談者が年間のべ1000時間を超えています(2010年度)。大学院生中心の運営は活気があり、その連帯から得るものも多いです。

学生は人間発達論講座心理発達基礎論コースとの連携による研究指導ならびに、同コース院生との交流を通じて、心理学全般に関わる問題について研究を行ない、研究能力を高めることができます。国内外の学会、研究会での発表も活発です。

コース修了者たちは各県のスクールカウンセラー、病院の心理士、家庭裁判所調査官、鑑別所技官、少年院の法務教官、企業の産業カウンセラー、自治体の心理職(心理判定員、心理指導員)、児童養護施設心理職員、学生相談室カウンセラーなど多方面で活躍しています。



大学院生からのメッセージ



臨床心理学の理論と実践の両輪において、広く深く学んでいく。

徳永 晴美 さん(前期課程2年生)

私は他大学の学部で心理学を学んでいましたが、その過程で臨床心理士の仕事に興味を抱き、本研究科に進学しました。こちらに来て、深い洞察と経験をお持ちの先生方、身をもって目指すべき姿を示してくださる先輩方、同じ目標を持ち切磋琢磨し合うことのできる仲間にも恵まれました。授業の内容はとても充実しており、臨床心理学の理論をより専門的に学べるだけでなく、自分の研究分野に関してもじっくり取り組むことができます。また、院生が主体となる「心理教育相談室」の運営や各機関で行われる実習など、実践の場を通して学ぶ機会が多いことも、本コースの大きな魅力です。授業や実習を通して、理論と実践の両輪で自らの考えを深め、学びを広げていくことは、臨床心理士を目指す上でとても有意義なものであることを実感しています。今は、臨床心理士への第一歩を踏み出す基礎づくりの真ただ中。忙しいながらも充実した日々を過ごしています。

スタッフと研究分野・研究テーマ

①前期課程・後期課程担当(無印は前期課程のみ)

相澤 直樹 准教授	伊藤 俊樹 准教授 ^①	河崎 佳子 教授 ^①	森岡 正芳 教授 ^①	吉田 圭吾 教授 ^①
臨床心理学, 臨床心理検査(投影法)	臨床心理学	臨床心理学, 発達臨床心理学	臨床心理学, 文化心理学, カウンセリング	臨床心理学
青年期における自己愛的傾向と対人恐怖の傾向に関する調査研究を行っています。ロールシャッハ検査法を中心とする心理検査(投影法)について実践的に研究しています。	芸術療法や心理療法におけるクライエントのイメージの変化、および、ロールシャッハテストを用いた芸術家の創造性について研究を行っています。	聴覚障害児の心理発達と家族支援について研究してきました。近年は、虐待児童への心理的ケアについて乳児院・児童養護施設を舞台に取り組んでいます。	ナラティブアプローチによる治療的意味生成に関する研究。対話関係の中で自己が積極的に構成されるプロセスを質的研究の方法を用いて分析しています。	幼小中高大を中心とした教育現場における教育相談の理論と実際、保護者面接の在り方、発達障害や精神障害を抱える人へのアプローチ方法について研究しています。



主な授業科目

②後期課程開講科目

- 心理療法特論Ⅰ
- 臨床人間関係学特論Ⅰ
- 臨床心理学特論Ⅰ
- 芸術療法特論Ⅰ
- 臨床心理検査特論
- 臨床心理実習Ⅰ
- 精神医学特論
- 教育臨床特論
- イメージ臨床特論
- 心理療法特論Ⅱ^②
- 臨床人間関係学特論Ⅱ^②
- 臨床心理学特論Ⅱ^②
- 芸術療法特論Ⅱ^②
- 臨床心理実習Ⅱ^②

主な学位論文テーマ

③は博士学位論文
過去2年分より抜粋

- ・育児休業を取得した男性と配偶者の語り—夫婦関係に焦点を当てて—
- ・風景構成法における「表現」についての研究—語りと構成の観点から—
- ・特別支援教育における協働者としての保護者の可能性
- ・婚約から結婚までの心理的変化とそこから脱却のプロセスについて
- ・児童養護施設入所児の生活と発達—他者との関わりからの観点から—
- ・青年の攻撃性と認知的複雑性、及び原因帰属に関する研究
- ・幼児期における「心の理論」と言語的理由づけの発達
- ・高機能広汎性発達障害児・者をもつ母親の心理的適応過程に関する研究^④

研究最前線 河崎 佳子 教授(臨床心理学,発達臨床心理学)

「心の風景」を求めて—聴覚障害児、被虐待児への心的支援の実践的研究

私の主要な研究領域は、「聴覚障害者に対する臨床心理学的支援」です。心理療法の対象にはきこえない人たちが存在することに気づき、手話を習い始めのがきっかけでした。手話に関する言語学的研究や、手話を母語とする人々の文化などについて学びながら、「目から鱗」の体験をとおり、心理臨床家としては、きこえない子どもたちから手話を奪ってきた口話主義教育の歴史と当時の状況に強い疑問を抱きました。そして、彼らの「心の風景」を知りたいと思ったのです。今から20年余り前のことです。

こうしたことは心理臨床においては前人未踏の領域でしたので、福祉施設やろう学校にかかわりながら手ざぐりで活動をつけ、事例研究をとおり、聴覚障害者の心理的健康と発達を支える上で手話環境が保障されることの重要性を報告しました。新生児聴覚スクリーニング検査が日本に導入されてからは、生後すぐに発見されるきこえない赤ちゃんの「親支援」をめぐって、聞き取り調査や相談活動による研究を行ってきました。

最近のテーマとしては、「聴覚障害者の思考様式に関する研究」があります。この分野の研究はこれまで殆ど報告されていませんが、私は心理臨床活動をつづけるなかで、彼らには健聴者とは異なる独自の記憶・思考様式があることに気づきました。それは「映像思考」です。そこに関心を向けはじめ、きこえない人々の訴えや行動の意味が深く理解されるのです。今後は、面接調査による研究を進め、早期支援とろう教育のあり方を改めて見直す契機としたいと考えています。

私にとってもう一つ重要な研究領域は、「児童福祉施設における臨床心理学的支援」です。乳児院・児童養護施設をフィールドに観察研究と事例研究を行ってきました。被虐待体験をもつ乳幼児への心的ケア、乳児院と児童養護施設との連携とリエゾン、子どもたちへのインフォームドコンセントがもつ心理発達の意味をテーマに取り組んでいます。



健康発達論 コース

(後期課程:健康発達論教育研究分野)

Course Keyword (コースキーワード)

- ライフスキル
- ヘルスプロモーション
- 生態学的健康観
- 健康行動
- 食の生理応答
- メンタルヘルス

包括的かつ体系的なヘルスプロモーション研究

ヘルスプロモーションとは、人の健康に関わる環境要因と個人要因への働きかけを意味しています。前者が健康政策を含む「環境づくり」であり、後者が「健康教育」です。そして、私たちスタッフの共通のキーワードが「一次予防」です。健康を損なった人の治療や回復に関係する「二次予防」や「三次予防」はもちろん重要ではありますが、一般的には多くの費用を要し、費用の割には効果もそれほど大きくはありません。また、病気やけがで苦しんでいる間は、QOL(生活の質)も大きく低下します。こうした点を考慮して、私たちスタッフは、そもそも病気やけがをしないようにすること、あるいは現在の健康レベルをさらに高めることを目指す「一次予防」を重視しています。

具体的な研究では、以下の範囲をカバーしています。

- ・心身の健康を支える体や心の仕組み、およびその発達を明らかにすること。
- ・人を取り巻く様々な環境要因が人の健康や発達、あるいは健康に関わる考え方や行動に及ぼす影響とそのプロセスを明らかにすること。
- ・それらの知見に基づいて、具体的なヘルスプロモーションあるいは健康教育プログラムを開発し、その有効性を検証し、広く普及する活動。

このような一連の研究を包括的かつ体系的に推進するため、私たちのコースでは、医学・生理学や心理・行動科学など基礎的研究から健康政策や健康教育学などの実践的研究まで幅広くカバーする一線のスタッフが揃っています。私たちスタッフは、それぞれの専門分野で国際的に通用する活躍をしていますし、国や地方自治体の各種委員会の委員長や委員も数多く務めています。また、ヘルスプロモーションや健康教育関係、あるいは、心理学や生理学関係の学会において、重要な役割を果たしています。私たちのコースは、ヘルスプロモーション研究を推進するうえで、最高の環境にあると自負しています。



大学院生からのメッセージ



自分を再構築! 足と靴の健康教育で社会貢献

上田 恵子 さん(前期課程2年生)

私は足育スタイリストとして、正しい靴の選び方と履き方、正しい姿勢と歩き方の指導を行っています。大学院の進学は、娘の靴選びに悩み、現在の指導教授の講座に参加したことがきっかけです。また、O脚で外反母趾の足を持つ親の度重なる転倒、受講生の足のトラブルの多さから、専門学校で足と靴について学び、欧米の足育を調べるうちに、日本人の足と靴に対する意識が大変遅れていること、それが足(脚)だけでなく、全身に様々な影響を及ぼしていることに危機感を持ちました。大学院では、一次予防を目指した「子どもの足と靴の健康教育」を研究し、社会に貢献したいと考えています。健康発達論コースでは、幅広い分野の先生方から指導を受けることができ、年齢や国籍も様々な仲間と刺激を受けながら、学ぶことに時間を費やせる喜びを日々かみしめています。大学院を目指す人には、自分を再構築すべく、ぜひ挑戦することをおすすめします。

スタッフと研究分野・研究テーマ

① 前期課程・後期課程担当(無印は前期課程のみ)
† 2013年3月31日をもって退職予定

加藤 佳子 准教授	川畑 徹朗 教授 ^①	田中 洋一 教授 ^{①†}	辻本 悟史 准教授 ^①	中村 晴信 准教授 ^①
健康教育, 健康心理学	健康教育, ヘルスプロモーション	健康科学, 生態学	認知神経科学, 健康行動科学	公衆衛生学
心や体の健康に関する人の行動を探り、健康行動の獲得に関連する要因について 解明し、HR-QOLとWell-beingの向上を目指しています。	思春期の様々な危険行動と関連が深いセルフエスティームなどのライフスキルやメディアリテラシーの形成に焦点を当てたプログラムの開発と評価研究を行っています。	足と靴の現状分析と未来像の構想について研究しています。とくに、足と靴のベストマッチな条件や現代必須ギアとしての靴のあり方、および靴を常用した場合の全身的影響等について研究しています。	「こころ」を脳内の物質現象として捉え、心理学と脳神経科学を組み合わせ、心身の健康の維持・増進および発達を追求しています。	生活習慣と疾病予防や健康増進との関係について、疫学調査と実験を組み合わせ、健康問題に関するメカニズムの解明について研究しています。



主な授業科目

② 後期課程開講科目

- 健康教育学特論 I
- 健康教育学特論 II^②
- 健康行動学特論 I
- 健康行動学特論 II^②
- 小児健康発達学特論 I
- 小児健康発達学特論 II^②
- 健康生態学特論 I
- 健康生態学特論 II^②
- 健康増進科学特論 I
- 健康増進科学特論 II^②
- 教育能力養成演習^②

主な学位論文テーマ

③ 博士學位論文
過去2年分より抜粋

- ・ 青少年の医薬品使用に関わる要因
- ・ ネットいじめ防止に有効なアプローチの検討 - いじめ加害防止の観点から -
- ・ 非行少年の再犯にかかわる要因に関する文献研究
- ・ 食に対する態度や行動におけるストレスの影響と関連要因の検討
- ・ 現代の食事パターンがヒトの生理・心理機能に及ぼす影響 - 自律神経機能を中心とした検討から -^③
- ・ ライフスキルとメディアリテラシー形成に焦点を当てた、中学生の性に関する危険行動防止プログラムの開発のための基礎研究^③

研究最前線 加藤 佳子 准教授(健康教育,健康心理学)

理論的な枠組みから 健康行動の実践をとらえる

疾病の一次予防について考えるとき、疾病生成モデルと健康生成モデルという概念があります。疾病生成モデルとは、疾病の機序を明らかにし予防接種などにより疾病を予防しようとする考え方で、疾病の一次予防に大きく貢献してきた概念です。

一方、健康生成モデルとは、アントノフスキーという医療社会学者によって提唱された概念です。健康生成モデルが提唱され支持されている背景として、疾病構造の変化により疾病生成モデルによるとらえ方だけでは、一次予防への取り組みが十分でないことが認識されています。健康生成モデルは、健康と健康破綻を連続的なものとしてとらえ、特にストレスが健康に与える影響について注目した概念です。また、人は健康を生成する内的資源と外的資源を持っていると考えられています。内的資源とは、ストレス状況下においても健康を維持することができる人の心的特徴で、感情を調整する役割があるとされています。健康生成に寄与する外的資源としては、ソーシャルサポートや社会文化的な要因などが見いだされています。私は、食行動などの健康行動が健康生成モデルにおいてどのように位置づけられるか仮説をたて検証することによって、健康増進に有効な要因について検討しています。そして、見いだされた要因が健康教育や健康政策において有効な知見として、活用されることを目指しています。

さらに、社会文化的要因と健康との関連を明らかにし社会的な枠組みが外的資源として人の健康にいかに関与するかについて調査するために、オーストラリアの研究者とも健康生成モデルに基づいた文化比較研究に取り組んでいます。文化比較研究には、いろいろな難しさがあります。その一つが言葉の問題です。何気なく使っている言葉は文化を背負っています。そのため、共通の尺度を作ることは大変困難です。しかし、この難しさに向かい合うことで、自分の国の健康についてより知ることができると思います。



教育・学習専攻

人間形成における教育と学習のあり方を多面的に考究する

専攻の理念

本専攻は、教育・学習という人間形成に関する社会的・個人的営為を教育研究対象とした「教育科学論」「子ども発達論」「発達支援論」の3つの履修コースから構成されています。前期課程においては、各履修コースの専門分野に即した高度な専門的知識及び基礎的な研究能力を持つ高度専門職業人又は市民社会で活躍できる人材の養成、後期課程においては、教育・学習に関する高度な専門的学識及び創造的な研究能力を持つ自立した研究者又は研究能力に加えて確かな教育能力・教育開発能力を備えた大学等の教員の養成を目的としています。



専攻長からのメッセージ

専攻長 稲垣 成哲 教授
(教育科学論コース)

本専攻では、人間形成における教育と学習のあり方を多面的に考究します。履修コースには、教育現象に対して、歴史、制度、行政、教育方法、社会認識、科学教育、美術教育の観点から研究に取り組む「教育科学論」、乳幼児から学齢期の子どもを対象にして、心や身体、言語や文学、音楽、造形表現、数理認識の発達と教育を探求する「子ども発達論」、現代社会における人間形成機能の社会的、教育的な開発支援として、児童発達、継続教育、ジェンダー文化、生涯学習、成人学習の領域から、その理論と実践の融合を研究する「発達支援論」の3つがあります。前期課程では、教育・学習に関する高度な専門的知識を身に付け、人間的で成熟した市民社会の形成過程に主体的に貢献できる人材を養成します。また、「発達支援論」コースには、1年履修コースも併設され、人間の発達とその支援に関する経験と実績を有する社会人を受け入れ、質の高い実践的技能・支援技術、実践的研究のための技法を身に付けた人材を養成します。後期課程では、高度な専門的学識と創造性豊かな優れた研究・開発能力を持ち、独自に新たな知見や価値を創出できる研究者又は大学教員を養成します。

コースと教育研究分野

教育はいかにして可能か?教育現象を探求する高度な専門能力育成

教育科学論 コース

(教育研究分野:教育科学論)

▶ P84



乳幼児から青年期の子どもを対象に、子どもの教育と発達を総合的に学びます

子ども発達論 コース

(教育研究分野:子ども発達論)

▶ P86



現場の実践者と協働した実践的研究を行う

発達支援論 コース

(教育研究分野:発達支援論)

▶ P88



主な進路

2011年度

- ・アシックス
- ・システムディ
- ・聖文館
- ・テレビ新広島
- ・啓明学院中学校・高等学校教員
- ・湖南工業大学(中国)外国語学院職員
- ・神戸龍谷高等学校教員
- ・草津市役所
- ・奈良県教員(小学)
- ・奈良県教員(特別支援)
- ・Teheran-University(イラン)教員(大学)

2010年度

- ・アーサ
- ・神戸ゆかりの美術館
- ・ローソン
- ・NPO法人Welnetさんだ
- ・大阪市職員
- ・三木市職員
- ・近大姫路大学教員
- ・神戸市立雲雀丘中学校教員
- ・神戸市教員(小学)
- ・神戸大学附属中等教育学校教員
- ・神戸大学附属明石幼稚園教員

・富田林市教員(中学)

主な取得可能な資格免許

- ・幼稚園教諭専修免許状
- ・小学校教諭専修免許状

教育科学論 コース

(後期課程:教育科学論教育研究分野)

Course Keyword (コースキーワード)

- 教育史・教育哲学
- 科学教育
- 教育制度・行政
- 社会認識教育
- 教育方法学
- 美術教育

教育はいかにして可能か?教育現象を探求する高度な専門能力育成

私たち教育科学論コースでは、今日の社会が直面するさまざまな教育課題への対応を念頭におき、高度な専門知識・技術をあわせもつ教育現場のリーダーとして貢献できる人材(研究者・教員・教育行政職等)を養成しています。すでに初等・中等教員免許を取得している学生に対しては、学校教育という社会制度をあらためて「教育科学」という視座から考察していく中で、高度な知識と研究スキルを習得させることにより、批判的洞察力・自己内省力・自己開発力を兼ね備え、学校現場において指導的役割を担っていくことのできる教員を養成しています。また同時に、これらの専門能力育成の過程を通じて、理論と実践の両方で教育界に貢献できる研究者や教育関係専門職業者の養成を目指しています。

コースにおける学習・研究では、教育科学研究各領域のアプローチの特性を活かし融合して、高度な専門的知識の深い理解を図るだけでなく、特定の教育問題や教育事象の生起する「場」に具体的に介入しつつ、それらを解読する技能・技法を、演習などを通じて習得していきます。現代教育をめぐる具体的現象と同時に、「いかにして教育は可能か?」という教育の原理的基盤や歴史的構造、あるいは人類史的意義についても理解と考察を深めることによって、より高い水準での現状分析能力および問題解決能力を身につけていきます。



大学院生からのメッセージ



研究や仲間との交流を通じた最高の成長空間

村津 啓太 さん(前期課程2年生)

私は科学教育を専攻しており、小学校理科における学習者の議論能力の育成を目指した授業デザイン研究を行っています。学習者の議論能力に関する英語論文の読解には根気が必要ですが、その内容から大学教授や現場の教師と共に1つの授業を構想する過程は私にとって大変刺激的で、実際に構想した授業が教育現場で有効であった時の達成感は研究の大きな励みとなっています。またコースの魅力的な先輩や同級生の存在も、私の大学院生活を豊かにしている大きな要因です。教育に対して異なるアプローチで研究している仲間と交流する中で、教育に関する知見を多方向に深めることができます。さらに本コースの学生は1つの研究室を共有しているため、研究が行き詰まった時に互いに相談ができ、また励まし合う文化が定着しています。このような居心地の良い人間関係も、私が研究に全力で取り組むことができる大きな理由の1つとなっています。

スタッフと研究分野・研究テーマ

①前期課程・後期課程担当(無印は前期課程のみ)

稲垣 成哲 教授 ① 科学教育 科学教育におけるテクノロジーを利用した学習支援のための理論、方法、評価及び実践デザインについて研究しています。	川地 亜弥子 准教授 教育方法学 子どもの発達を助成する意図的な営みとして教育をとらえ、その効果的なあり方を探究しています。特に子どもの生活と言語表現の指導に注目しています。	白水 浩信 准教授 ① 西洋教育史 西洋を中心とした教育の特殊性、その統治性に関する教育思想研究。教育を規定し、構成してきた身体と精神の關係の歴史人類学的研究を行っています。	勅使河原 君江 講師 美術教育 美術を通じた子どもの発達支援研究をしています。研究テーマは、前衛美術作家集団、具体美術協会が行った子どもの美術教育と対話を基本とした美術鑑賞と制作活動です。	船寄 俊雄 教授 ① 日本教育史、教育学 明治時代以降現在に至る教員の養成史を研究しています。その中でも最も関心をもっているのは、戦前にあった中等教員の国家検定試験(文検)の研究です。
山口 悦司 准教授 ① 科学教育 科学教育研究(Science Education Research)という専門分野です。人々の科学の学習をより有効に支援するための学習環境デザインについて理論的・実践的に研究しています。	山下 晃一 准教授 ① 教育制度論 学校の存立に関する組織・制度論的探究(地域と学校の批判的創造的關係の再構築、校内運営組織の刷新、学校と福祉・司法等機関との連携等)について研究しています。	吉永 潤 准教授 ① 社会認識教育論 社会認識とは何か。それは、つきつめれば、人間がどうすれば共存しうるかという問いへの各自の答えの構築だと考えています。あなたならどう答えますか?	渡部 昭男 教授 ① 教育行政学(地域教育学、特別ニーズ教育) 特別ニーズ児を含む人間発達と地域創造を保障できるような教育行政の在り方、特に住民と身近な基礎自治体(市町村)の可能性を探っています。	

主な授業科目

②後期課程開講科目

- 教育人間学特論Ⅰ
- 教育行政特論Ⅰ
- 教育制度特論Ⅰ
- 日本教育史特論Ⅰ
- 高等教育特論Ⅰ
- 高等教育計画特論Ⅰ
- 教育方法学特論Ⅰ
- 社会認識教育内容特論Ⅰ
- 科学教育カリキュラム特論Ⅰ
- 科学教育原理特論Ⅰ
- 教育人間学特論Ⅱ
- 教育行政特論Ⅱ
- 教育制度特論Ⅱ
- 日本教育史特論Ⅱ
- 高等教育特論Ⅱ
- 高等教育計画特論Ⅱ
- 社会認識教育内容特論Ⅱ
- 科学教育カリキュラム特論Ⅱ
- 科学教育原理特論Ⅱ

主な学位論文テーマ

③は博士学位論文 過去2年より抜粋

- ・高等学校における教員養成プログラムの展開と課題
—「教育」関連コース等の設置と教育実践に着目して—
- ・K.ストライクによる学校改革論の射程と意義
—米国スモールスクールの理論と実践を中心に—
- ・中国農村部における小中学校統廃合の要因と影響に関する実証的研究 —湖南省祁東県を中心に—
- ・コネクショニストモデルを応用した理科の授業研究
- ・能力人間学としての骨相学
—近代教育言説における「能力」のエピステモロジー—

研究最前線 渡部 昭男 教授(教育行政学(地域教育学、特別ニーズ教育))

Right to Developmentを人間と社会の幸福追求から読み解く

かつて、障害の重い子は就学猶予・免除制度が適用されて不就学状態にありました。私は憲法で規定する「教育を受ける権利」が実現できていないのは何故なのかという問題意識から、教育行政学を専攻に選び、権利侵害から権利保障へ転ずる方途の解明にこだわってきました。大学院時代には、戦前の文部行政が切り捨てた子どもたちを福祉領域が引き受けて、保護や教育を試み、戦後の権利保障思想を準備したことを探究しました。

1960年代に入ると、「この子らを世の光に」という言葉で有名な糸賀一雄と田中昌人らによって近江学園・びわこ学園で「発達保障」の実践と研究が進められ、重症児が変容する姿が示されました。そして、「教育を受ける権利」が重症児を含めてあまねく保障され、やがて高等部希望者全員進学さえも達成するに至った過程を、「「特殊教育」行政の実証的研究」(1996年)としてまとめています。転換の背景には、国に法制を整備させ、行政運用を正す権利保障運動があり、これに呼応する形で、「能力に応じて、ひとしく」という憲法条文を「発達に必要な」と読み深める学問上の進展がありました。「発達科学」による成果の一つです。生まれてから亡くなるまでの生涯にわたり、すべての人々の発達保障や幸福実現に資する行政・政策はどうあるべきか……。国家レベルというよりも、権利主体である個人に身近な地域社会や自治体を基軸にして、「産み・育て・養い・教える」という人間形成や地域教育の営みにおいて学校教育をとらえ直す作業を現在進めています。

国際社会は今、Right to Development(発達・発展・開発への権利)を提起できるまでに成熟してきました。平和や環境問題と同様に一国内では完結せず、その具体化には広く世界が地球規模で連帯することが不可欠です。利益優先の開発が個人の発達や地域の発展を侵してきた過ち(公害問題・原発被害など)を繰り返さないよう、Right to Developmentを人間と社会の幸福追求から読み解きたいと思います。



子ども発達論 コース

(後期課程:子ども発達論教育研究分野)

Course Keyword (コースキーワード)

- 子どもの発達
- 乳幼児教育学
- 数理認識
- 幼年音楽
- 運動発達
- 児童文学
- 子どもの表現教育

乳幼児から青年期の子どもを対象に、子どもの教育と発達を総合的に学びます

- ① 子ども発達論コースは、乳幼児から青年期の子どもを対象に、心やからだの発達と教育、言語・音楽・造形表現の発達と教育、数理認識発達と教育に関する専門領域を学び、子どもの教育と発達を総合的に研究します。
- ② 子どもの教育や子どもと関わる仕事を目指す方、子どもの文化に興味のある方、子どもの心やからだの発達と教育の謎に迫りたい方などとともに、子どもを多面的に研究していきます。
- ③ 一方では、「子どもの認識と表現の発達」として、家庭・地域での生活体験や学校教育ともかかわって、言語表現、数理認識、運動発達、音楽表現、造形表現等の領域について研究します。
- ④ 他方では、今日の子ども達がかかえる困難や発達のもつれに焦点をあてて、家庭、地域、学校などでの教育実践や支援のあり方について研究します。



大学院生からのメッセージ



自分自身もっていた「あたりまえ」を見つめなおす

平野 泰亮 さん(前期課程2年生)

私は、「子どもが自分の成長してきた過程を自覚すること」について研究しています。子どもたちが自分を見つめるときに他人と比べるだけでなく、過去の自分と比べて成長してきたことに目を向けることで、これからの自分に期待することができるようになるのではないかと考えています。成長過程の自覚を促すためにはどのような支援が有効なのかについて、「発達」という観点から明らかにしたいと考えています。

本研究科の最大の魅力は、ゼミだけでなく授業でも様々な人々と議論をすることができ、それによって日々多くの見識を得ることができる点です。特に授業では所属しているコースのみならず他コースの人たち、たとえば臨床心理学や数学を専門としている人たちとも、子どもや教育について議論することができ、それまでの自分にはなかった視点に気付かされます。自分がその人たちと出逢う前に抱いていた「あたりまえ」を見つめ直すきっかけを与えてくれます。

スタッフと研究分野・研究テーマ

① 前期課程・後期課程担当(無印は前期課程のみ)

岡部 恭幸 准教授 数理認識論, 数学教育 算数・数学の教材や授業を通して獲得される数理認識の構造や概念形成についての研究とそれに基づく教育内容や方法の開発に取り組んでいます。	北野 幸子 准教授 ① 乳幼児教育学, 保育学 乳幼児(0~8歳くらい)を対象とした、教育内容や方法、保育者の専門性、その確立や向上を図るシステムに関する研究(専門組織の活動や政策)を行っています。	木下 孝司 教授 ① 発達心理学 乳幼児期における自己と「心の理解」の発達を中心に、教示行為の発達と心の理論・実行機能との関連や、障害をもつ乳幼児の自己発達について研究しています。	國土 将平 准教授 ① 身体発達, 保健体育科教育, 健康・スポーツ測定 日本やアジアの子どもの身体発達や健康、体力・運動能力・運動動作の発達を計量的に明らかにし、これらの相互作用を検証するとともに、教育・学習活動、生活環境や生活習慣の影響について研究しています。	五味 克久 教授 ① 幼年音楽, リトミック, 合唱指揮 リトミック及び幼年音楽に関する研究です。どのような課題をどのように指導するか、といった事です。
鈴木 幹雄 教授 ① 図工・美術教育学, 芸術教育に関連した教育学 ヨーロッパの芸術教育学に関心があります。この点で、ナチズム期亡命者達によりアメリカにもたらされたヨーロッパの学問に関心があります。	目黒 強 准教授 児童文学, 国語教育 近代日本における児童文学という文学場の成立過程の検討を中心に、歴史社会的観点から児童文学の研究に取り組んでいます。			

主な授業科目

② 後期課程開講科目

- 乳幼児発達特論Ⅰ
- 乳幼児教育保育特論Ⅰ
- 数理認識発達特論Ⅰ
- 造形表現学習特論Ⅰ
- 幼年音楽表現特論Ⅰ
- 児童造形表現特論Ⅰ
- 児童文学表現特論Ⅰ
- 身体運動発達特論Ⅰ
- 乳幼児発達特論Ⅱ
- 乳幼児教育保育特論Ⅱ
- 造形表現学習特論Ⅱ
- 幼年音楽表現特論Ⅱ
- 身体運動発達特論Ⅱ

主な学位論文テーマ

③ 博士學位論文 過去2年分より抜粋

- ・割合概念の獲得にみられるつまずきとスキーマ形成の関連
- ・時間的広がりをもった感情理解の発達
- ・幼児期の絵における意図の発達—意味づけによる意図の持続の検討—
- ・自閉症の幼児における笑いと発達—通園施設での観察事例の分析—
- ・2歳児における葛藤場面での自己調整の発達
- ・関数描画ソフトを利用した数学教育について
- ・高機能自閉症児の自己認知と自尊心を育む教育的支援—「9,10歳の節」での自己認知の質的变化に着目して—

研究最前線

鈴木 幹雄 教授(図工・美術教育学, 芸術教育に関連した教育学)

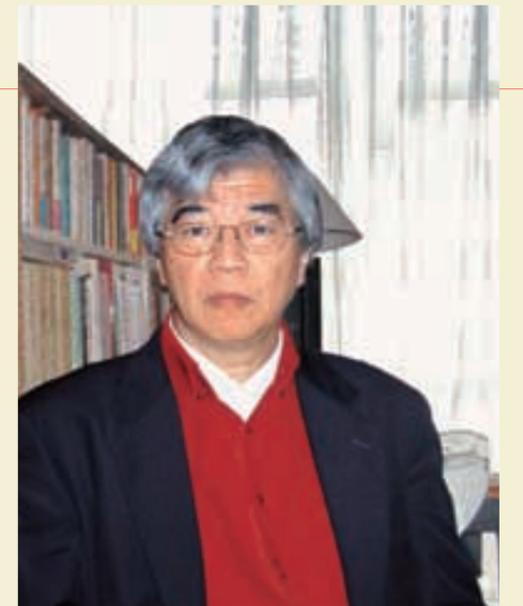
学問成立の背後に目を向ける 学問的エスプリとは人間的まなざしなのです

目下ある書籍に取り組む中で暖めてきた思いがあります。一つは、とくくキー・コンピテンシーを志向する今日の教育状況の中で、子ども達が「思春期」になって心の整理がつかなくなる前に、彼らの「理知」の根元を耕すことが、未来志向だという考えです。

もう一つは、表現教育に関する戦後教育の長い歴史の中で、多くの表現教育教員達の努力によって子ども達の成長と自立への道が多様に拡大されてきた経緯です。同経緯は、今日の一般的表現教育シーンとは異なりますが、モダニズムの洗礼を受けた年長世代の教師達が、近・現代的な表現への愛情と目の前の子ども・若者達への愛情を受け止め、教育の空間を広げてきたという事柄です。

筆者は、改革派芸術学校と同校教師達の芸術教育学を研究してきました。ヨーロッパでは、1920年代モダニズムの精神に支えられた表現教育観が「コンポジション」理論として把握され、また戦後「発想法を育む表現教育」観として受け継がれました。更に60年代には、青少年の探求的プロセスを根付かせる芸術教育学構想として理論化されました。わが国の戦後教育を豊かに切り開いてきた図工・美術の教師達も、同様の遺産を自らの基底として受容し、独自に発展させてきました。

だが残念なことに、例えばレー達の遺産は、「学問的消費」の中で「賞味期限切れ」に転落していきます。しかし私達の研究では、実は上記芸術観は、ヒトラーの政治的支配という受難に耐えて「内的亡命」に逃れた人々によって、またある場合にはナチズムから米国等に逃れた多くの亡命芸術家・知識人達によって、生死をかけて移植・保護された、という国際的学問史が解明されました。ナチズム崩壊後のヨーロッパの廃墟の中で、同遺産は多くの芸術家・知識人達によって蘇生・再興されます。内的・外的亡命に耐えた人々によって、芸術教育学の現代的地平として切り開かれたものが、今日の表現教育の「屋台骨」を支えています。



発達支援論 コース

(後期課程:発達支援論教育研究分野)

Course Keyword (コースキーワード)

- 成人学習
- 子どもと家庭の支援
- 社会的排除
- ジェンダー・イクイティ
- ボランティアリズム
- 持続可能な社会づくり

現場の実践者と協働した実践的研究を行う

発達支援論コースは博士課程前期、後期ともに、現代社会における人間形成機能の社会的、教育的な開発支援を研究対象にしています。具体的には「生涯学習支援」、「ジェンダー文化学習支援」、「成人学習支援」、「児童発達支援」、「継続教育支援」の5つの分野に分かれ、アクション・リサーチを方法論とする実践的な研究を行っています。また本研究科に設置されたヒューマン・コミュニティ創成研究センターの6つの部門研究の内の、「ジェンダー研究・学習支援」、「子ども・家庭支援」、「労働・成人教育支援」、「障害共生支援」、「ボランティア社会・学習支援」の5部門の活動と連動して、ノンフォーマル教育、インフォーマル教育領域での実践的、理論的研究に取り組んでいます。なお発達支援論コースには全国的に見てもユニークな、1年制の履修コースがあります。1年制のこのコースは、主に現職の社会人に向けて開かれたものです。社会人が、豊富な現場経験を基に研究に取り組み実践経験を学問的に仕上げることを通して、再び戻った社会でさらにレベルアップした活動に取り組むことができるようになることを目的としています。また本研究科には、のびやかスペース「あーち」というサテライト施設が付設されており、発達支援論コースの「子ども・家庭支援」と「障害共生支援」の2つの部門による、アクション・リサーチの拠点になっています。このコースは、研究能力に実践能力を併せ持つ支援者として、企業や行政、NPOなど幅広い領域で指導的な役割を果たすことができる、有能な人材の養成を目指しています。



スタッフと研究分野・研究テーマ

①前期課程・後期課程担当(無印は前期課程のみ)

伊藤 篤 教授 ^①	末本 誠 教授 ^①	津田 英二 准教授 ^①	朴木 佳緒留 教授 ^①	松岡 広路 教授 ^①
子ども家庭福祉論	社会教育、成人教育、成人学習論、ライフヒストリー	生涯学習論、障害共生支援論	ジェンダー問題と教育・学習	生涯学習論、福祉教育・ボランティア学習論
地域における子育て支援の質を高めるための支援構造を、家庭のライフサイクル・被支援者のニーズやリスクの水準・支援主体間の協働・センターモデルなどから検討します。	成人が学ぶことにはどのような意味があり、どのような支援が求められているのかを、ライフヒストリーを応用することによって実践的に探究する研究を行っています。	障害に関する社会的課題を切り口として、インクルーシブな社会に向かう人々の学びの方法や過程を追究する実践的研究を行っています。	現代日本のジェンダー問題の特質をとらえ、ジェンダー問題克服のための学習支援のあり方や方策を追究する実践的研究を行っています。	ESD推進の原理・システムを、生涯学習論および福祉教育・ボランティア学習論の観点から考究し、ポスト近代教育の枠組みの構築を目指しています。



主な授業科目

②後期課程開講科目

- 生涯学習支援特論Ⅰ
- 成人学習支援特論Ⅰ
- 継続教育支援特論Ⅰ
- ジェンダー文化学習特論Ⅰ
- 児童発達支援特論Ⅰ
- 子ども・家庭支援論
- 労働・成人教育支援論
- ヘルスプロモーション論
- ボランティア社会・学習支援論
- ジェンダー研究・学習支援論
- 障害共生支援論
- 発達支援技術論
- 生涯学習支援特論Ⅱ^②
- 成人学習支援特論Ⅱ^②
- 継続教育支援特論Ⅱ^②
- ジェンダー文化学習特論Ⅱ^②
- 児童発達支援特論Ⅱ^②

主な学位論文テーマ

③博士學位論文過去2年分より抜粋

- ・障害児の発達を促す環境形成に向けた地域資源の相互連携
- ・子育て支援としての親子リズム教室の意義と可能性
- ・大学を基盤とした福祉教育実践における学習者の変容プロセスに関する一考察
- ・共感的自己肯定感を育むインクルーシブ教育に向けて一特別支援学校における工業高等専門学校と高齢者小規模多機能施設のつながりを通して一
- ・ひとり親家庭の母の自己形成からみる就労支援のあり方一公共職業訓練修了生のライフヒストリー研究一
- ・病院ボランティア活動に内在するインフォーマルな福祉教育に関する研究^④

大学院生からのメッセージ



つながる経験、つながる人、つながる研究

柴川 弘子 さん(前期課程2年生)

私は大学卒業以来、高校教員として総合的な学習の時間や部活動を通じ、高校生と一緒に地域の方や団体と協働した様々な企画作りに関わりました。その経験の中で、青少年の主体形成や社会参画の課題、地域と関わる中で学びの可能性を考え始めました。そして、学校の枠組みから出て新しい視点で青少年の発達支援について研究したいと思い、退職しました。

大学時代の専攻はアメリカ文学で専門が異なる上、長い間仕事中心の生活を送っていましたので、大学院での新たな分野での学問に対する不安もありましたが、先生がたはむしろ多様性や学際性、学生一人ひとりの問題意識や経験を大切に下さいます。また、社会人経験者や留学生など多様な経験を持ち、様々なフィールドで活動をしている学生も多く、意見を交わす事が刺激になります。多彩に展開する授業も、全て自分の研究や経験と繋がります。家庭や仕事を持ちながらの院生生活で大変では、と周囲には言われますが、非常に意味ある挑戦だと日々感じています。

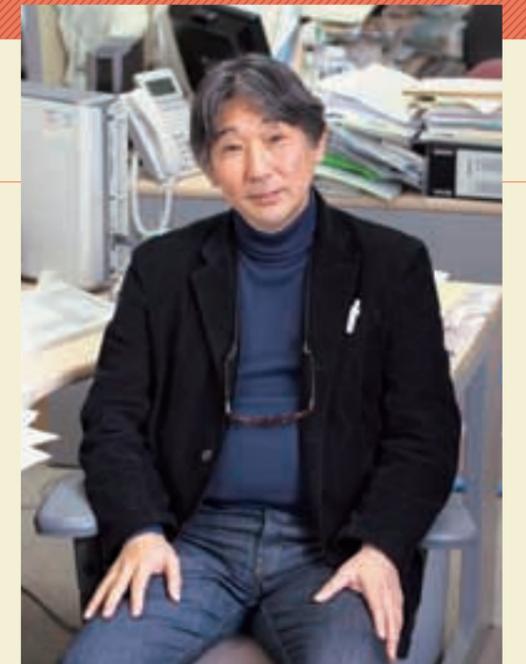
研究最前線 伊藤 篤 教授(子ども家庭福祉論)

「社会全体で子育てを支援する」ためのシステムを構築し、その意義を考察する

子育て支援に先進的に取り組んでいる国々では、保健・医療・福祉・教育などにかかわる専門職やボランティアなどが機能的に協働し、効率的で丁寧な住民へのサービスを提供しています。しかも、これらの支援者が各家庭の身近にある地域拠点(Family Resource CenterやChildren's Centerなどと呼ばれています)にアウトリーチ(常駐している、あるいは定期的な派遣されます)して、多角的にサービスを提供しています。こういった形態を、Integrated Workingと言います。このような連携・協働の大きな特徴は、特別な配慮や支援を必要とする家庭へのサービス(Target支援)が、一般の家庭へのサービス(Universal支援)のなかに有機的に組み込まれている点です。

子育て家庭が安心して多様なサービスや資源をいつでも気軽に利用できる仕組みを「ファミリー・リソース・システム」と考えると、日本はまだその途上にあると言わざるを得ません。近隣にあり利用しやすく、かつ居場所感の持てる拠点で多様なニーズを同時に満たせる「ワン・ストップ・ショップ」の発想も乏しいのが現状です。こういった居場所は、子育て家庭どうしが自由に対等に対峙できる場であり、互いの価値観をぶつけ合いながら学んでいくことを通して、地域に貢献できるメンバーとして成長していく機会を提供する可能性を持った拠点でもあります。

ゼミに集う院生たちは、子どもと家庭を支援する既存の仕組みを、このファミリー・リソース・システムに近づける方法を真剣に考えようとしています。具体的には大学サテライト施設(神戸市指定の「地域子育て支援拠点・ひろば型」のひとつ)において構築を目指しているファミリー・リソース・センターの戦略にも触れながら、自分の研究を通して新たな仕組みの構築に貢献できる人材、そしてそれを自分のキャリアに結びつけていける人材を今後も育成していきたいと考えています。



人間行動専攻

各ライフステージでのアクティブな人間行動を考える

専攻の理念

人間行動専攻では、日常生活行動からレジャー・スポーツにわたる幅広い人間行動の発達と加齢および適応現象について、学際的な観点から教育研究し、前期課程においては、各履修コースに関する高度な専門的知識と基礎的な研究能力および実践力を持つ高度専門職業人として社会で活躍できる人材の養成を目的とし、後期課程においては、人間行動に関する高度な専門的学識及び創造的な研究能力を持つ自立した研究者、または研究能力に加えて確かな教育能力を備えた大学等の教員の養成を目的とします。



専攻長からのメッセージ

専攻長 平川 和文 教授
(身体行動論コース)

人間行動専攻では、活動的なライフスタイルにおける実践について、人間の行動を身体的・心理的・社会的側面から教育研究しています。具体的には、身体的側面からは、身体運動のメカニズムや巧みさの探求、身体活動能力の発達・加齢現象について、心理的側面からは、人間行動の発現・定着・習慣化や加齢による認知機能と行動要因の変化について、社会的側面からは、スポーツ振興とスポーツ文化について研究しています。

本専攻の魅力は、各教員がそれぞれのテーマで精力的に研究しているとともに、それぞれの研究領域がオーバーラップしており、皆さんの研究活動を自然科学から人文社会科学にわたり学際的に多くの指導が受けられることです。人間の行動は決して単一の学問領域だけで捉えることはできません。価値観が多様化し、人間行動が複雑かつ多岐にわたっている現在、学際的な視点での解明は、人間の発達研究に欠かせません。人間行動専攻は、集団指導に対しても積極的です。

コースと教育研究分野

人間の行動・スポーツを科学するチームです!

身体行動論 コース
(教育研究分野: 身体行動論)

▶ P92



行動の発達・適応を多角的に究明する分析力と問題解決能力を磨く

行動発達論 コース
(教育研究分野: 行動発達論)

▶ P94



主な進路

2011年度

- ・ ミズノ
- ・ 神戸大学大学院人間発達環境学研究科(2名)

2010年度

- ・ キョードー関西グループ
- ・ ペトロマテリアル
- ・ MSTコーポレーション
- ・ 福井県教員(高校)
- ・ 神戸大学大学院人間発達環境学研究科(1名)

主な取得可能な資格免許

- ・ 中学校教諭専修免許状(保健体育)
- ・ 高等学校教諭専修免許状(保健体育)



身体行動論 コース

(後期課程:身体行動論教育研究分野)

Course Keyword (コースキーワード)

- バイオメカニクス □ 体力・運動処方科学
- 身体行動の心理 □ 身体行動とスポーツ医学
- 身体行動の社会学 □ 体育・スポーツの歴史

人間の行動・スポーツを科学するチームです!

近年のスポーツ科学の進歩は目覚ましいものがあります。たとえば、水泳競技のスィムスーツが競技成績に大きな影響を与えたことは記憶に新しいですが、そのほかにもラケットやバット、投てきのやりや各種スポーツ用のシューズなど、スポーツ用具やウェアなどの進化の裏には、さまざまなスポーツ科学による成果が存在しています。また、アスリートの心理状態に関する研究や、運動生理学の最新の知見に基づくトレーニング方法の開発などもパフォーマンスの向上に大いに役立っています。本コースの大学院担当教員は身体行動に関する基礎的研究に専念することはもちろん、それらの研究手法を駆使して広く社会に役立つ応用研究にも力を入れています。大学院生には理学療法士やスポーツ・トレーナーなど、すでに社会で活躍している人たちが在学しており、コース内に活気をもたらしてくれています。講義や演習では、学部よりさらに高度で専門的なアプローチを行えるよう、専門知識や解析手法などをしっかりと身につけ、総まとめとなる修士論文や博士論文の作成へと発展させていきます。身体運動のメカニズムや心理的・生理的効果について、運動心理学、身体コンディショニング、スポーツバイオメカニクス、ストレス生理学、身体運動制御論、運動処方論の各面から、また、運動・スポーツの文化・歴史および振興施策について、スポーツ文化史、生涯スポーツ論の各面から学び、身体行動に関する高度な知識と研究手法を修得していきます。身体運動・スポーツ科学分野の研究者養成とともに、体育・スポーツの指導者やスポーツ政策やマネジメントなどの高度専門家としての能力を育成します。



大学院生からのメッセージ



Life is motion! 人間の“行動”を 多角的に探求する

白石 大悟 さん(前期課程2年生)

「生きている」それはすなわち行動していることです。本専攻には、人間の行動を様々な角度から研究されている先生方がおられます。私が専門的に学んでいるのは運動生理学ですが、他にも心理学や社会学の知識も学ぶことができます。授業も受身ではなく、ディスカッションをしたり、自分の興味のあるテーマでプレゼンテーションをしたりと、毎日が学習の宝庫です。人間の“行動”に関するテーマについて様々な視点で学べることは私を大きく成長させてくれます。

人間の様々な“行動”の中で私が興味を持っているのは「人間の巧みな動きの習得」です。自転車にいつでも乗れるのは、子どもの頃に学んだ乗り方を覚えているからです。私はその様な運動の記憶に関して研究を進めています。私たちの周りには不思議なことがたくさんあります。自分が感じた身近な疑問について、専門的に研究できることは大きな喜びであり、毎日充実した日々を仲間とともに過ごしています。

スタッフと研究分野・研究テーマ

① 前期課程・後期課程担当(無印は前期課程のみ)
† 2013年3月31日をもって退職予定

秋元 忍 准教授 ①	河辺 章子 教授 ①	高田 義弘 准教授	高見 和至 准教授 ①	武井 義明 教授 ①
体育・スポーツ史	運動生理学(身体運動制御)	運動生理学(身体コンディショニング)	運動心理学	運動生理学(健康運動生理学)
19世紀末から20世紀初頭の英国を主たる研究対象として、近代社会におけるスポーツ文化の特質を、歴史学の方法により解明します。	随意運動の制御機構を探求し、ヒトの動作の巧みさを探るとともに、巧みな動作の獲得過程を解明し、スキル向上への貢献を目指しています。	競技力向上・障害予防のためのトレーニングと運動による身体コンディショニングやパフォーマンスへの影響についての研究をしています。	現在の研究テーマは、「運動習慣の心理的プロセス」です。人間行動の発現から定着、習慣化を生み出す心理的プロセスを運動行動から解明しています。	運動による身体のストレス状態の生理学的な定量評価、および日常的な身体行動によるストレス状態の軽減に関する研究を行っています。
平川 和文 教授 ①	前田 正登 教授 ①	柳田 泰義 教授 ①†	山口 泰雄 教授 ①	
運動生理学(運動処方論、体力・トレーニング科学)	スポーツ技術論、スポーツバイオメカニクス、スポーツ工学	スポーツ医学、特にスポーツ時における軽度頭頸部外傷	スポーツ社会学、生涯スポーツ論	
子どもの体力向上・動きづくりのための運動プログラムの研究、間欠運動時ハイパワー持続能力向上のための運動処方について研究しています。	運動・スポーツにおける合理的な動作・技術の探究とその習得過程に関する研究、および選手の技術レベルに応じた用具の設計開発のためのスポーツ工学的研究を行います。	スポーツ時における軽度頭頸部外傷、特に軽度脳震盪に関するバイオメカニクス、その予防と安全教育について研究しています。	スポーツの社会学の理論と手法により、スポーツ参与、スポーツ政策、スポーツ・ツーリズム、国際比較研究などに取り組んでいます。	

主な授業科目

① 後期課程開講科目

- 身体運動処方特論 I
- 運動心理学特論 I
- 身体運動制御特論 I
- 身体システム特論 I
- スポーツバイオメカニクス特論 I
- 生涯スポーツ特論 I
- 身体コンディショニング特論 I
- 身体運動障害特論 I
- スポーツ文化史特論 I
- 身体運動処方特論 II ①
- 運動心理学特論 II ①
- 身体運動制御特論 II ①
- 身体システム特論 II ①
- 身体運動技術特論 ①
- 生涯スポーツ特論 II ①
- 身体運動障害特論 II ①
- スポーツ文化史特論 II ①

主な学位論文テーマ

① は博士学位論文
過去2年分より抜粋

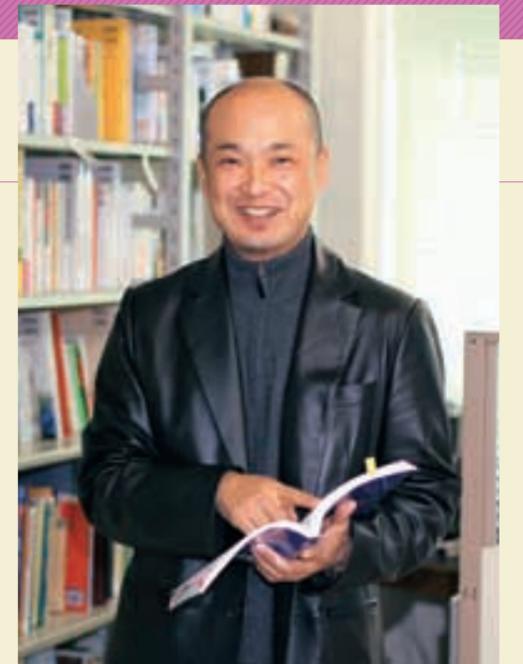
- ・ 頭部位置による四肢の筋力発揮への影響
— 緊張性頸反射による関与の可能性を探る —
- ・ 短距離走スタート局面における加速様式に関する研究
— 出発動作から疾走動作への移行に着目して —
- ・ 球技選手における走方向の素早い変更動作
- ・ 中国における大学運動選手の社会的スキル
— 社会的スキルの獲得に及ぼすスポーツ経験の影響 —
- ・ 競技スポーツ選手における
音楽を用いた心理的コンディショニングづくり

研究最前線 高見 和至 准教授(運動心理学)

人間行動の心理を、 運動・スポーツの現象から解明する

多くの人達が運動やスポーツを行っている。これは様々な人間行動の中でも、身体と心が直接的に交錯し、運動する場所や集団、明確なルール等が存在する特有の社会的環境において展開されるという研究対象としても興味深い特徴を有しています。そこで反対に、運動やスポーツの場で発現される心理を研究することからも、人間行動を理解する知見を得ることができないのではないのでしょうか。

これまで従事してきた研究は、運動による精神的健康増進の実践的指針の提示で、経験的には認められている運動による精神的健康増進を説明するモデルとして、快食快眠快便という基本的な体調改善を媒介とした体調媒介モデルを提唱しています。このモデルは運動やスポーツが精神的健康に寄与するためには、快適な食事、睡眠、排便の感覚が、運動によって改善されていることが重要であるというもので、運動による精神的健康増進のための実践的指針を文字通り簡潔に提示してきました。現在はそれを発展させるために、運動の習慣化に伴う心理的プロセスを実証的に検証する運動習慣強度の概念化と質問紙作成を行っています。本研究では運動が習慣化する心理的プロセスとして、運動の「自動的開始」「内容固定化」「環境刺激動因」「非遂行時の否定的感情」という要因が同定されており、大学生や中高年でも運動の習慣化が進むほど、その運動は意識的な努力なく自然に開始され、個人特有のルーティンを生じ、環境刺激によって強く動機づけられること、また実践できない時には否定的な感情が生起されることが分かってきました。さらに、先の快食快眠快便モデルとの関連では、快食快眠快便に運動が不可欠という認識が強い人ほど、高い習慣強度を有する傾向があることが分かりました。人間は結局、「快食快眠快便を求めて運動している」と言えるのかもしれない。今後も、このような人間行動のシンプルな原理原則を探究していきたいと考えています。



行動発達論 コース

(後期課程:行動発達論教育研究分野)

Course Keyword (コースキーワード)

- 加齢
- 行動発達
- 適応
- 社会科学
- 自然科学
- 学際・統合研究

行動の発達・適応を多角的に究明する分析力と問題解決能力を磨く

高度情報化や少子高齢化における現代社会の課題は、本質的には人間行動の問題であり、これらの課題の解決には、人間行動が年齢とともにどのように発達し、それが社会・環境へどのように適応しているのかの仕組みや原理を理解する必要があります。このコースでは、社会科学及び自然科学の両面から現実のさまざまな人間行動を多角的に捉えるために老年学(ジェロントロジー)・運動老年学・社会学・応用生理学・身体運動科学・行動適応学などの多分野の研究領域を設け、人間行動の加齢に伴う発達や環境への適応に関わる課題を学際的観点からアプローチできる人材を養成します。

行動発達論コースでは、以下に示すような学際的・総合的な4つの具体的な学習目標を設定しています。1)人間の行動を生体メカニズムから社会・文化的行動まで総合的に理解する能力を身につける 2)人間の行動を発達論的観点と社会・文化的観点から分析的に理解する能力を身につける 3)人間の行動を自然科学と社会科学の両面から観察・解明する方法を習得する 4)人間の行動と環境との関係についての理解を深める これらの学習目標を達成するため、身体、心理、社会に関わる発達と適応に関する諸現象を科学的に捉え、各メカニズムを解明するための分析能力を基本として、問題点の抽出と改善策を提案できる総合的な研究能力の習得を目指します。

現代の人間や社会が抱えている多様な課題に情熱を傾けて意欲的に取り組む学生、そして人間行動の発達に関わる未知の分野を積極的、自主的に開拓する研究意欲の旺盛な大学院生を待っています。



大学院生からのメッセージ

多様な分野の人と出会い、新しいアイデアが浮かび上がる

周 欣儀 さん(前期課程2年生)

私は、国立台湾大学の政治学部を卒業して神戸大学に留学しました。今、台湾でも、少子高齢化が進んでいるので、少子高齢化現象がもたらす影響を研究したいと思い、高齢化大国である日本へ来ました。大学を選ぶとき、ジェロントロジー研究室がある人間発達環境学研究科のホームページを見て、すぐに神戸大学に決めました。ジェロントロジーは多分野的、総合的な学問で、人間発達環境学研究科のような総合的な研究科で研究するのが一番ふさわしいと思いました。入学してから、違う分野の授業を受講し、多様な視点から少子高齢化の現象を理解しながら、専攻が違う人と交流し、それまで考えたことない角度から少子高齢化の現象を捉えることができ、新しいアイデアが浮かび上がってきました。ゼミの先生と先輩から様々なサポートとアドバイスをいただいて、心強くなりました。現在は、大学時代の専攻を生かして、ジェロントロジーと政治学を組み合わせ、高齢者の選挙行動に注目し、研究しています。



スタッフと研究分野・研究テーマ

● 前期課程・後期課程担当(無印は前期課程のみ)
† 2013年3月31日をもって退職予定

岡田 修一 教授 [●]	小田 利勝 教授 ^{●†}	近藤 徳彦 教授 [●]	長ヶ原 誠 准教授 [●]	増本 康平 准教授
加齢の身体運動科学	社会学, ジェロントロジー(老年学), 地域研究	応用生理学, 運動生理学, 環境生理学	スポーツプロモーション, 健康行動科学, ジェロントロジー	高齢者心理学, 実験心理学, 認知心理学
高齢者の立位バランス能力の多角的な分析・評価、及びその知見に基づいた転倒予防法の開発と効果判定に関する研究を行っています。	少子高齢・人口減少社会における生涯発達論的観点からのサクセッフル・エイジングの研究とサクセッフル・エイジングを支える諸制度・諸組織の研究を行います。	運動、年齢、性差、日内変動、運動トレーニング、人種差などからヒトの体温調節機能のしくみを統合的な観点から研究し、この機能の魅力にせまれます。	成人・中高齢者を対象とした健康増進やスポーツプロモーションに関する理論・実証的研究と共に、アクションリサーチを通じた事業評価研究を行っています。	豊かな高齢社会を実現するための環境・技術の構築を目指し、加齢による認知機能・行動要因の変化について実験心理学的手法を用いた研究を実施しています。



主な授業科目

● 後期課程開講科目

- ジェロントロジー特論Ⅰ
- スポーツジェロントロジー特論Ⅰ
- 身体機能加齢特論Ⅰ
- 身体機能調節特論Ⅰ
- 行動適応特論Ⅰ
- ジェロントロジー特論Ⅱ[●]
- スポーツジェロントロジー特論Ⅱ[●]
- 身体機能加齢特論Ⅱ[●]
- 身体機能調節特論Ⅱ[●]

主な学位論文テーマ

● は博士学位論文
過去2年分より抜粋

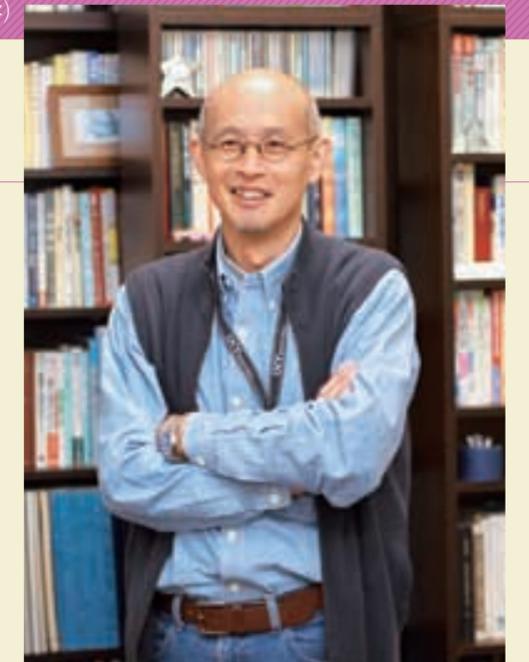
- ・空巢高齢者のサクセッフル・エイジング
- ・運動トレーニングの違いがヒトの熱放散反応に及ぼす影響
- ・成人・中高齢者の主観年齢に影響を及ぼす要因の分析
— 一体年齢とスポーツ活動の関連性に着目して —
- ・四川大地震極重被災地什邡市紅白鎮地域の
高齢者の生活回復過程に関する研究 — 震災3年後調査に基づいて —
- ・人工膝関節置換術施行患者における転倒リスクの経時的・多角的検討
- ・二重課題を伴った高齢者の動的立位姿勢調整能[●]

研究最前線

近藤 徳彦 教授(応用生理学, 運動生理学, 環境生理学)

汗をみるとヒトの特徴や行動能力が分かる

ヒトの身体能力は他の動物と比較して優れているのでしょうか。大きな力を発揮することや短い距離を速く走る能力はゴリラやチータと比較するとそれぞれかなり劣っています。それでは、長時間走る能力、それも暑い環境下ではどうでしょうか。答えは、長時間、マラソンレースなどの速さで走れるのは地球上でヒトのみで、例えば、マラソンレースの速さでイヌが真夏に走ると、15分程度で走れなくなります。さらに、この高い能力によりヒトは暑い中で狩りができ、それにより食料を確実に確保し、現在のような進化を遂げたことを提唱している研究者もいます。これは我々人類が汗という他の動物には類をみない、体外に熱を放散する強力な仕組みを獲得したからで、これはヒトの行動能力を支える大きな特徴だといえます。しかし、ヒトにおいて優れている汗の機能に関しては多くの謎が残され、最近になって様々なことが分りはじめています。例えば、真夏などでかく汗と運動などでかく汗は、汗としてはほぼ同じですが、汗を出す仕組みが両者では違います。夏などの環境温が高い場合には皮膚の温度とからだの内部の温度変化が汗を出すための大きな入力となります。一方、運動をしたときの汗にもこれらの入力は関わっていますが、それ以外の入力も関係し、例えば、筋肉の疲労を感じているセンサー(筋代謝受容器)が運動中の汗を調節していることが分かってきました。ただ、運動時におけるヒトの体温維持にこの入力がどのように貢献しているのかは不明で、さらなる研究が必要です。さらに、このようなヒトの適応能力は、これまでの地球環境変化に対して我々の身体機能を使って適応してきた証でもあります。このようなヒトの特徴である汗に関わる身体機能に関する研究は、我々の進化や行動を知る上でも重要ですし、また、環境への適応と密接に関係しているため地球温暖化の問題とも関連し、今後、注目される分野となるでしょう。



人間表現専攻

独自の「表現学」の構築を目指して

専攻の理念

人間の感性の発現としての表現活動を教育研究対象とし、前期課程においては、制作や演奏、ダンスなどの実践表現を基盤として理論構築を目指すコミュニティアートコースと、その営みによって生み出された様ざまなものを、理論的・歴史的・社会的に研究する表現文化論コースから成り、高度な専門的知識及び基礎的な研究能力を持つ専門職業人又は市民社会で活躍できる人材の養成を目的とします。

後期課程においては、理論的側面と実践的側面の多様な知見を融合させ、表現文化及び芸術表現に関するさらに高度な専門的知識及び創造的な研究能力を持つ自立した研究者又は研究能力に加えて確かな教育開発能力を備えた大学等の教員の養成を目指します。



専攻長からのメッセージ

専攻長 塚脇 淳 教授
(コミュニティアートコース)

私たち人間表現専攻は、人間の「表現」を基本的な人の行為としてとらえ、できるだけオープンな視点からそれにアプローチする場でありたいと考えています。そのため、音楽や造形芸術といった芸術表現の視点、デザインや建築やファッションやメディアや都市文化といった社会や生活に関わる視点、音楽療法や感性心理学のような応用的視点など、複眼的な視点からのアプローチを可能にし協働させようとしています。私たちが目指すのは、これまで音楽大学、美術大学、文系研究科などに分散されてきた教育研究を、「人間表現」という概念をキーに統合した、独自の「表現学」の構築です。これを通して、自らの内面に対しては表現文化の過去・現在・未来に対する深い認識と表現行為の実践力を、他者や社会に対しては表現の意味や価値そして芸術的行為の重要性を、生き生きと影響力をもって訴えることのできる力を、ともに培っていきたいと思います。そこから、表現と生活をつなぐ新しい研究者やアーティストが生まれることを願っています。

コースと教育研究分野

文化としての表現を、多面的に深く追究する

表現文化論 コース
(教育研究分野：表現文化論)

▶ P98



芸術と生活と人生を新たな視点で統合することを目指します

コミュニティアート コース
(教育研究分野：表現創造論)

▶ P100



主な進路

2011年度

- ・ケセラセラ
- ・スガミ楽器
- ・ゼニス
- ・三菱電機
- ・公益社団法人日本麻酔科学会
- ・社会福祉法人わたぼうしの会
- ・奈良市職員
- ・大阪音楽大学教員(大学)

- ・甲子園短期大学教員(短大)
- ・京都大学大学院農学研究科

2010年度

- ・樹光会大村病院
- ・大阪センチュリー交響楽団
- ・社会福祉法人京都ライフサポート協会

主な取得可能な資格免許

- ・中学校教諭専修免許状(音楽, 美術)
- ・高等学校教諭専修免許状(音楽, 美術)



表現文化論 コース

(後期課程:表現文化論教育研究分野)

Course Keyword (コースキーワード)

- メディア
- 感性
- 建築
- デザイン
- 音楽
- ファッション

文化としての表現を、多面的に深く追究する

私たちは小さい頃から自分らしくあれと言われて続けてきました。表現についても同様です。個性的であること、オリジナルであることが賞揚されてきました。しかし、ほんとうでしょうか? いったい個性やオリジナルとは何でしょうか。そもそも、そうした言説はどのようにして成立したのでしょうか。表現文化論研究は、まず、表現を疑うところから始まります。表現に限りない関心をもつからこそ、疑うのです。

表現文化論コースは、表現を、人間が意識するとしなやかに関わらず生み出してきた文化として捉え、歴史的・社会的に探求します。人間ひとりひとりの想像力は、残念ながら身の丈を超えることはできません。しかし、そうした人間が集まった社会では、想像を絶することが起こり得ます。そして、その社会がまた次の時代の個性に影響を与えます。これまで素直に好きでいられた表現の世界にちょっとした疑念が生じたとき、そのときこそが、さらなる探求への出発点です。文献調査や、実験、フィールドワークに実際の表現活動といった様々な研究へのアプローチの中で、表現文化の過去・現在・未来に対する深い認識と柔軟で創造的な構想力を養い、さらに、その認識と構想を他者に向かって分かりやすく説得的に伝えることのできる論理的な表現力を涵養します。官公庁や民間企業・組織の専門職、研究者、学芸員、アートマネージャー、ステージマネージャー、編集者、ジャーナリスト、ライターなど、これからの成熟社会において表現文化の諸領域で活躍が期待される人材を養成します。



大学院生からのメッセージ



まだ手の付けられていない テーマに取り組む、やりがいと面白み

植田 有佳 さん(前期課程2年生)

アメリカのファッションブランドであり、日本でも人気のあるラルフ・ローレンをご存知の方は多いのではないのでしょうか。私は現在、このブランドのアメリカにおける成立と展開について、ファッション文化論の視点から研究しています。「トラディショナル」なイメージを一貫して消費者に訴求することで、企業として大きな成功を取ったラルフ・ローレンですが、ファッション史においては必ずしも注目されてきたわけではありません。そこで、今まで明らかにされていない事実を自分の手で少しずつ解明し、文化研究として展開させることがこの研究の目的です。調査・研究には時間と根気が必要ですが、その進捗には大きなやりがいを感じています。

本コースには、ファッション文化論のほかにもさまざまな表現文化分野の先生方がおられるため、自分の研究テーマについて意外な視座を得られることがよくあります。また、少人数のゼミと丁寧な指導も、このコースの大きな魅力です。

スタッフと研究分野・研究テーマ

③ 前期課程・後期課程担当(無印は前期課程のみ)
† 2013年3月31日をもって退職予定

梅宮 弘光 教授 近代建築史 近代建築の歴史・都市環境形成史が専門です。前者では建築におけるモダニズム思想の生成と変容、後者ではとくに戦後神戸の都市環境形成史を研究の柱としています。	大田 美佐子 准教授 西洋音楽史, 音楽美学 両大戦間の音楽文化の諸相(音楽・音楽劇に表象された芸術思潮や時代精神、伝統の継承やその展開(受容)の問題)について研究しています。	小高 直樹 教授 感性科学, 図形科学 芸術などの創造的表現における、あいまいで、主観的、多義的、状況依存的な感性情報を抽出し、工学的に取り扱うことができる論理情報に置換する方法を模索しています。	田畑 暁生 准教授 社会情報学, 映像論 情報社会に関する理論的・実践的な諸問題を扱います。具体的には、情報社会論の思想的系譜や、映像の内容分析、地域情報化政策の影響などを扱います。	中山 修一 教授 [†] デザイン史 19世紀から現代に至る英国のデザインに関する研究。とりわけ現在は、陶芸家富本憲吉のウィリアム・モリスの受容過程について研究を進めています。
--	---	---	--	--

平芳 裕子 准教授 ファッション文化論, 表象文化論 西洋近現代における「ファッションと女性」との関わりを、雑誌や絵画などのメディアを中心とするイメージ・言説の分析を通して考察しています。



主な授業科目

③ 後期課程開講科目

- デザイン史特論Ⅰ
- 図形科学特論Ⅰ
- 建築文化史特論Ⅰ
- メディア情報社会特論Ⅰ
- ファッション文化特論
- 音楽民俗学特論
- 音楽史特論Ⅰ
- デザイン史特論Ⅱ
- 図形科学特論Ⅱ
- 建築文化史特論Ⅱ
- メディア情報社会特論Ⅱ

主な学位論文テーマ

③ 博士學位論文
過去2年分より抜粋

- ・神戸市の戦災復興過程における都市環境の変容に関する研究
- ・パリ島の民族芸能「ジエゴグ」に関する研究
- ・音楽と視覚芸術の交感 - エリック・サティとダダイズム -
- ・中国の画報『良友』(1926-1945年)のタバコと化粧品広告に見られる女たち
- ・日本のオーケストラにおける価値の戦略的再創造
～日米芸術環境比較とオーケストラのマーケティングに関して～
- ・ボールルームダンスの魅力に関する研究
～踊り手の属性との関連を軸にして～

研究最前線 大田 美佐子 准教授(西洋音楽史, 音楽美学)

「聴くこと」の大切さ — 耳を傾けて、歴史とつながる

「音楽は見えない」。音は「見えない」けれど、何世紀も前の音楽から私たちはメッセージを受け取り、その時代の思考を聴き、時代の空気を感じとっています。音楽学という学問の根底に、目に見えないもの、時とともに移ろいゆくものに耳を傾け、それを言葉で伝えるというシンプルな使命を感じています。

現在は、卒業論文から20年以上つきあってきたクルト・ヴァイルという作曲家に改めて向き合い、彼の音楽と社会との関わりをまとめています。舞台芸術もグローバルな時代を迎え、さまざまな解釈が、過去の歴史から現代の問題意識を照射しています。2011年秋にボッフム、ミュンヘン、ケルンの三都市で観た、演出コンセプトが異なる三つの《三文オペラ》は、まさにヴァイルとプレヒトによるひとつの作品から開かれる無限の世界を示していました。混迷を深める現代に、語りつくされることのない懐の深さを示した、この作品の謎めいた魅力を伝えたいと思います。

ふたつめのテーマは、第二次世界大戦までのキャバレーと音楽家たちについての研究です。キャバレーはドイツ語で「Kleinkunst(小さな芸術の意、転じて演芸)」に分類されますが、その芸術が孕む精神性には深みがあります。キャバレーの音楽に特有の、表向きに軽妙さとは裏腹の毒のある風刺や鋭い観察眼は、音楽の表現がもつ新たな可能性を示唆しています。作品という枠組みを中心とした、これまでの音楽史記述のあり方自体を違う角度から問う作業になると思います。

「3.11」後に創刊された音楽雑誌や「アートと戦争」をテーマに開かれたシンポジウムでも、「大災害や戦争など社会が危機的な状況に陥ったときこそ、表現の真価が問われる」という指摘がありました。それは、とりもなおさず「耳を傾ける」側にも、音楽と向き合う真摯さが求められていることだと思いました。オリジナルの根底にある問題性と、現代に照射される問題意識の温度差、その歴史の多層性とメッセージを読み解き、音楽の「リアル」な本質を伝えていきたいと思っています。



コミュニティアート コース

(後期課程:表現創造論教育研究分野)

Course Keyword (コースキーワード)

- 創作行為
- 作品研究
- 表現技法
- コンテンポラリー
- インターフェイス
- アウトリーチ

芸術と生活と人生を新たな視点で統合することを目指します

描く、作る、歌う、演じる、このような人間の表現行為は、従来、言葉を超えた存在とされており、それゆえそこに内在する思想や哲学、創造性に焦点を当てて研究することは困難が伴いました。しかし、これら創造の、捉えがたい実態とその根幹を明らかにすることこそ、限りある生命を継承発展させてゆく精神文化を興隆することにつながるのではないのでしょうか。

絵画や彫刻の制作、作曲や演奏、そして舞踊や身体表現など、自らも表現者として豊かな実践経験を持つ教員によって構成されるコミュニティアートコースは、その確かな実践理論の上立って、敢えてこの困難な課題に挑戦し、独自の表現学の構築を目指します。実践行為の探究による表現学の構築と、実践論を社会に作用・展開させる方法論の開拓、これは他大学・研究機関にはない神戸大学独自の研究分野といえるでしょう。

また一方、現代社会において芸術的行為は、いわゆるハイアートのみならず、生涯教育、パブリックアート、療法などの分野で発展しており、クオリティ・オブ・ライフ、いわゆるQOLを重視する福祉社会が実現するにつれ、それらの需要、必要性は高まると考えられます。本コースでは、未だ分野として明確に成り立っていない諸領域を一元的に扱うことにより、将来的な発展を先導します。そして、地域社会において芸術に関わる生涯教育のファシリテーターや指導者の育成、あるいはそれと関係した音楽療法などの実践研究、及びコミュニティアートとしての新しい芸術形態の創造開発を目的とした教育研究を行います。



大学院生からのメッセージ

ちょっと外へ 出かけよう

宮田 晴菜 さん(前期課程2年生)

大学院は学部と比べると授業数そのものは少なくなります。その分、私は学内はもちろん学外へも積極的に出かけ、公共施設やギャラリー等のボランティアに参加しています。専門分野の勉強をしていると忘れがちですが、ちょっと外に出てみれば美術鑑賞が好きだという人が少ないことに気づかされます。私は社会と美術の関係について研究しているので、美術にあまり興味がない人と会うのはとても大切なことです。自分と違う興味をもった人たちとの対話では、関心を共有する者同士からは得ることのできない多様な価値観に触れることができます。専門分野から離れてみると、社会と自分の専門分野との関わりを考えるきっかけを得たり、狭くなりがちな視界を広げることができると思います。これから、作品制作を続けると同時に修士論文に取り組もうとしています。こうした多様な出会いは、自分の認識を客観的に確かめるためにとても重要だと感じています。

スタッフと研究分野・研究テーマ

① 前期課程・後期課程担当 (無印は前期課程のみ)

岸本 吉弘 准教授 ①	佐々木 倫子 教授 ①	関 典子 講師	田村 文生 准教授	塚脇 淳 教授 ①
絵画表現	音楽	舞踊学、コンテンポラリーダンスの創作と研究	作曲、編曲、西洋芸術音楽を中心とした作品研究	美術、彫刻
近代以降の絵画表現を造形的な視点より分析し、それらを継承する形で現代性を俯瞰、それらに対称化される「日本」という存在を見つめています。	歌曲における朗唱法に関する研究、特に日本歌曲、ロシア歌曲、ドイツリートにおいて「語る」と「うたう」の差異を明確にしつつ表現法を研究しています。	舞踊は有限の身体や動きという儚いものを媒体とする芸術です。その「現在性」にこだわり、表現・研究活動をフィードバックしながら探究しています。	20世紀の西洋音楽を中心とした音楽語法の分析、様々な演奏形態における音楽の新しい表現手法の開拓と創造に取り組んでいます。	私たちは西洋から何を学び何を受け入れ何を自分たちのものとしてきたのか、20世紀美術を代表する作家や表現を様々な角度から考察・検証し、「彫刻」を思考しています。

坂東 肇 教授 ①
器楽(ピアノ、室内楽)

演奏は生命の響きそのものであり、人間のすべてを映し出すものです。人間の個性や人格の発達と、その演奏との相関に興味があり、研究しています。



主な授業科目

② 後期課程開講科目

- 現代彫刻特論
- 音楽創造特論
- 音楽表現特論
- 音楽作品研究特論
- 器楽表現特論
- 舞踊表現特論Ⅰ
- 現代絵画特論Ⅰ
- 音楽史特論Ⅱ ②

主な学位論文テーマ

③ 博士學位論文過去2年分より抜粋

- ・パウル・クレーのポリフォニー絵画における「造形思考」
- ・凶形楽譜を使用した子どもとの創造的音楽活動—音楽療法の視点を通して—
- ・即興演奏の習得に関する研究
- ・音楽療法における母子理論を再考する—ケアの議論を手がかりに—
- ・歌唱伴奏のピアノリズム—合唱におけるピアノ伴奏の検証を通して—
- ・ゲルハルト・リヒターにおける
- ・アブストラクト・ペインティングの変容に関する考察
- ・音楽療法におけるソングライティング—その情動のヴィークルとしての性格をめぐって— ③

研究最前線

岸本 吉弘 准教授(絵画表現)

現代の絵画—抽象表現をとおして追求する絵画の本来像

絵画が宗教や文学から自立し、絵画そのものの姿をあらわにしたのは19世紀後半以降のことで、なかでも20世紀中庸のアメリカ抽象表現主義が大きな変革点になります。絵画とはあくまでもフォーマル主義的な文脈(造形的かつ客観的な思考)から、描かれ、語られるべき内容であるはず、と私は考えています。しかし絵画の現状は、それとはかけ離れ、サブカルチャー・イメージの横行や、嗜好的な趣味として流布しています。その現在に敢えてフォーマルな表現実践と、それに裏打ちされた理論で、挑もうとしているのが私の理念です。

歴史的に絵画は「窓」でした。その窓から見える景色に、物語や宗教や哲学などを描き、情報を伝達してきました。19世紀後半以降の絵画は宗教性から離れ、絵画独自の道を模索します。その結果、絵画は物体である「壁」にまで変化し、挙句は可変性のある「膜」にまで迫り着くのです。私はそれらの歴史観を踏襲した上で、絵画とはひとつの「門:GATE」だと仮定し創作しています。境界であり(場合によっては象徴である)、人を絵の内側に通すことのできる「門」という構造、現在の私の理想とする空間形式がそこにはあるのです。それには絵画として身体を超えた大きなスケールが必須条件となり、人間の身体性などがもつ意味も考慮せねばなりません。

また同時に理論面では、絵画が歴史的に「壁」に至る直前の形式でもあり、抽象表現の究極の様態である<オールオーバー(均質空間)>に注目し、価値を見出しています。そこには絵画の形式的または意味的な「終わり」と「はじまり」が同居しているのです。抽象表現主義の画家ジャクソン・ポロックなどに代表されるオールオーバー絵画が、その後どう継承され、展開を遂げたか?遂げつつあるか?を多角的に検証しています。その究極の絵画は、日本でも独自の日本風土のともいえる展開を見せつつあり、その有様は着目すべき内容だと考えています。



人間環境学専攻

人間発達を支える新たな環境の創造と持続を目指して

専攻の理念

人間の発達を促し、支え、助けるために、どのような環境を、どのように構築し、維持すればよいのか。人間環境学専攻は、この問題の解明に向けた教育と研究に取り組んでいます。博士前期課程が目的とするのは、豊富な専門知識とそれを応用する能力、そして実践行動力を有し、人間環境のいっそうの改善のために活躍できる多様な人材の育成です。博士後期課程は、人間環境に関する高度な専門学識と創造的な研究能力を備える自立した研究者、または研究能力に加えて実践的な教育開発能力をもつ大学教員などの養成を目的としています。



専攻長からのメッセージ

人間環境の探求と発達を促進する環境の開発

専攻長 平山 洋介 教授(生活環境論コース)

人間環境学専攻は、人間の発達を促し、支え、助けるために、どのような環境を、どのように形成し、維持すればよいのか、という問いを立て、その解明に取り組んでいます。この課題に立ち向かうには、多様な分野からのアプローチが必要です。このため、本専攻では、人間環境としての自然を対象とし、その成り立ちを解明しようとする「自然環境論」、数理科学を基礎にして情報環境を研究対象とする「数理情報環境論」、日常生活の状況から環境のあり方を追求する「生活環境論」、社会環境に関する諸矛盾の克服を目指す「社会環境論」という四つの履修コース(前期課程)・教育研究分野(後期課程)を設けています。これに加え、後期課程には、環境先端科学講座があります。前期課程では、専門的な知識に加え、実践的な行動力をもち、政府、自治体、民間企業、NPOなどの多様な領域で活躍できる人材を養成し、後期課程では、高度な専門学識と創造性を備える研究者、大学教員などを養成します。

コースと教育研究分野

自然科学の広い視野を備えて環境の本質をとらえ、課題解決に挑む

自然環境論 コース
(教育研究分野:自然環境論)

▶P104



情報環境に本気で取り組む人のための、数理に根ざした高度の専門性

数理情報環境論 コース
(教育研究分野:数理情報環境論)

▶P106



生活環境の課題を発見し、分析し、解決する能力を持つ人材を養う

生活環境論 コース
(教育研究分野:生活環境論)

▶P108



人間の発達と社会の発展を総合的に捉える新たな学問を創る

社会環境論 コース
(教育研究分野:社会環境論)

▶P110



環境科学の先端を拓く研究機関との連携による教育・研究

環境先端科学(連携)講座

▶P112



主な進路

2011年度

- 旭硝子
- 山陽電気鉄道
- ナガセ医薬品
- パナソニック
- 三菱UFJリサーチ&コンサルティング
- ベニックスソリューション
- 大阪狭山市職員
- 独立行政法人理化学研究所
- 香川誠陵中学校・高等学校
- 兵庫県教員(高校)
- 神戸大学大学院人間発達環境学研究科(3名)

2010年度

- 一方社油脂工業
- オーグス総研
- 社会福祉法人いかり いかり共同作業所
- 神鋼リサーチ
- 住友化学システムサービス
- 住友ゴム工業
- 生活協同組合コープこうべ
- ソニー生命保険
- 太陽化学
- ニトリ
- ピアス

- 富士火災海上保険
- 三ツフロンテック
- ユニクロ
- 楽天
- 気象庁
- 茨木市職員
- 尼崎市教員(高校)
- 京都府教員(高校)
- 宝塚市教員(中学)
- 兵庫県教員(高校)
- 神戸大学大学院人間発達環境学研究科(2名)

主な取得可能な資格免許

- 中学校教諭専修免許状(理科, 数学, 家庭, 社会)
- 高等学校教諭専修免許状(理科, 数学, 家庭, 公民)

自然環境論 コース

(後期課程:自然環境論教育研究分野)

Course Keyword (コースキーワード)

- 物質系
- 生命系
- 高い専門性と総合力
- 自然環境の多角的理解
- 異分野との相互刺激
- 地球表層から宇宙まで

自然科学の広い視野を備えて 環境の本質をとらえ、課題解決に挑む

20世紀の科学は専門化、細分化を推進することによって精緻を極め、大きな発展を遂げてきました。しかしその結果として現代社会が直面したのは、気候変動、生物多様性保全、資源・エネルギー問題など、環境問題を始めとして私たちの生存に関わる複合的な科学的諸課題でした。こうした複雑な課題の解決に取り組み、持続可能な社会の構築へと向かうために、今や旧来の学問の諸分野・領域を超えた総合的な知の在り方や、異なる背景や専門性を持つ人々の連携をコーディネートできるような能力・人材が切実に必要となっています。このような背景を踏まえて、博士課程前期課程の自然環境論コースおよび後期課程の自然環境論分野では、自然環境の成り立ちや、環境と人間の相互作用に関する基礎的研究を行う能力を有し、自然科学的立場から人間環境の具体的諸課題の解決を目指す人材を養成します。そのために、自然環境に関わる物質系、生命系、地球表層から宇宙にいたるまでの幅広く、基礎的な理解を深めるとともに、環境汚染、生物多様性を含む自然環境保全などの人間生活と密接に関係する環境問題に関して深く考究します。カリキュラムには、専門諸領域の多彩な授業科目に加えて、環境科学の大学院レベルの幅広い基礎力を修得する環境基礎物質科学、環境基礎生命科学等の科目群、最新のトピックスを取り上げる自然環境先端科学の科目群の他、サイエンスコミュニケーション演習、インターンシップなどの特徴ある科目が用意されています。これらを基盤として、特別研究や論文作成を通じて研究能力を養います。多様な領域の教員や大学院生の仲間との対話と相互作用の中で、高い専門性と総合力を培い、自然環境の諸課題に挑む意欲ある皆さんを歓迎します。



大学院生からのメッセージ



毎日が新しい挑戦と新しい発見。
世界の先端科学を推し進める存在へ。

六條 宏紀 さん(後期課程3年生)

2011年6月、私たちの研究室は自ら開発した新しい望遠鏡を大気球に載せて打ち上げ、宇宙観測実験をスタートさせました。これまで誰も見た事のなかった宇宙の姿を明らかにする、挑戦的なプロジェクトです。

私は立ち上げ初期段階からこの計画に携わってきました。研究室の教員や仲間たちだけでなく、JAXAや他大学など外部の研究者、企業の技術者とも連携をとり、私たちが目指す理想の観測装置を実現していきました。問題にぶつかっては、解決策を考え、改良を重ねる。この様な経験の中で、新しいものを生み出すことへの興奮と喜びを感じてきました。今、自分たちの手でこの大きなプロジェクトが進んでいくのを日々実感しながら、充実した研究生活を楽んでいます。

研究活動は毎日が挑戦です。そして毎日、新しい出会いと発見があります。私たちの計画はまだ始まったばかりです。次なる新しい発見を目指して、ますます研究に打ち込みたいと思っています。

スタッフと研究分野・研究テーマ

③ 前期課程・後期課程担当(無印は前期課程のみ)
† 2013年3月31日をもって退職予定

青木 茂樹 教授 素粒子・宇宙線物理学 ニュートリノ振動実験や宇宙ガンマ線の観測などの研究をしています。	伊藤 真之 教授 宇宙物理学, 科学教育 人工衛星等によって得られるデータを用いた宇宙の観測的研究や地域社会における市民科学活動支援システムの構築に関する研究をしています。	丑丸 敦史 准教授 植物生態学 送粉者による花形質の進化の解明を目指し、及び送粉ネットワーク構造や水田生態系における希少種(半自然草地の草本、カエル類)の分布特性の解析も行っています。	榎本 平 教授 分子生物学 高増殖性・高重油生産性を有する重油生産菌類Botryococcus brauniiの開発に関する研究や遺伝子クローニング技術の開発を行っています。	江原 靖人 准教授 生物有機化学 遺伝子を構成している核酸塩基を改変した人工核酸を合成し、試験管内高速進化法と組み合わせることにより、がん細胞、ウイルスを標的にした新しい核酸医薬を創製しています。
蛸名 邦禎 教授 環境物理学, 理論生命科学 地球システムと生命システムの時間発展ダイナミクスのモデル化と、それに基づく地球環境理解に取り組んでいます。	大串 健一 准教授 地球環境 地球環境変動のメカニズム解明に向けた古環境研究を行っています。	齊藤 恵逸 教授 分析化学 化学発光・蛍光を用いた物質の分析法、有機試薬を用いたイオン選択性電極の開発、ストレスマーカー測定法の開発に取り組んでいます。	高見 泰興 准教授 進化生態学 生物多様性と進化に関わる性淘汰と種分化のメカニズムについて、野外調査、行動実験、形態解析、DNA解析などを組み合わせて研究しています。	武田 義明 教授 植生学, 植物生態学 生物多様性は、人間の影響による低下だけでなく、逆に放置されることにより、がん細胞、ウイルスを標的にした新しい核酸医薬を創製しています。
寺門 靖高 教授 環境地球化学 河川水、生物が作る鉱物、地殻を構成する岩石・鉱物などの様々な地球表層物質についての元素濃度や同位体組成を用いた地球環境の地球化学的研究を行っています。	中川 和道 教授 放射光物性物理学, 環境物理学 大気環境科学(太陽を光源とした温暖化ガスの検出など)やシンクロトロン放射を用いた生体分子の分光研究(アミノ酸やDNA分子など)について研究しています。			

主な授業科目

③ 後期課程開講科目

- 環境植生学特論Ⅰ
- 植物多様性特論Ⅰ
- 高次生命機能特論Ⅰ
- 環境創成科学特論Ⅰ
- 環境地球化学特論Ⅰ
- 環境地質学特論Ⅰ
- 宇宙環境物理学特論Ⅰ
- 粒子物理学特論Ⅰ
- 紫外線・放射線作用特論Ⅰ
- 自然階層構造特論Ⅰ
- 分析化学特論Ⅰ
- 環境有機化学特論Ⅰ
- 超分子化学特論Ⅰ
- 環境植生学特論Ⅱ
- 植物多様性特論Ⅱ
- 環境地球化学特論Ⅱ
- 環境地質学特論Ⅱ
- 水環境科学特論Ⅱ
- 環境有機化学特論Ⅱ
- 環境遺伝子工学特論Ⅱ
- 分析化学特論Ⅱ
- 高次生命機能特論Ⅱ
- 生体超分子化学特論Ⅱ
- 環境創成科学特論Ⅱ
- 環境物理学特論Ⅱ
- 紫外線・放射線作用特論Ⅱ
- 粒子物理学特論Ⅱ
- 宇宙環境物理学特論Ⅱ

主な学位論文テーマ

③ 博士學位論文過去2年分より抜粋

- ・Rb-Sr法による六甲山地域花崗岩類の詳細な年代測定
- ・「すざく」衛星XISデータを用いた太陽X線アルベドの研究 Ⅲ
- ・エマルジョン望遠鏡による宇宙ガンマ線観測計画:姿勢モニターの開発およびエマルジョンの直線偏光ガンマ線の検出能評価
- ・ルテニウム錯体化学発光法を用いたシステム及び類縁物質定量法の開発
- ・都市化が移動習性の異なる水田性のカエル2種の遺伝構造に与える影響
- ・コンピューターシミュレーションによるポリグルタミンペプチドの特性解析
- ・六方晶窒化ホウ素薄膜における原子状水素の選択的吸着

研究最前線 榎本 平 教授(分子生物学)

緑藻を使って持続可能な循環型エネルギー生産システムを開発する

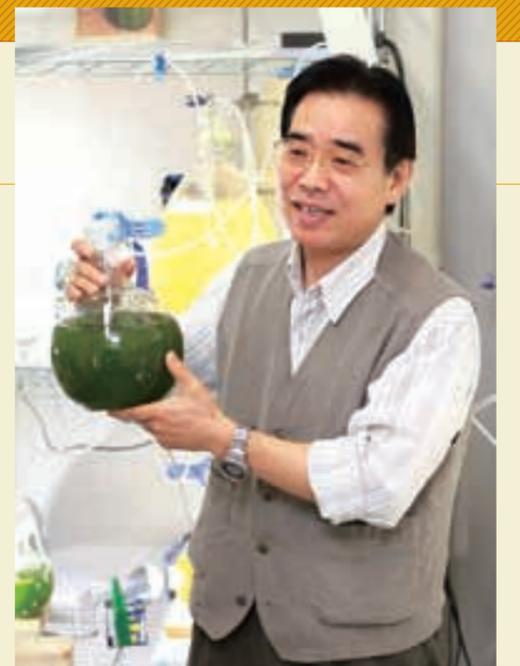
世界中で加速する産業活動に伴い、化石燃料の枯渇が懸念されています。石油に代わるエネルギーとして、太陽光を用いた発電やバイオエタノールなど再生可能エネルギーが注目を集めています。しかしこれらは低い効率、高いコスト、食糧と競合するという問題を抱えています。一方、原子力は福島原発事故に見るように、人類の将来にとっては出来れば避けたい危険なエネルギー源です。

そこで私たちは、光合成によって大気中CO₂から炭化水素(重油)を生産する能力をもつ淡水の藻類「ボトリオコッカスブラウニー(Botryococcus braunii)」に着目し研究をしています。この藻を使って持続可能な完全な循環型エネルギー生産が可能であり、21世紀の人類の未来にとって“夢”のような藻だと言えます。この藻の能力を生かせれば、日本発の地球に優しいエネルギー生産システムを構築できます。

しかし実用化に向けてまだ多くの課題があり、私たちは二つの切り口から問題解決に取り組んでいます。一つ目に私たちは独自の培養方法で改良を重ね、従来のボトリオコッカスの1000倍の増殖力を持つ「榎本藻」を開発しています。この株は世界で最も分裂が速く、重油生産能力も高いため、藻類エネルギーの夢を現実的なものとした最初のプレクスルーです。さらに培養液中の微細環境に注目した研究を行い、野外大量培養に対応できる株や培地の開発を目指しています。

二つ目は、分子生物学的な手法を用いて、この藻類の重油生産機構およびその制御遺伝子の解明へアプローチしています。これが解明できれば、重油生産を自由に制御したり、遺伝子導入により他の生物に重油を生産させることも可能になります。

国際的な競争の激しい分野ですが、世界を変えるアイデアは意外と小さな気づきや基礎的な知識に隠されています。藻ディーゼルが地球を救う、みなさんの若い頭脳とパワーで、一緒に夢を実現しませんか?



数理情報環境論 コース

(後期課程:数理情報環境論教育研究分野)

Course Keyword (コースキーワード)

- 高度化する情報環境
- 知的環境の数理的分析
- 数理学の高い専門性
- 精度の高い問題定式化
- 創造的な情報処理
- 信頼性の高い問題解決法

情報環境に本気で取り組む人のための、 数理に根ざした高度の専門性

いまや私たちの生活はデジタル情報なしには何も動かないと言っていいでしょう(あなたが持っているこのパンフレットも、印刷の直前までデジタル情報だったはずです)。多様化・高度化する情報環境への対応は、現代社会のあらゆる分野で必要性を増しています。そして情報化を推進する中で遭遇する問題に対処できる人材が必要とされています。しかしながら、情報環境のような知的環境では、場当たりの対応はむしろ問題をこじらせることになってしまいます。さまざまなソフトウェアやIT機器を効果的に利用しながら、対象を適切に定式化して問題の解明にあたることが問題の解決に向けての重要な柱であり、さらに数理的手法の利用により、問題の定式化の精度及び解決策の信頼性を高めることが求められます。

本コースでは、このような視点に基づき、数理学に対する高い専門性を身に付け、情報環境の多様化・高度化に対応して情報環境における諸問題に有効な解決策を提供することのできる人材を養成します。上記の目的を意識して、伝統的な数学に根ざしてはいるが、特に情報環境に関わる諸側面の解明に有効と思われる数理学の諸分野を重視した授業科目が設定されています。学生は、これらの授業科目の履修を通して、複雑に入り組んだ情報環境に対処するための高度な数理的理論と手法を身につけます。授業科目の履修と同時に、指導教員との綿密な連携の下で具体的な研究プロジェクトを企画・実施することが要求されます。このプロジェクトを遂行する中で、理論を実際の問題の解決のために活用することを体験し、理論に関する知識を生きた素養へと発展させます。日々進化する情報環境に本気で取り組もうという学生を待っています。



大学院生からのメッセージ



「有限の時間」で「無限の可能性」を 追求・実現できる環境

増井 貴明 さん(前期課程2年生)

私は他大学で純粋数学としての代数学を専攻していましたが、大学院ではこれらの知識を元に、より身近な日々の生活と密接に関わる情報環境における応用数学を研究してみたいと強く考えるようになり、進学する事を決めました。現在は、数式処理の研究として、計算機上で扱える様々な数学的処理(グレブナ基底計算や多項式の因数分解など)を行う為のアルゴリズムやその理論的背景について学んでいます。分野を変えての研究は一筋縄では行かず日々苦戦続きですが、「あ!なるほど!」と一つ納得する度に「もっともっと知りたい!」と気付けば夢に取り組んでいる過程は、数学の無限の奥深さや今後の研究への可能性を感じる瞬間です。今後さらに、限られた学生生活の中で多くの事を吸収し、先生方のきめ細やかなご指導や仲間との意見交換や議論など、互いに切磋琢磨し合える充実した環境のもとで、納得いくまでとことん取り組んでいきたいと考えています。

スタッフと研究分野・研究テーマ

①前期課程・後期課程担当(無印は前期課程のみ)

稲葉 太一 准教授 数理統計学, 応用統計学, データ解析 統計手法は、その適用分野によって異なる側面があります。例えば医学統計の分野では、多重比較法という手法があり、その適用範囲を広げる事を研究しています。	桑村 雅隆 准教授 ① 応用解析学 物理学、化学、生物学などに現れる非線形微分方程式を分岐理論や力学系理論とコンピュータシミュレーションを利用して調べています。	阪本 雄二 准教授 ① 数理統計学 ポアソン過程や拡散過程などの確率過程に関して、その漸近分布論と統計的漸近理論、およびその数理ファイナンス・保険数理への応用の研究を行っています。	高橋 譲嗣 教授 ① 数理論理学 数理的方法全般の数理論理学的手法を用いた理論的考察、及び論証による証明を効率よく理解し、且つ正しく書くために有効な実践的知恵の体系化に取り組んでいます。	高橋 真 教授 ① 情報論理学 無限ブール代数のゲーム論的性質およびモデル検査ツールを用いたシステムの信頼性検証について研究をしています。
長坂 耕作 准教授 ① 計算機代数 数式処理の理論研究(主に数値・数式融合計算)とその効率的な実装方法や情報システム(主に数式処理システム)を活用した他分野への展開について研究しています。	宮田 任寿 教授 ① 幾何学的トポロジー Shape理論(局所的に複雑な図形や空間への幾何学的なアプローチの方法)とそのフラクタル幾何学への応用、様々な次元について研究しています。			



主な授業科目

② 後期課程開講科目

- 統計解析特論
- 統計推測特論
- 情報数理方法特論 I
- 情報論理学特論 I
- 非線形数理特論 I
- 数式処理特論 I
- 応用幾何学特論 I
- 応用統計解析特論 ②
- 非線形数理特論 II
- 情報論理学特論 II
- 情報数理方法特論 II
- 応用幾何学特論 II
- 数式処理特論 II

主な学位論文テーマ

③ 博士學位論文
過去2年分より抜粋

- ・捕食者の休眠を伴うratio-dependentな被食者-捕食者系について
- ・多重比較におけるホルム法およびペリの方法に関する考察
- ・フラクタルと位相次元について
- ・状態空間モデルに対するフィルタリングとその応用
- ・Radon-Nikodymの定理について
- ・共分散構造分析における推定問題とその応用
- ・定常時系列に関する逐次的アルゴリズム
- ・時相論理モデル検査と状態遷移表モデル検査ツールの実装について

研究最前線 稲葉 太一 准教授(数理統計学, 応用統計学, データ解析)

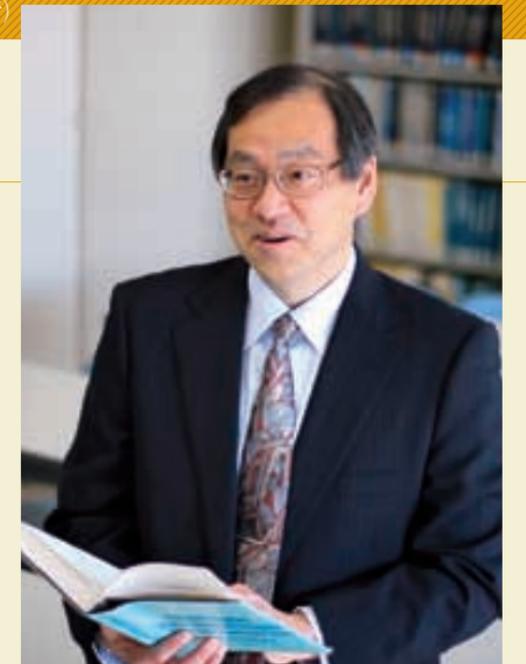
さあ今こそ統計解析を用いて、 問題解決の専門家を目指そう!

昨今の高度情報化社会では、どうしても問題が複雑化します。そこで必要なのは問題解決の方法論と共に、情報をまとめる力です。統計解析は、情報を数値化して分析する効率的な方法論を提供してくれます。もちろん統計解析の手法を取らずに膨大なデータを逐一調べることも重要でしょう。しかし統計解析では、検出力という考え方で、いかに少ないデータ数で多くの結論を合理的に導くかを考えて行きます。

私の最近の興味は、医学統計の分野でよく用いられる「多重比較法」にあります。多重比較法とは、臨床試験の用量設定の段階で必然的に用いられる手法であり、これが無くてはこの世に「新薬」が産まれなれないというほど重要な役割を果たしています。ここで検出力が高いとは、より少ないデータ数で他の手法と同じ意義のある結論を導くことを意味します。つまり臨床試験に関わる人数が最小で済むのです。臨床試験は我々が「新薬」を得るためには避けられない道ですが、このリスクに関わる人を最小限に留めることが、研究の目的となります。

このように大変意義深い「多重比較法」において、通常の検定で行われる「第1種の誤り」の確率に似た、「Type I FWE」という考え方があります。一般的に、多重比較法として認知されるためには、このType I FWEがコントロールされていることが必要です。この「正しい仮説のうち、1つ以上を棄却する確率」を抑えるためには、閉検定手順という方法が提案されています。しかし、検定される対象が複雑に絡んでいるという背景があり、現実に提案されている手法は、必ずしも検出力を最大にするように設計されてはいません。

現在、多群の比較では決定版と言われている「ベリの方法」を研究しています。統計解析は純粋に理論的な研究ですが、改良版が実現すると、リスクが少ない「新薬開発」が可能となり、社会の効率化に貢献することができます。皆さん、一緒に研究しませんか?



生活環境論 コース

(後期課程:生活環境論教育研究分野)

Course Keyword (コースキーワード)

- 生活の質 (QOL)
- 持続可能
- 生活技術
- 安全・安心
- 生活空間
- 生活資源

生活環境の課題を発見し, 分析し, 解決する能力を持つ人材を養う

現代は「流動化」の時代などと呼ばれます。いいかえれば現代とは加速度的に変化し続ける時代でもあります。そこでは日常の生活さえ刻々と姿を変えており、日々新たな課題が生じています。そこで生活環境論コースでは、私たちの生活環境を形成する生活空間・生活技術・生活資源の3領域について、今日的な課題を取り上げ、分析し、問題解決を図ろうとしています。「生活空間」領域では、住居、福祉施設、緑地、都市などの空間の実態を調べ、人間の発達や環境問題の観点から、望ましい生活空間をどのように創造すべきかを追求します。「生活技術」領域では、ハイテク繊維などの機能性製品、生体特性を計測する機器、新しいセンシング技術などが人々の発達をどのように支え、暮らしの環境にどのような変化をもたらしたのか、その実態を把握し、技術利用の方向性を考えます。「生活資源」領域では、生活環境を支える植物・食・エネルギーなどの資源の望ましい生産、加工、利用のあり方など、持続可能な社会を構築するために科学、安全・安心などの観点から遺伝資源、環境・エネルギーを分析します。かくも多面的・総合的な私たちの生活環境を探求するため、本コースでは社会科学、人文科学、自然科学と、文系・理系の両方にわたる研究手法を駆使して問題を分析します。ここで学ぶことにより、皆さんは生活環境の形成に関する課題を発見、分析し、解決する能力を持つこととなります。研究者はもちろん、暮らしに関する政策の立案・運営を担う中央ならびに地方行政セクターのスタッフとして、また生活創造活動につなげる企画・実践力を備える企業活動セクターのキーパーソン、そして地域の生活と環境の課題に取り組むNPO・NGOの担い手などとして、様々な分野での活躍を目指す人々をお待ちしています。



大学院生からのメッセージ



実験研究を軸に学際的視点で 問題解決を図る食環境学

山本 寛子 さん(前期課程2年生)

私は人間の生活要素として不可欠な「食」に対して、「環境」という観点からアプローチしています。具体的には茶園の過剰施肥による地下水汚染問題に取り組み、施肥量の削減が土壌溶液の組成や茶の品質に及ぼす影響を分析化学の手法により明らかにします。試行錯誤を重ねて有効なデータを得た時には、研究成果というだけでなく、社会貢献にも繋がるのではという喜びを感じます。

様々な分野の研究者が集まり、既存の学問領域にとらわれない本研究科では多面的に物事をとらえることの重要性に気付かされます。この食環境学研究室では主に実験により解決を目指していますが、様々な視点から研究の意義や位置づけを見つめ直す機会に恵まれています。

修士生の進路は多岐にわたります。研究仲間とは自分が何をしたいか、何を指すのかに真摯に向き合い、高い目的意識を持って研究生生活を送っていて、その姿が私には刺激となっています。

スタッフと研究分野・研究テーマ

①前期課程・後期課程担当(無印は前期課程のみ)

市橋 秀樹 教授 ^① 植物環境学 植物が生活環境において果たしている多様な働きを定量的評価と、それに基づく植物を利用した快適な生活環境作りについて研究しています。	井上 真理 准教授 ^① 衣環境学, 感性工学 布の風合い(触感)・衣服圧・衣服内気候を、材料特性から実験的、理論的に解析し、着心地の良さをもたらす製品を設計、提案する研究を行っています。	近江戸 伸子 教授 ^① 環境バイオテクノロジー イネ科、マメ科、アブラナ科植物、バイオエネルギー植物を対象にした植物環境学ならびに植物の新機能の開発、器官分化についての細胞・ゲノム・染色体・遺伝子の研究を行っています。	城 仁士 教授 ^① 生活環境心理学 身近な生活環境での人間活動の心理学的解明を行っています。研究者と研究対象者の協同的実践で新たな人間科学的意味の再発見に努めています。	白杉 直子 教授 ^① 食環境学 茶園をフィールドとした農地の多施肥による地下水の窒素汚染低減化、および有機物の塩味増強・抑制効果(ハエ味細胞を用いた電気生理学実験による評価)の研究を行っています。
田畑 智博 講師 環境システム工学 地域、個人等、様々なレベルにおける社会・経済活動とそれが及ぼす環境影響を体系的に解析し、持続可能な社会を構築するための手法論を開発するとともに、実学への展開方法を提案する研究を行っています。	平山 洋介 教授 ^① 生活空間計画 住居からコミュニティ、都市にいたる生活空間をどのように構想すればよいか、という問題を理論と実証の双方から考えています。	福田 博也 准教授 ^① 生体電子計測, ヒューマンエレクトロニクス 温度・湿度・光強度といった環境要因をコントロールした生活空間において、いろいろな環境刺激に対する人や植物の生体電位応答について研究しています。	矢野 澄雄 教授 ^① 振動工学, バイオメカニクス 日常生活動作の力学的な分析や身体機能・特性の計測にを行い、福祉・介護や健康科学関連の機器・用具の開発および経験やノウハウを形にする研究を行っています。	



主な授業科目

②後期課程開講科目

- 生活空間計画特論Ⅰ
- 機械機能応用特論Ⅰ
- 生活環境心理特論Ⅰ
- 植物環境学特論Ⅰ
- 食環境学特論Ⅰ
- 衣環境特論Ⅰ
- 環境バイオテクノロジー特論Ⅰ
- 電子応用機能特論Ⅰ
- 生活環境デザイン特論Ⅰ
- 生活環境共生特論Ⅰ
- 生活空間計画特論Ⅱ^②
- 機械機能応用特論Ⅱ^②
- 生活環境心理特論Ⅱ^②
- 植物環境学特論Ⅱ^②
- 食環境学特論Ⅱ^②
- 衣環境特論Ⅱ^②
- 環境バイオテクノロジー特論Ⅱ^②
- 電子応用機能特論Ⅱ^②

主な学位論文テーマ

③は博士学位論文過去2年分より抜粋

- ・住居材料の触覚・視覚評価
- ・世界遺産と地域空間計画
- ・生活環境におけるエコロジカルマインド評価尺度の開発とその評価
- ・バイオ燃料植物ジャトロファの早期開花遺伝子組換え創出に関する研究
- ・犬の都市空間 - ペット飼育をめぐる分離と共存 -
- ・公営住宅ストック削減計画の研究
- ・歩行分析のための鉛直床反力と3軸加速度の無線計測システムの構築
- ・下肢筋における等尺性筋収縮時の筋出力変動が立位姿勢の安定性に及ぼす影響^③

研究最前線

矢野 澄雄 教授(振動工学, バイオメカニクス)

ひとの体を力学と振動と つながりでとらえ, 測る

私は力学と振動の知識をもとに、生活機器・用具や人間の動的特性を計測する方法を研究しています。例えば、最近では骨粗鬆症や骨の健康がよく話題になりますね。そこで、力学的な発想からヒトの骨の質・強さを簡易評価できないかと考え、振動計測による前腕骨の固有振動数を利用したヤング率相当の強度指標を提案し、20歳~80歳代の女性のデータを蓄積して指標の加齢特性を調べました。コンピュータと測定器の実験室から出て、人のつながりで多くの方の協力を得て進められましたし、骨密度検査や骨折の有無による評価との比較という点で、病院や医学部との共同研究にも発展していきました。さらに、再生医療のテレビ番組を見てから、顕微鏡下で骨細胞に力学刺激を与えることによるカルシウム応答現象とそのメカニズム、骨組織再生能を高める足場など、共同研究でバイオ関連にも取り組んでいました。自分の土俵で相撲をとれない感はあるものの、感動的なマイクロ現象との出会いがありました。

また、テニスラケットや野球バットのようなスポーツ用具について、振動モード解析という機械設計のツールを設計に適用して人間の経験や感覚との対応を考察したり、職人芸で行われてきた加工作業を機械化するために役立てたりしました。いずれの場合も、可能性を探っている段階が一番楽しいものです。

最近是人そのものを対象に、日常生活動作の分析、立位バランス能力と下肢筋力変動との関係、上肢の生理的振戦といった研究をしています。これもやはり力と振動に注目したものです。今後は生体力学的特性やセンサ計測とおして健康や医療につながる科学的根拠になる研究、リハビリや福祉用の機器や用具の開発にも関わっていきたいと思います。自分と異なる専門の電気・情報・バイオメカニクス・人間工学などが、新たな出会いやドイツ留学の経験から、1本につながった形で取り組めれば良いと考えています。



社会環境論 コース

(後期課程:社会環境論教育研究分野)

Course Keyword (コースキーワード)

- グローバル化
- 新自由主義
- 地域社会
- 第三世界
- 文化変容
- 公共性

人間の発達と社会の発展を総合的に捉える新たな学問を創る

私たちの社会は多くの矛盾や問題を抱えたまま、ついここまで来てしまった——いま、私たちは多くの場面でそう痛感してはいないでしょうか。例えば、福島第一原発事故は、電力多消費型の産業構造や都市生活の脆さと、原発さえ「誘致」せざるを得ない地域社会の苦境とをあらわにしました。世界的な経済危機はグローバル資本主義の矛盾を、政治の混迷は現代社会における公正と連帯の空洞化を露呈させています。真っ当に働いて暮らすという希望さえ叶い難く、第三世界の最も貧しい人々が先進諸国の利害に振り回される。まるで私たち人間は自らの社会を制御できないまま、破局へと突き進んでいるかのようです。

しかしその一方で、矛盾に満ちたこの社会を創りかえ、真に「発展develop」させるのも、究極的には一人一人の人間の「発達development」と社会的協働、そしてそれに基づく「類」的發展に他なりません。だとすれば、人類がその生存をかけて、危機に至った自らを問い直し、自己変革=社会変革を進めることこそ、いま最も切迫した課題ではないでしょうか。しかもそのためには、既存の学問領域(政治学、経済学、法学、歴史学、地理学、社会学...)の成果を吸収しつつその殻を破り、人間と社会を統合的に把握しなければなりません。このように、人間発達と社会発展の相互連関を解明すべく総合的な社会把握を追求する新しい学問、それが【社会環境論】です。

もちろん新しい学問の創造というチャレンジは容易ではありません。【社会環境論】はまだ羽ばたこうとする途上にあります。そしてこの新しい学問が大きく羽ばたけるかどうかは、真剣に学ぶ熱意を持った皆さんの参加と協働にかかっているのです。

ぜひこのチャレンジに参加して下さい。私たちスタッフは皆さんとの協働を願ってやみません。



大学院生からのメッセージ

自分を通じて社会を考え、社会に向けて自分を考える

城山 航 さん(前期課程2年生)

「社会環境論コースって何を勉強するの?」私がいつも困ってしまう問いです。所属学生も国籍から年齢、経歴まで様々ですし、一言で「社会環境」といっても範囲は広く、憲法や地方自治など複雑な制度の問題を学ぶ学生もいれば、観光やボランティアなど身近なことを研究する学生もいるのです。私はといえば、E. フロムという人の思想を研究しています。研究では彼の著作に向き合います。彼に限らず深く思考された文章に触れると、わからないなりに何か感じるところがあるものです。演習などで発表や議論を行うと、その「何か」に多様な角度から光が当てられ、それをとらえる言葉が見つかります。自分が何かに触れて、感じたことを考え、言葉にする。それは自分について考えることであり、自分と触れたものと言葉を通じて社会を考えること。自分を通じて社会を考え、社会に向けて自分を考える——社会環境論コースで学べるのは、つまりそういうことなのです。



スタッフと研究分野・研究テーマ

③ 前期課程・後期課程担当(無印は前期課程のみ)
† 2013年3月31日をもって退職予定

浅野 慎一 教授 ^③ 社会文化環境論, 社会学 国境を越えて移動する人々を主な対象として、歴史に翻弄されながらも、自ら主体的に新たな歴史を創り出す諸個人の生活や行為について研究しています。	岩佐 卓也 准教授 社会政策 新自由主義的な制度改革と社会編成が進行するなかで、雇用のルールはどのように変容してきているのか、賃金問題などを焦点に研究しています。	太田 和宏 准教授 ^③ 途上国政治経済 グローバル社会の抱える諸問題を発展途上国に焦点を当てて研究しています。特に開発政策と政治構造のあり方についてを検討しています。	岡田 章宏 教授 ^③ 社会規範論, イギリス統治構造論 近現代におけるイギリス地方自治の形成と展開を検証しながら、この国の特質である住民自治をととして公共性の内実と実現形態を検討しています。	澤 宗則 准教授 ^③ 人文地理学, 地域社会論 グローバル化にともなう地域社会の変容、特に開発途上国インドの農村の変化、先進国の移民社会の形成について、人文地理学の視点から理論的かつ実証的に研究を行います。
橋本 直人 准教授 社会思想, 社会学史 近代の内在的批判を主題として、M. ウェーバーの社会理論の形成過程、またフランクフルト学派とポスト・コロニアル思想との連関を研究しています。	山崎 健 教授 ^③ 都市地理学 日本および中国の大都市・大都市圏の地域空間構造の形成と変容について、地理学的手法を用い、理論的・実証的両側面から考察研究を行っています。	和田 進 教授 ^{③†} 憲法学, 平和論 近代立憲主義と平和主義の緊張関係について、日本国憲法の成立と展開、戦後国際社会の展開(NationStateの展開)を通して研究しています。		

主な授業科目

③ 後期課程開講科目

- 都市地域構造特論 I
- 都市地域構造特論 II ^③
- 農村地域構造特論 I
- 農村地域構造特論 II ^③
- 国際社会構造特論 I
- 国際社会構造特論 II ^③
- 社会変動特論 I
- 社会変動特論 II ^③
- 労働社会史特論
- 憲法秩序特論 I
- 憲法秩序特論 II ^③
- 比較社会規範特論 I
- 比較社会規範特論 II ^③
- 社会環境思想史特論

主な学位論文テーマ

③ は博士学位論文 過去2年分より抜粋

- ・長谷部恭男「穏やかな平和主義」の批判的検討
- ・都市圏多核化による都市内部構造の変化—兵庫県西宮市の事例を中心に—
- ・ハンナ・アレント『人間の条件』再考
- ・異文化間介護にみる人間発達—在日韓国・朝鮮人の高齢者介護を事例に—
- ・現代日本における外国人の子どもの教育を受ける機会の保障に関する研究
- ・中国高齢者の生活と福祉に関する研究—西安市での調査を事例に—
- ・中国二元社会における農村社会保障—農村養老保険制度
- ・中国における都市社会空間構造の変容—単位空間を中心に— ^③

研究最前線

岡田 章宏 教授(社会規範論, イギリス統治構造論)

イギリス地方自治制度の実証的検討から公共性のあるべき姿を探る

私の主な研究対象は、近現代のイギリス地方自治制度です。この国は、ときに「地方自治の母国」と称され、分権化の傾向が伝統的に強いことでよく知られています。そこでは、自治体が住民の意思に基づき豊富な公共サービスを直接提供するという「住民自治」の実態が拡がり、わが国でもあるべき地方自治の姿を示すものとしてしばしば注目されてきました。しかし、そこに現れた制度は、一定の普遍的な理念に基づいて体系的に整備されてきたわけではありません。むしろ、長い歴史のなかで、様々な試行錯誤を重ねながら、古層に新層が折り重なるがごとく、漸次的で連続的な変容を遂げてきた結果とみることで、そのため外部からの観察を難しくしてきました。

私の研究は、こうした特徴をもつイギリスの地方自治を歴史的に捉えようとするものです。近代から現代までの時間軸のなかで、複雑に絡み合った一つひとつの要素を解きほぐし、「住民自治」的と形容される制度がいかんにして形成され、どのようにして公共性を実現するようになったのかを明らかにしようとしているわけです。それは地道な作業の繰り返しですが、今の自分たちに「使える部分」だけを取り出す外国制度の研究方法では見過ごされがちな多様な人間的営為を取り出すことができると考えています。

一見すると先進的な制度であっても、その背後にはたくさんの矛盾が存在しています。しかし、私たちからすれば、そうした矛盾に対峙した人々の苦悩に触れることで、その制度の本当の意味も理解できるでしょう。何より、そのことで、彼の国と、私たちの社会、私たちの時代とをつなぐこともできるのではないかと思います。そして、そうであるならば、その作業を続けていくこともまた、人間の真の発達が何かを探るひとつの手だてになるのではないかと考えています。



環境先端科学(連携)講座

(後期課程のみ)

▶ Course Keyword (コースキーワード)

- 大気環境科学
- 健康工学
- 温室効果ガス
- オゾン・エアロゾル
- バイオセンサ
- 生体ストレス

環境科学の先端を拓く研究機関との連携による教育・研究

人間環境学専攻には、博士課程後期課程の連携講座として「環境先端科学講座」が設置されています。この講座は、体系的教育を行う大学院と環境科学の先端的研究を推進する中核的研究機関の連携を通じて、次代の環境科学を担う人材を養成することを目的とします。現在、大気環境科学、健康工学の2分野について、国立環境研究所、産業技術総合研究所との連携のもとで環境科学の基礎から実践にわたる教育と研究を行っています。具体的研究テーマとしては、大気中のオ

ゾンおよびエアロゾルの生成・消滅に係わる化学過程の研究、温室効果ガス濃度の増加とその変動要因の解明、生体および環境分析への応用につながるマイクロ分析システムの研究開発、ナノバイオテクノロジーを利用したバイオセンサやマイクロ流体デバイスの研究開発と環境汚染や生体ストレス応答モニタリングの実証研究に関する研究などがあります。

スタッフと研究分野・研究テーマ

● 後期課程のみ担当

今村 隆史 教授	永井 秀典 准教授	向井 人史 教授	脇田 慎一 教授
大気化学, 化学反応論, 光化学	マイクロ流体工学	環境化学	環境分析化学, ナノバイオ計測工学
大気中でのオゾンや微小粒子の生成・消滅反応, オゾン層破壊機構, および大気中での化学物質分布やその変化と気候変動の関係について研究しています。	単一細胞から遺伝子を高速に増幅する技術や、イムノアッセイ及び電気泳動等の分析技術をオンチップ化したマイクロ分析システムに関する研究を行っています。	温室効果ガス濃度の増加とその変動要因の解明, 人間活動による環境中の汚染物質等の物質循環や濃度変化の検出, 越境大気汚染に関する科学的知見の集積に関する研究を行っています。	ナノバイオテクノロジーを利用したバイオセンサやマイクロ流体デバイスの研究開発と環境汚染や生体ストレス応答モニタリングの実証研究に関する研究を行っています。

主な授業科目

● 後期課程開講科目

- 大気環境科学特論
- 大気化学特論
- 環境ストレス科学特論
- 生体環境先端計測特論

附属組織と附属施設



ヒューマン・コミュニティ創成研究センター

大学と地域社会の架け橋となり、人間の発達を支援するコミュニティ創成を目指します

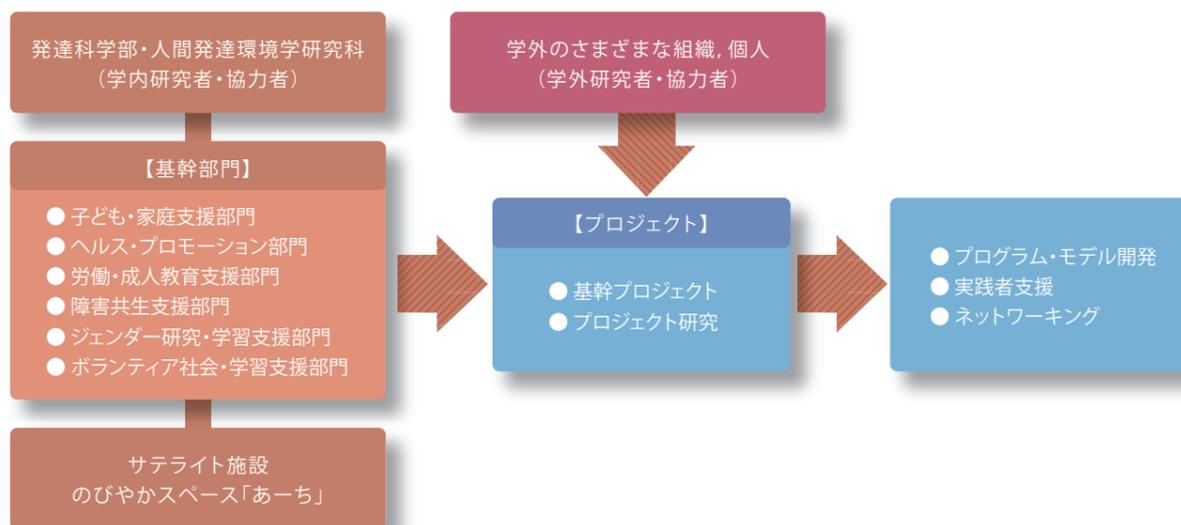
ヒューマン・コミュニティ創成研究センター(以下、HCセンター)とは、人間発達環境学研究科内の発達支援インスティテュートに所属する機関で、実践的な研究を推進するためのセンターです。人間発達環境学研究科・発達科学部で蓄積されてきた研究成果と、地域社会の実践活動とを融合させながら、現場に即した実践的研究活動を行っています。人間の発達とそれを支える活動を行っている地域組織、NPO、NGO、企業、行政、学校等の人々と連携しながら、研究・実践を深め、人間らしさにあふれたコミュニティの創成を目指しています。HCセンターには6つの研究部門があり、6名の専任教員を中心に運営しています。6つの部門ではさまざまなプロジェクト研究が展開されています。各プロジェクトは、リーダーである専任教員と学内研究員および学外の研究員・協力員が担っています。



アクション・リサーチ ～地域や社会への参画を通して研究する

HCセンターの英語名は、「Action Research Center for Human and Community Development」です。アクション・リサーチとは、地域や社会の実践への参画を通じての研究＝「行動を通しての研究」と言える手法です。HCセンターは、このアクション・リサーチの手法により、研究者と実践者のネットワークづくりも進めています。

ヒューマン・コミュニティ創成研究センターの組織と役割



基幹部門

子ども・家庭支援部門

「子育てコミュニティ」の形成を目指します

家庭および家族的機能を有する諸施設の養育活動を支援することを通して、周産期から青年までの子どもとその家族・養育者の発達を促進するための実践的研究を行います。また、「子育てコミュニティ」の形成を目指します。

- 地域リソースとの連携
子育て支援をきっかけにした共生のまちづくりを目指すのびやかスペース「あーち」は学外にあるサテライト施設で、大学と地域を結ぶ架け橋の意味から「あーち」と名付けられました。ここでは地域の様々な組織・機関等と連携して、地域住民に対する多様なレベルの子育て支援サービスを提供しています。
- 地域の人材育成について
小・中・高校生を対象として「赤ちゃんふれあい体験学習」を実施し、次世代を担う子どもたちに「命の尊厳や発達の素晴らしさを実感し、親になることを考える」機会を提供しています。また、各地域で子育て支援にボランティアとしてかかわりたいと希望するシニア世代を対象とした講座、保育士を対象とした講座、専門職やNPOなどの支援者を対象とした講座を開催しています。

労働・成人教育支援部門

人は一生涯学び続ける。成人のための「学びの場」構築を目指します

人は大人になっても成人なりの仕方で成長、発達を続けることが分かってきており、それに対応した学びの場づくりが論議されています。そのような新しい社会の要請に応えて、その必要についての原理を探求しながら現場で求められる成人が学ぶ方法について、実践的な研究をしています。

- ライフストーリーの成人教育への応用
学校型の教育モデルの問題を克服するため、自分の経験を基に自分で気づいたり意味を発見、再構築したりすることを学びとする、新しい考えが生まれています。この概念「ライフストーリー」に基づいた、実践を通じた開発に取り組んでいます。
- 国際的なつながりの中で
近年、世界中で成人教育という未知の領域へのチャレンジが始まっています。ライフストーリーを成人教育に応用する試みとして、先進的な取り組みをしているフランス語圏での活動と連動して、共同の研究会を開催するなどの活動を行っています。

ジェンダー研究・学習支援部門

地域、市民社会と連携してジェンダー問題に取り組みます

市民社会の形成のための支援を行うことが大学の重要な役割の一つであると考えて、ジェンダー問題について、NPOや企業、個人と共同して学習プログラムを開発し、啓蒙活動に取り組んでいます。これを達成するため、地域で活躍・活動している学外の方に部門研究員として多数参加して頂いています。

- セクシュアル・ハラスメント防止のための教師用研修プログラム
「自分のこと」として考えるためのワークショップ型プログラムを開発し、ブックレットを刊行するなど、啓蒙活動に取り組んでいます。
- 市民と行政のパートナーシップの検証
「男女共同参画施策」に関わった市民の活動を、当事者と協働しつつ、行政とともに市民が行う協働とは何かを検証しています。
- 子育て中のお母さんのためのリフレッシュ講座
市民によって行われているワークショップに光を当て、その「市民力」を広げ育てるための取り組みを積極的に支援しています。

ヘルス・プロモーション部門

健康で有意義な人生を送るために必要なライフスキルの育成を目指します

「環境づくり」と「健康教育」について研究を行っています。特に、青少年期に焦点を当てて、喫煙、飲酒、薬物乱用をはじめとする健康を損なう恐れの高い行動(危険行動)を避け、積極的に健康を増進する主体的行動を支援する健康教育プログラムの開発を、教師などの実践者と連携しながら進めています。

- ライフスキル教育プログラムの開発
喫煙、飲酒、薬物乱用、早期の性行動、不必要で危険なダイエットなどの危険行動を防止するために、ライフスキルやメディアリテラシーなどの心理社会的能力の形成を主な内容とするプログラムを開発しています。また、ライフスキル教育を、いじめ防止や非行防止などの問題にも適用する試みにも着手しています。
- ライフスキル教育の普及
開発したプログラムを普及するために教育研究会を組織・運営し、ネットワークを構築するとともに、ライフスキル教育及び健康教育の実践者を対象としたワークショップを、各種団体などと協働して、毎年全国各地で開催しています。

障害共生支援部門

社会的排除のない共生社会を目指すプログラムを開発します

社会的排除のない共生社会とはどのようなものなのか、また、そのような共生社会に少しでも近づくためにはどのような実践が必要なのか、という課題に取り組んでいます。

- のびやかスペース「あーち」
さまざまな人たちの個々の日常的な課題を相互に支えあうインフォーマルな関係の形成過程に着目した研究をしています。
- 「みのり」プロジェクト
障害のある人たちと学生が相互に学びあう実習機会を学内に設け、その参加者の変容過程に着目した研究をしています。
- 「つむぎ」プロジェクト
障害のない子どもたちと障害のある子どもたちが学童保育で共に育つことで形成される共生関係の研究をしています。
- 世界的動向への呼応
障害を社会的排除の問題として捉えようとする世界的動向と呼応して、韓国ナザレ大学と連携しつつ、障害の問題に取り組む新しい実践的研究の分野や方法を模索しています。

ボランティア社会・学習支援部門

人間が主体的に社会にかかわるボランティア社会の創造を目指します

社会参加・参画のひとつの方法としてのボランティア活動を、人間形成・コミュニティ形成および学習の場として考え、そのあり方や支援方法などについて、学外団体と連携しながら実践・検証しています。

- ESDボランティアプログラムの開発
ESD (Education for Sustainable Development) プログラム・モデル開発として、「ESDボランティア塾ばらばん」事業を実施しています。高校生・大学生が主役の事業です。
- 福祉教育実践研究隊の組織化
京都府社会福祉協議会との協働で、「福祉教育実践研究隊」の組織化を行っています。福祉教育の実践現場を訪問し、当事者性を高める実践方法について協議しています。
- ESD推進拠点の創造
国連大学から認証されている「RCE兵庫-神戸」(Regional Centres of Expertise: ESD地域推進拠点)のマネジメントを行っており、ESDの実質化を目的に、セミナーやシンポジウムを企画運営しています。

サテライト施設 のびやかスペース「あーち」

「あーち」は、「子育て支援を契機にした共生のまちづくり」を目的にした施設です。

「あーち」は、子育て支援をきっかけにした共生のまちづくりを目指す施設です。この施設の目的は、地域と大学の連携によって、地域の数あるニーズに自発的に対応することができる地域の活力を向上させていくことです。住民の間に子育て支援を契機としたネットワークの形成を促進し、そのネットワークが相互支援関係を形成するよう働きかけます。この施設は、ヒューマン・コミュニティ創成研究センターの「子ども・家庭支援部門」及び「障害共生部門」が中心になって運営しています。

「あーち」では、遊び、アート、音楽などを通して、子どもを中心にさまざまな人たちが集うプログラムが数多く実施されています。それらのプログラムは、地域の人たちが自発的につくりあげていくものもあれば、学生たちが知恵と力を寄せ集めて実施しているものもあります。日常的な実践を通して、人と人とを結びつけ、新しい価値を創造し、ひとりひとりが人間としての輝きを取り戻すためのコミュニティづくりを目指しているのです。

「あーち」は、人々が相互に関わりあう活動の拠点であり、また学生の教育、実践モデルづくり、実践的研究の現場でもあります。その成果を評価され、1997年「ひょうごユニバーサル社会づくり賞」、2009年に「神戸市民福祉賞」、2010年に「神戸大学学長表彰」をそれぞれ受賞しました。



大学院 人間発達環境学研究科

発達支援インスティテュート

心理教育相談室

現代のようにストレスの多い時代では、何も悩まずに生きていくのは難しいものです。心理教育相談室では、さまざまな悩みを持っている方に、臨床心理学の専門の立場から相談に応じています。子どもの言葉や発達が遅れている、落ち着きがない、友達と遊べない、学校へ行きたがらない、子どもが障害を持っているなど、子どもに関する悩みや、対人関係がうまくいかない、なにもやる気が起こらない、食事がうまくとれない、自分に自信がない、家族や夫婦のことで悩んでいる、自分についてもっと知りたいなどの悩みに対する相談を受けるとともに、カウンセリング、プレイセラピー（遊戯療法）、心理テストなどを通して、援助を行っています。現在、阪神間において、心理相談外来の重要な一拠点として乳幼児から高齢者まで、幅広い層の方々に利用されています。必要に応じて医療機関との連携や他機関への紹介も行っています。

また、この相談室は大学院・臨床心理学コースの臨床心理士養成の実習機関を兼ねています。心の問題が多様化している近年、相談機関や専門家のさらなる質の向上が求められていますが、専門家養成には日々の相談活動の積み重ねが不可欠です。今後も地域社会の人々に気軽に安心して利用していただける相談室であるよう、臨床心理士の資格をもつ教員と、教員の指導のもと臨床心理学を専攻する大学院生が実践・研究両面にわたり研鑽を重ねています。



大学院 人間発達環境学研究科

発達支援インスティテュート

サイエンスショップ

「サイエンスショップ」とは、市民社会の科学技術に関わる課題について、大学やNPOなど専門的知識をもつ機関が、市民の相談を受けて必要な情報を提供したり、調査・研究の実施または支援をしたりする組織のことで、1970年代にオランダで誕生しました。

現代社会は高度科学技術社会あるいは知識基盤社会などよばれ、環境、医療、安全などの課題を解決しようとするとき、科学技術等に関わるさまざまな知識が必要となります。しかしその一方で、科学技術の高度化・専門化が進み、理解が難しくなり、疎遠なものと感じる人も多いことでしょう。神戸大学のサイエンスショップは、こうした背景をふまえて2007年に創設されました。

神戸は大都市であるとともに、六甲山・大阪湾など自然環境にも恵まれています。また、阪神淡路大震災を契機として多様な市民活動が芽生え成長してきた地域でもあります。このような神戸の特徴を活かして、ヨーロッパに生まれ育ったサイエンスショップを参考にしつつも、地域社会や日本の文化的風土に融和した独自のあり方、「神戸型サイエンスショップ」を創造することを目指しています。地域社会における広い意味の科学教育や、文化としての科学を地域に根づかせ、「持続可能な社会づくり」を目指して、コミュニティを豊かにしていくような科学のあり方を探ってゆきます。



主な取り組みとして、以下のような活動を進めています。

- サイエンスカフェの開催と支援
サイエンスカフェは、科学者などの専門家と一般の市民が飲み物を片手に気軽に科学などの話題について自由に語り合うコミュニケーションの場です。神戸地域でのサイエンスカフェの開催の他、西宮、姫路、伊丹、淡路、三田、豊岡、篠山、明石などさまざまな地域で、市民グループなどのサイエンスカフェの企画・運営などを支援しています。
- 市民のさまざまな科学活動の支援
小・中学生から成人まで、余暇を使って科学の研究や学びを楽しみたいという人々の活動を支援するとともに、活動紹介や交流の場を提供します。
- 高等学校等と連携した科学教育の普及・活性化支援
学校での課題研究を含む教育プログラムへの支援などを行っています。
- 神戸大学学生の科学に関わる諸活動の支援
上記のさまざまな取り組みへの参加や、主体的研究活動などを含めて、学生が企画・実施する諸活動を支援し、そのための環境を提供しています。これらを通じて、学生のみなさんの課題を発見・解決する能力、コミュニケーション能力、プロジェクトを企画・運営・実施する能力などを高めることも目指します。



キャリア形成支援

未来への一步を発達科学部から

発達科学部では「発達 (development)」「異なるものの包容」「持続可能」という言葉をよく考えますが、単に問題を解決し発展を遂げることを目標にするのではなく、課題や問題を解決することで持続的な環境を目指すことが、「ハタツ的」考えです。

発達科学部のキャリア支援は、就職活動支援ではありません。就職活動をして、どこかの企業や組織から内定や合格を得ることをゴールにしても、未来への一步を踏み出すことにはなりません。ゴールの先を考えることがなければ、自分の未来を切り開くことはできないからです。私たちは、一人ひとりの生き方、生きる方向性を考え、行動することをキャリア形成と捉えています。何が起きるか分からない、また何が起きてもおかしくない現代の社会では、生涯において確実に安心できる道を見つけることが難しくなっています。これからの社会で生きていくためには、自分がどう生きたいかについて立ち止まって考えることが重要です。そして、色々な体験を自分自身の経験として意味付け、目の前に広がる未来へのアプローチを考えること、考え抜いた一步を踏み出す勇気、それらが自分自身のキャリアを形成していくこととなります。

発達科学部では、今の自分と未来との間に発達科学部での経験を位置付け、さまざまな体験が可能です。未来の自分に向かうため、積極的に「ハタツ体験」を試してみましょう。



OB・OGセミナー「ビール会社で働く」(2012年2月開催)

キャリア作成スケジュール

	目標	アドバイス
1年生	自己探索	新しい環境に早く慣れて、興味のあることにどんどんチャレンジしてみましょう。自分の未来への可能性を広げておく時期です。勉強・部活動・ボランティア活動・アルバイトなどバランスを取りながら大学生活を楽しみ、充実感を得ておきましょう。1年生後期のコース選択、2、3年生からのゼミ(研究室)選択は、進路選択の一つと考えて、自分の適性・興味・関心をふまえて決定しましょう。また将来に向けてインターンシップやキャリアセミナーなどに参加し、社会で働くイメージを身近にしておくことも大切です。
2年生	挑戦と達成	
3年生	進路の模索と選択	就職活動の準備から本番へ向かう時期です。今までの自分を振り返り、興味・関心・能力・価値観などを明確にしておく必要があります。全学部向け、文系・理系向け、発達科学部独自のものなど就職活動をサポートするためのガイダンスやセミナーが多く実施されます。情報収集が大切なポイントですから、自分が得られる支援・サポートを把握し、活用していきましょう。
4年生	進路決定	次第に進路が決まりますが、決定の時期は個人差があります。焦らず取り組む力が必要です。就職活動のゴールは、内定ではありません。自分自身が社会の中で活躍出来ることです。どうすれば自分を社会で活かすことが出来るかを考え、社会と自分をつなぐ重要な時期です。
博士課程前期1年生	研究スタイルの構築	博士課程前期の学生にとって、この時期の就職活動は、修士論文作成のための研究との両立が大変です。しっかりスケジュールを把握し、計画的に進めましょう。
博士課程前期2年生	研究を踏まえた進路選択	進路が決定すると、残りの大学生活を研究に集中できます。学生生活の集大成として研究に取り組むことになるでしょう。また博士課程後期の進路を選択する学生は、後期課程修了後の自分の進路について考えておく必要があります。
博士課程後期1年生	研究スタイルの確立	
博士課程後期2年生	研究を活かした進路選択	大学院の博士課程後期は、将来像を明確にした上で、選択する道です。研究者、教育者など自分の研究スタイルや具体的な活動を模索しながら研究を進めることになります。社会からは、学部卒業生、修士修了生以上に実践力を求められることになります。社会人としての基本的な能力(社会人基礎力)やビジネスマナーなどをしっかり身につけておきましょう。また、自分の進路については、より積極的な行動が必要です。自分の目指す方向に関係する活動には自ら関わっていきましょう。
博士課程後期3年生	進路決定	

個々の個性に対応した相談

個別相談

シート添削

模擬面接

エンタリー

インターンシップ

キャリアサポートセンター

学生の個性に対応したキャリア形成をサポート

発達科学部キャリアサポートセンターは、A棟1階D-Roomの西側にあり、そこでキャリア形成支援を行っています。「自分の人生をどう生きるか」を考えるプロセス、そのものをキャリア形成と捉え、新入生から大学院生にいたるすべての学生を対象として、就職活動の支援だけでなく、現在から将来へ、学生自らが勇気を持って一步を踏み出すサポートを行っています。

キャリアサポートセンターでは、キャリア形成や就職に関する各種資料を閲覧できます。資料は、キャリアに関する書籍、教員採用試験に関する過去問題や資料、求人票、公務員試験に関する資料、就職活動に関する書籍などを揃えています。また、キャリアに関するセミナー、ガイダンスでは、企業

説明会や就職活動トレーニングなど就職活動に役立つ内容だけではなく、キャリアセミナーやOB・OGセミナーなど長く将来にわたって有益な内容のものを検討し実施しています。キャリア形成に関する個人的な悩みや疑問、就職活動におけるエントリーシート添削・模擬面接には、専任のキャリアアドバイザー(CDA)が親身に対応しています。ここでは、学生が自分自身について深く考える時間が持てます。

一人ひとりの進路・職業選択に関連したきめ細かい支援を提供し、発達科学部の学生の個性に対応したキャリア形成を強力にサポートしています。

今を鍛える、未来への一步を踏み出すために

宮村聡子 キャリアディベロップメントアドバイザー

キャリアサポートセンターでは、キャリア形成支援を行っています。大学では、高校までの学ぶ姿勢とは違う、能動的で自発的な学びへの転換が必要です。学びだけでなく、大学では今までと違うことが多く、さまざまな場面で戸惑うことがあるでしょう。しかし、ほんの少しの勇気を持って新しいことにチャレンジすれば、どんどん未来は広がっていくのです。

発達科学部では、既成の学問から飛び出して他の分野とつながりを持つという特性を持っています。それだけにチャレンジしたことで失敗や挫折、焦燥感を感じることもあります。それらは、大切な未来への扉でもあります。何度でも納得いくまで取り組んでみることで、今の自分を鍛えておく、それが未来へとつながっていくのです。キャリアサポートセンターでは、自分の今について、未来について考えたいと思ったときに、一緒に悩み、考え、そして歩き始めるサポートをしています。それが未来への一步になるように。



教員採用試験対策セミナー・ガイダンス

おもに教員を目指す学生を対象に行っているセミナー・ガイダンスです。教員採用試験に関するガイダンスを始め、論文・教育時事・面接試験対策に関するセミナー、教員採用試験合格者や先輩教員との座談会を開催しています。

OB・OGセミナー

本学部・研究科の卒業生・修了生に、ご自身の学生生活や卒業後の様子など体験を踏まえたお話をうかがいます。2011年度は、「大学院生のココロガマエとココロザシ」「文部科学省で働く先輩から伝えたいこと」を開催しました。

キャリアセミナー・ガイダンス

学生の皆さんのキャリアについて考えるセミナー・ガイダンスを開催しています。2011年度は、現役の社会保険労務士による「女性の働き方」講座など、様々なセミナー・ガイダンスを開催しました。

企業説明会

本学部・研究科の在学生の特性に合う企業から人事担当者を招き、会社説明会を開催しています。人事担当者の方に直接質問できる機会です。2011年度は、合同企業説明会「神大内合説 in 発達科学」を開催しました。

就職活動支援セミナー

就職活動を直前に控える学生に対して、専門家の方を招き、就職活動に必要な知識やノウハウなどに関するセミナーを開催します。2011年度は、「就職活動支援トレーニング」「エントリーシートの書き方講座」「就職活動におけるマナー講座」を開催しました。

インターンシップ

インターンシップは、夏休み等を利用し、企業や官公庁等において就業体験ができる制度です。この制度を支援するため、ビジネスコミュニケーション・マナー研修などを開催しています。



MESSAGE 01

関西電力株式会社 勤務 湯浅 真紀 さん (2012年3月人間行動学科健康発達論コース卒業)

未来と繋がる瞬間「就職活動」

「発達科学部って何？」と聞かれたら、皆さんならどう答えますか？私の答えは「人の幸せを思うスペシャリスト集団」です。発達科学部では、すれ違う人皆が多様な分野のスペシャリストでありながら、全員の目指す先には共通して「人の幸せ」への熱い思いがあります。そんな仲間と切磋琢磨している間に、自分自身の中にもその思いが芽生えている事に、ある偶然を機に気付きました。3月11日。震災を機に私は「関西電力」を志望し始めます。「人の幸せ」が脅かされているその現実を前に「誰かが問題の渦中に飛び込まなくてはならない。」そう感じました。震災という偶然降り注いだ運命を、未来を切り開きかけに変えられたのも、発達で培った考え方、仲間の存在があったからです。そして、いつも「いつてらっしゃい」と私達の背中をそっと押してくれるキャリアサポートセンターは、私達と社会が繋がる「架け橋」になってくれたのだと思います。

MESSAGE 02

神戸大学大学院人間発達環境学研究所 大月 翔太 さん (2012年3月人間環境学科数理解環境論コース卒業)

将来のために選択肢を増やし、 真剣に考えることが大切

私はキャリアサポートセンター主催の教員採用ガイダンスで有益な情報を得ることができ、教員採用試験に向けた準備を計画的に行うことができました。発達科学部には教員を目指す学生も多く、この機会を通して教員採用試験を受験する仲間とも出会えました。学生が中心となって、面接や集団討論の練習などの勉強会を行い、不安なく受験に臨むことができました。私はもともと進学に関して否定的でしたが、私が受験する教員採用試験では大学院進学を理由に辞退した場合、2年後に個人面接のみの特別選考枠で受験する機会が与えられることを知り、教員採用試験の直前になり進学するメリットを真剣に考えるようになりました。高校の数学教員として生涯現場で働くことを考えて、進学しさらに数学を勉強することを決意しました。教員採用試験と大学院入試に全力で取り組み、両方の試験に無事合格することができました。発達科学部には様々な専門分野や進路の選択肢が考えられます。いろいろな可能性を自分自身が真剣に考え選択肢を増やすことで、将来の自信に繋がると思います。



MESSAGE 03

阪和興業株式会社 勤務 藤谷 真理 さん (2012年3月人間表現学科表現創造論コース卒業)

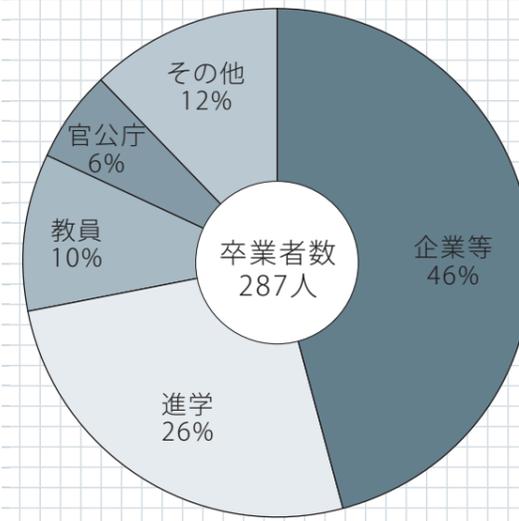
自分自身をじっくりみつめることが 未来への鍵

私は人間表現学科で個性豊かな仲間と、音楽・美術・舞踊を融合する総合芸術を学び、非常に色濃い4年間を過ごすことができました。就職活動を始めた頃は、社会人になってからも何らかの形で芸術に携われる環境にいたいと思い、自分のキャリアを考えていきました。しかし、最初は「キャリア」の言葉にピンと来ませんでしたが、キャリアサポートセンターでカウンセリングを受けるにつれて、次第に明確になってきました。幼少期から振り返ったり、何に価値を置いているのか考えることで、自分とじっくり対話する習慣が身につくにつれ、将来なりたい自分の像が明らかになっていきました。自分の軸がしっかりし、自分を見つめることができる癖がつくと、就職活動中に行き詰った時も自分を前向きに立て直すことができます。社会に出てからも役立つ習慣を身につけるきっかけを下さる、感謝の気持ちでいっぱいです。バリバリと働きながらも、芸術にも携わり、学生以上に色鮮やかな日々を送れるよう自分を磨いていきます！



進路データ

卒業者の進路状況



(平成22年度卒業者のデータ)

卒業者の就職先(業種別)一覧

業種	人数	業種	人数
建設業	3名	小売業	12名
食料品・飲料・たばこ・飼料	2名	金融・証券・商品取引	18名
繊維工業・衣服・その他繊維製品製造業	2名	保険業	5名
出版印刷関連事業	3名	不動産業	2名
化学工業・石油・石炭製品製造業	4名	学術研究・専門・技術サービス業	4名
鉄鋼業・非鉄金属・金属製品製造業	1名	飲食店・宿泊業	1名
一般機械器具製造業	1名	生活関連サービス業・娯楽業	3名
電気・情報通信機械器具製造業	3名	医療業・保険衛生	1名
輸送用機械器具製造業	1名	社会保険・社会福祉・介護事業	4名
精密通信器具製造業	1名	教育学習支援業	6名
その他の製造業	1名	複合サービス業	1名
電気・ガス・熱供給	4名	その他のサービス業	7名
情報通信業	29名	学校教育(教職員)	31名
運輸業・郵便業	3名	国家公務	3名
卸売業	6名	地方公務	16名

(平成22年度卒業者のデータ)

資格免許取得者数

(平成22年度卒業者のデータ)

人間形成学科	取得資格
心理発達論 コース	・小学校教諭一種免許状 3名 ・高等学校教諭一種免許状(公民) 1名 ・幼稚園教諭一種免許状 2名 ・特別支援学校教諭一種免許状 1名
子ども発達論 コース	・小学校教諭一種免許状 7名 ・幼稚園教諭一種免許状 10名 ・特別支援学校教諭一種免許状 1名
教育科学論 コース	・小学校教諭一種免許状 2名 ・中学校教諭一種免許状(社会) 1名 ・幼稚園教諭一種免許状 2名 ・特別支援学校教諭一種免許状 1名 ・学芸員 1名
学校教育論 コース	・小学校教諭一種免許状 24名 ・中学校教諭一種免許状(社会) 1名 ・中学校教諭一種免許状(数学) 2名 ・高等学校教諭一種免許状(数学) 2名 ・高等学校教諭一種免許状(公民) 1名 ・幼稚園教諭一種免許状 8名 ・特別支援学校教諭一種免許状 4名

人間行動学科	取得資格
健康発達論 コース	・小学校教諭一種免許状 1名 ・中学校教諭一種免許状(保健体育) 1名 ・高等学校教諭一種免許状(保健体育) 1名 ・幼稚園教諭一種免許状 1名
行動発達論 コース	・学芸員 1名
身体行動論 コース	・小学校教諭一種免許状 1名 ・中学校教諭一種免許状(保健体育) 6名 ・高等学校教諭一種免許状(保健体育) 6名 ・高等学校教諭一種免許状(地理歴史) 1名

人間表現学科	取得資格
表現文化論 コース	・中学校教諭一種免許状(音楽) 1名 ・高等学校教諭一種免許状(音楽) 1名 ・学芸員 1名
表現創造論 コース	・小学校教諭一種免許状 1名 ・中学校教諭一種免許状(音楽) 4名 ・中学校教諭一種免許状(美術) 1名 ・高等学校教諭一種免許状(音楽) 4名 ・高等学校教諭一種免許状(美術) 1名 ・幼稚園教諭一種免許状 1名 ・学芸員 1名
臨床・感性表現論 コース	・高等学校教諭一種免許状(美術) 1名 ・学芸員 3名

人間環境学科	取得資格
自然環境論 コース	・中学校教諭一種免許状(理科) 7名 ・高等学校教諭一種免許状(理科) 11名 ・学芸員 1名 ・環境再生医資格 2名
数理解環境論 コース	・中学校教諭一種免許状(数学) 12名 ・高等学校教諭一種免許状(数学) 14名 ・特別支援学校教諭一種免許状 1名
生活環境論 コース	・中学校教諭一種免許状(家庭) 1名 ・高等学校教諭一種免許状(家庭) 2名
社会環境論 コース	・小学校教諭一種免許状 1名 ・中学校教諭一種免許状(社会) 5名 ・高等学校教諭一種免許状(地理歴史) 5名 ・高等学校教諭一種免許状(公民) 6名 ・特別支援学校教諭一種免許状 1名 ・学芸員 2名 ・環境再生医資格 2名

発達支援論 コース	取得資格
発達支援論 コース	・小学校教諭一種免許状 2名 ・幼稚園教諭一種免許状 1名 ・特別支援学校教諭一種免許状 1名

発達キャンパス

01 A棟

人間発達環境学研究所・発達科学部の正門に入って正面に見えるのがA棟です。1階にはD-Room、HCセンター、キャリア・サポートセンターが、2階には図書館と事務室があります。事務の中でも教務学生係は、授業科目の履修、試験、成績、進級、卒業などに関する事項や教育実習、教員免許・各種免許に関する事項、さらに学生生活に関するものを取り扱っています。また、授業料免除や奨学金、各種証明書の発行、施設の利用案内や留学に関するものなども取り扱っていますので、足を運ぶことが多い場所です。3階から7階までは教室や実験室、研究室になっており、ゼミ配属が行われる3年生以上になると利用することが多くなるでしょう。6階にあるカフェ



「アゴラ」は憩いの場です。その眺望は必見。

02 B棟

正門から入って西側のタイルモザイクが壁に施されている棟がB棟です。この壁画は人間表現学科の岸本吉弘先生の創作によるものでROBIN (FOR DOR)と名付けられています。「ロビンとはヨーロッパコマドリのこと。この鳥には古くから献身的利他的な伝承が数多くある。腹部あたりの鮮やかな赤色はその恩恵により生じたもので、自らを最高に美しく彩る。ロビンの如き若き実践者にこの作品を贈りたい。茶は大地、青は天空を表し、重層的な構図は知の蓄積を示唆する。此処で生まれ出る叡智が実践として無限にまた永遠に拡がらんことを切に願う。」との銘が刻まれています。1階にはテラスのようにテーブルとイスが置いてあり、授業の合間に友達と雑談を楽しんだり、ミーティングをしている学生がたくさんいます。その奥には



中庭があり、季節に応じて草木や花の香りを楽しむことができます。大教室から演習室までさまざまな教室のあるB棟は教室棟とも呼ばれています。

03 C棟

主に人間表現学科の学生と音楽関連のクラブをしている人が利用します。音楽棟でもあるC棟には研究室やピアノのある個室などがあります。



04 G棟

理系の先生方の研究室と実験室が並ぶG棟は南側にビオトープ、棟の入口には動物の剥製などが置いてあります。



05 体育館、プール

体育館、プールともに2010年に改装されて、明るくきれいになりました。体育館にはトレーニング室、シャワー室が整備され、使用することができます。更衣室もきれいになって、クラブ活動で頻繁に使う学生たちの評判も上々です。無線LANも整備されていますので、研究する上でも便利になりました。



06 食堂・売店

各種定食や麺類・どんぶり・カレーなどだけでなくバイキングの昼食があるのが特色となっています。自分ではいいおかずをお皿にのせてレジに持っていくと重さによって値段が決まるのですが、日によってたとえば333gとか222gなどの3ケタの数字が同じになると無料という企画が人気です。何も考えずに好きなものをお皿にのせて持っていったら333gで無料になったという経験者もいて、学生にとってはちょっとしたお楽しみになっています。外にテラス席もあり、団らん場所となっています。このキャンパスにある大学生協の売店と食堂の特色は、とにかく働いている方々が優しいこと。学生の憩いの場です。



阪急神戸線「六甲」駅、JR神戸線「六甲道」駅、阪神本線「御影」駅のいずれかより、神戸市バス36系統「鶴甲団地」行き（「鶴甲2丁目」行きでも可）に乗り、「神大発達科学部前」バス停で下車してください。発達科学部・人間発達環境学研究所は、バス停より徒歩すぐにあります。

施設紹介

07 図書館(人間科学図書館)

人間発達環境学研究科・発達科学部には神戸大学附属図書館のひとつ、人間科学図書館があります。館内の開架閲覧室には、教員による推薦図書や教科書、辞書・辞典や地図などの参考図書が並び、新着図書や雑誌のコーナーがあります。研究内容に対応した幅広い分野の図書、雑誌、AV資料などを所蔵し、学術的に貴重な図書や分野ごとの図書は三層の書庫に配架するなど、勉強・研究を行う上で使用しやすい配置になっています。閲覧室には個人用のデスクやグループで利用できる学習室が用意され、また情報検索コーナーのPCからは図書館のWebサイトを使って、情報を検索したり、Webページを閲覧したり、電子使用することができるようになっています。無線LANも利用でき、視聴覚資料のDVDなどもAVブースで視聴できます。レポート作成や論文作成の強い味方です。

図書館では専門ごとに文献検索ガイダンスを開催するなど、学部生・大学院生の学習・研究を強力にサポートしてくれています。



08 情報教育設備室(IE: Room for Information Education)

RIE(リエ)と呼ばれるこの施設は、自由にPC(iMac)を利用できる教室です。この教室で授業も行われますが、レポート作成や印刷にも使用できます。PCに詳しいスタッフが待機していますので、もしトラブルが発生しても安心です。PCやネットワークに関すること、神戸大学キャンパスの各所で使える「全学用無線LANサービス」の接続方法など、何でも気軽に相談することができます。



09 D-Room(発達ホール)

A棟正面玄関横に、D-Roomという愛称で呼ばれる、学生や一般の方向けに開放されているスペースがあります。本学部・研究科の行事予定やお知らせが流れているスクリーンもあり、友達とおしゃべりをしたり、昼休みにお弁当を広げて食事をしたり、グループでミーティングをしたり、ノートパソコンを持ち込んでレポートを書いたり、いろいろなことに利用できるフリースペースとなっています。



10 カフェ「アゴラ」

“アゴラ”とは政治や哲学について自由に議論する市民生活の中心の場を示す古代アテネの言葉です。A棟の6階に位置し、大阪湾と神戸の街並みを一望することができます。お昼前から夕方にかけて開店し、学生たちや先生方の交流スペースとして活用されています。このカフェは一般の方も自由に入出入りできますので、大学と社会の架け橋ともいえる場になっています。

ここでは、障がいのある人たちがスタッフや実習生として働いており、実習生にとっては職業訓練の場、対人支援に関心をもつ学生にとっては支援実践の場にもなっています。

マスターの淹れるコーヒーは絶品。抜群の眺望を楽しみながらゆったりとした時間を過ごすことができます。

11 実習観察園

本学部の南西にあるバス通りに面したところに実習観察園があります。植物栽培に関する教育・研究を行う施設です。授業では、教室での座学だけでなく、この実習観察園において作物、野菜、花卉、果樹の栽培と管理に関する実習を受けることができます。また、本学部・研究科の建物周辺の環境を整備するために、玄関やアプローチの花壇の維持管理も担っています。温暖化防止策としてその有効性が注目されている屋上緑化や壁面緑化に関する研究、さらに、野菜栽培を通じて障がい者が社会とかかわることを目的とする「みりのりのプロジェクト」などの地域連携活動もなされています。

